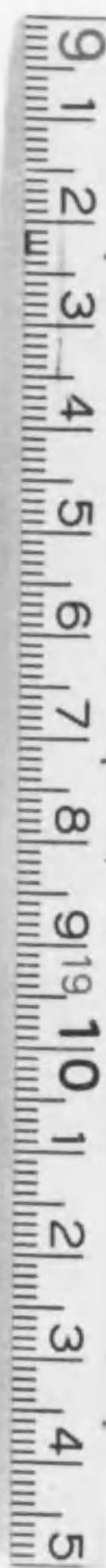
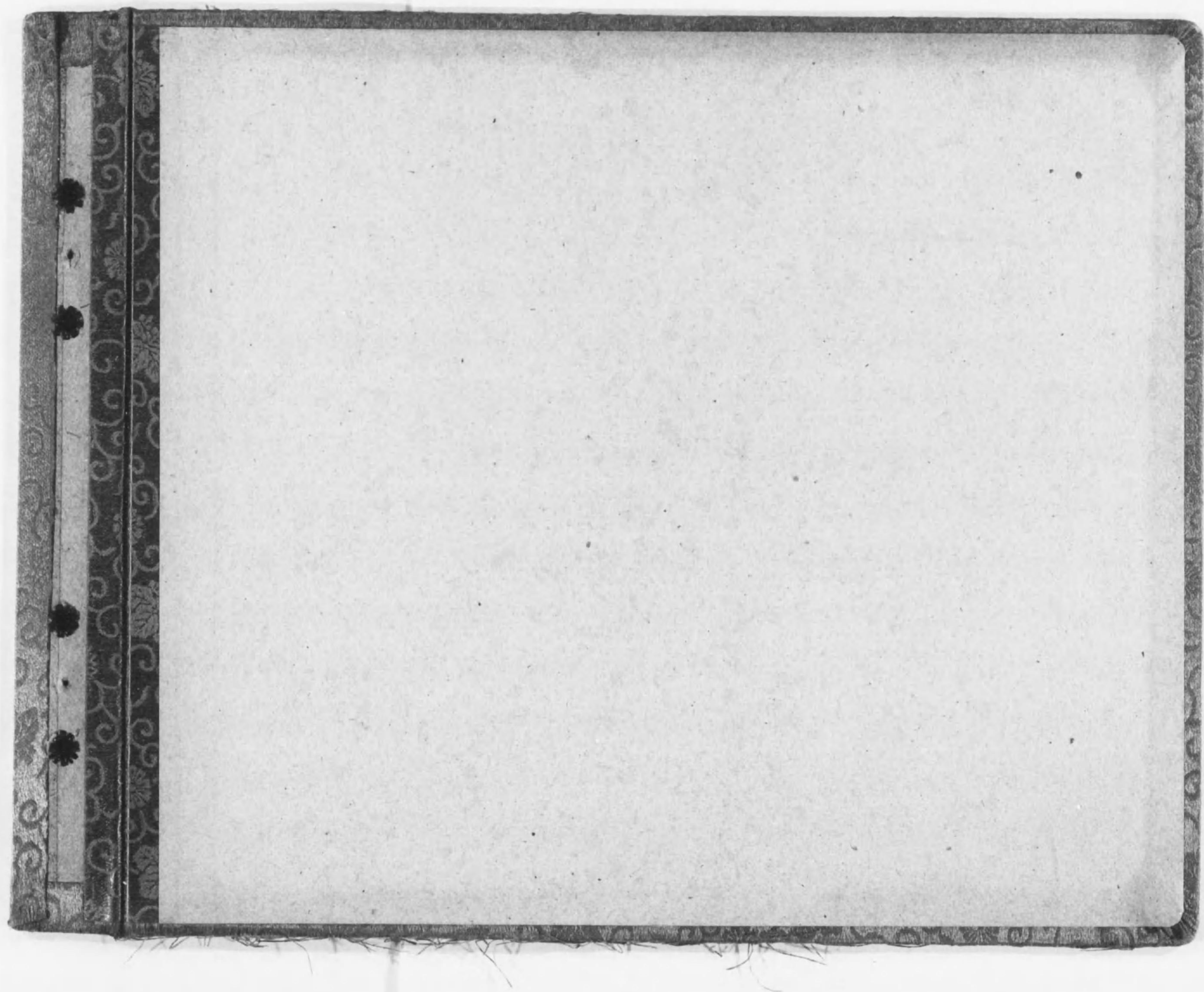


皇紀二千六百年  
景光帖

候入







皇紀二千六百年  
景光帖

信濃每日新聞社編



朕惟フニ神武天皇惟神ノ大道ニ  
遵ヒ一系無窮ノ寶祚ヲ繼ギ萬世  
不易ノ丕基ヲ定メ以テ天業ヲ經  
綸シタマヘリ歷朝相承ケ上仁愛  
ノ化ヲ以テ下ニ及ボシ下忠厚ノ  
俗ヲ以テ上ニ奉ジ君民一體以テ  
朕ガ世ニ逮ビ茲ニ紀元二千六百  
年ヲ迎フ  
今ヤ非常ノ世局ニ際シ斯ノ紀元  
ノ佳節ニ當ル爾臣民宜シク思ヲ  
神武天皇ノ創業ニ騁セ皇圖ノ宏  
遠ニシテ皇謨ノ雄深ナルヲ念ヒ  
和衷戮力益々國體ノ精華ヲ發揮  
シ以テ時艱ノ克服ヲ致シ以テ國  
威ノ昂揚ニ勗メ祖宗ノ神靈ニ對  
ヘンコトヲ期スベシ

御名 御璽

昭和十五年二月十一日

## 勅語

茲ニ紀元二千六百年ニ膺リ百僚眾庶相會シ之レカ慶祝ノ典ヲ舉ケ以テ肇國ノ精神ヲ昂揚セントスルハ朕深ク焉レヲ嘉尙ス

今ヤ世局ノ激變ハ實ニ國運隆替ノ由リテ以テ判カルル所ナリ爾臣民其レ克ク嚮ニ降タシシ宣諭ノ趣旨ヲ體シ我カ惟神ノ大道ヲ中外ニ顯揚シ以テ人類ノ福祉ト萬邦ノ協和トニ寄與スルアラシクコトヲ期セヨ

昭和十五年十一月十日

## 勅語

爰ニ紀元二千六百年慶祝ノ醮ニ臨ミ各國代表者竝ニ朝野ノ代表者ト歡ヲ罄クシ樂ヲ偕ニスルハ朕ノ深ク憚フ所ナリ

今ヤ一大世變ニ際會スルモ平和ノ日ナラスシテ恢復セラレ萬邦ト俱ニ其ノ慶ニ賴ランコトヲ望ム

昭和十五年十一月十一日

## 目次

題簽 光明皇后御筆「杜家立成雜書要略」より謹集

- 一、紀元二千六百年紀元節に賜りたる詔書
- 二、紀元二千六百年式典に賜りたる勅語  
紀元二千六百年奉祝會に賜りたる勅語
- 三、紀元二千六百年式典參列謹記
- 四、紀元二千六百年奉祝會に參列して

小坂 武雄  
鈴木 登氏 謹話  
小坂 武雄 謹記

## 寫眞

- 一、天基草創の地・大和橿原神宮
- 二、紀元二千六百年記念式典と奉祝
  - 1 天皇皇后兩陛下の御前に近衛首相壽詞奏上
  - 2 天皇皇后兩陛下式殿に臨御・一億民草の萬歲奉唱を受けさせ給ふ
  - 3 この國この日の感激・記念式場に於ける萬歲奉唱
  - 4 紀元二千六百年奉祝會總裁御代理高松宮殿下祝詞を奏上し給ふ
  - 5 天皇・皇后兩陛下には長くも野戰料理を御前に奉祝舞樂「悠久」を天覽台覽遊ばさる
  - 6 竹の園生の御榮え
  - 7 整然と式場に入る光榮の參列者 御前に奏す奉祝舞樂「悠久」 奉祝會場にて參列者の入場前酒饌と記念品の配列急ぐ
  - 8 式場入口附近帝都ビル街の夜景 夜の式場入口附近を參觀する人々 式場入口の篝火に奉仕する少年團員
  - 9 式典の日道ゆく市民も萬歲奉唱 式後許されて式殿を拜觀する市民 帝都奉祝の花電車
  - 10 日比谷公會堂に於ける東京市民奉祝大會「浦安の舞」 其夜東京市民の奉祝大提灯行列
  - 11 支那廣東に於ける奉祝假裝自動車隊行進 上海特別陸戰隊の奉祝行進 南京に於ける西尾司令官以下將兵の萬歲 朝鮮の子供達も叫ぶ萬歲 滿洲新京に於ける關東軍司令部梅津司令官以下將兵の皇居遙拜
  - 12 式典參列専用車長野驛を發す 日比谷公園豫備集會所に集つた長野縣參列者 式場入場前の集會所に於ける長野縣代表婦人參列者 晴ればれと式場へ進む長野縣代表參列者
  - 13 長野市民の萬歲奉唱 松本市の奉祝大會 上田市の旗行列
  - 14 奉祝會學生齊唱團本縣女子代表 同上男子代表 東部第五十部隊の奉祝演藝大會場にて 同上舞臺風景 上田市民萬歳の街頭風景

- 15 長野市で仲よく隣組の旗行列 奉祝講話を聴く上田市小學生 長野市民奉祝大會「浦安の舞」岩村田町の町民萬歳
- 16 伊那町大橋上を行進する伊那町の奉祝旗行列 飯田市奉祝會 松本市民記念式
- 17 須坂小學校の奉祝「浦安の舞」 松代町象山神社へ繰込む奉祝行列 子供部隊も出動大町の旗行列 飯山町學生群の萬歳
- 18 上諏訪町民の奉祝式 飯山町警防團の奉祝山車 須坂町小學兒童の旗行列 須々岐水神社頭に於ける屋代町民の萬歳

### 三、顧るこの一年

- 1 坂下門前一般無資格者の記帳 建國奉祝武者行列の可愛い子供達 東京市民の建國奉祝大行列 紀元節祝詞奏上のため参内する自動車行列 同上二重橋前東京市民の萬歳
- 2 長くも天皇陛下には紀元二千六百年を榎原神宮に御報告遊ばし給ふ
- 3 紀元二千六百年御慶祝の爲滿洲國皇帝陛下御來朝、御出迎への天皇陛下と東京驛頭にて御握手を遊ばす 滿洲國皇帝陛下明治神宮御参拜
- 4 御親閱に輝く「くろがね」の傳容 各處一齊に探照燈照射 御親閱を賜ふ天皇陛下 御召艦「比叡」へ進む御召艦
- 5 大政翼賛會發會式に於ける萬歳 近衛大政翼賛會總裁の挨拶
- 6 日獨伊三國同盟祝賀會に於ける松岡外相・獨・伊大使を中心の乾杯 日比谷公會堂に於ける大政翼賛・三國同盟祝賀國民大會の萬歳 東京市中を行進する同上祝賀行列
- 7 縣下各地の日獨伊三國同盟締結・翼賛運動發程祝賀・岡谷市民大會 上田市公會堂にて記念講演聴く人々 松本市民大會 長野市民大會 須坂町民大會 飯田市民大會
- 8 聖戰下四年日獨國神社秋の臨時大祭に天皇陛下行幸 招魂式當夜の遺族達 天皇皇后兩陛下の行幸を御待ち申上ぐる遺族 近衛首相以下の閣僚も行幸を御待申上ぐ
- 9 靖國神社大祭の日長野縣護國神社に於ても祭典を舉行 伊那町護國神社の慰靈祭 縣護國神社に参拜する白衣勇士 英靈を迎ふる縣護國神社の篝火 長野縣護國神社祭典遺族案内所
- 10 紀元二千六百年記念陸軍觀兵式を御親閱遊ばす大元帥陛下
- 11 陸軍觀兵式の偉觀戰車の大行進 觀兵式場に拜す宮様方 同上參觀の各國武官 同上閣僚 同上遺家族
- 12 教育勅語發五十年記念式に於て御名代閣院宮殿下に奉答文を奏上する橋田文相 同上長野師範附屬小學校に於ける記念式
- 13 帝國議會開設五十周年記念式に於て天皇陛下の御前に式辭を朗讀する松平貴族院議長 この日一入輝く白雲の帝國議會講事堂
- 14 日支條約調印の歴史的光景 華北政務委員會の祝賀會 調印後汪主席の發表 同上阿部大使の發表
- 15 長くも皇后陛下東京女高師に行啓特に同校幼稚園にて勇士の遺兒達に御いつくしみの御會釋を賜ふ
- 16 大政翼賛會初の臨時中央協力會議開く 同上長野縣支部結成への常務委員十氏
- 17 大政翼賛會長野縣支部結成式の光景 支部主宰常務委員鈴木知事式辭 決意を眉宇に刻む参列者 二十錢のパン食で翼賛辨當

### 縣下の諸行事

#### 四、榎原神宮聖火奉納繼走

- 1 榎原神宮にて聖火拜受の西澤大會執行委員長 榎原神宮神符と神社獻木骸骨を拜受して長野驛に着いた新井大會副會長と之を迎へた長野市民代表
- 2 諏訪上社に於ける遷火祭 遷火祭の修祓 小坂大會會長祭文を奏上 遷火祭に於て元聖火を奉仕隊員に授與 元聖火上社より下社秋宮に向ふ 諏訪下社に於ける點火
- 3 諏訪湖畔を進む聖火 諏訪手長神社發程の聖火 上伊那郡矢野神社嚴櫃獻植 和田峠頂上の

- 13 帝國議會開設五十周年記念式に於て天皇陛下の御前に式辭を朗讀する松平貴族院議長 この日一入輝く白雲の帝國議會議事堂
- 14 日支條約調印の歴史的風景 華北政務委員會の祝賀會 調印後汪主席の發表 同上阿部大使の發表
- 15 長くも皇后陛下東京女高師に行啓特に同校幼稚園にて勇士の遺児達に御いつくしみの御會釋を賜ふ
- 16 大政翼贊會初の臨時中央協力會議開く 同上長野縣支部結成への常務委員十氏
- 17 大政翼贊會長野縣支部結成式の風景 支部主宰常務委員鈴木知事式辭 決意を眉宇に刻む参列者 二十錢のパン食で翼贊辨常

### 縣下の諸行事

#### 四、権原神宮聖火奉納繼走

- 1 権原神宮にて聖火拜受の西澤大會執行委員長 権原神宮神符と神社献木殿櫃を拜受して長野驛に着いた新井大會副會長と之を迎へた長野市民代表
- 2 諏訪上社に於ける遷火祭 遷火祭の修祓 小坂大會會長祭文を奏上 遷火祭に於て元聖火を奉仕隊員に授與 元聖火上社より下社秋宮に向ふ 諏訪下社に於ける點火
- 3 諏訪湖畔を進む聖火 諏訪手長神社發程の聖火 上伊那郡矢彦神社殿櫃献植 和田峠頂上の引繼ぎ 大門より長久保新町へ引繼ぐ 同上長久保新町女子青年團員聖火奉持者に茶菓接待
- 4 輕井澤二手橋附近の聖火奉迎籌火 碓氷峠國境附近を進む聖火 南佐久郡新海三社神社の聖火奉納式典 上伊那郡宮田・赤穂引繼ぎ 飯田市白山神社に参入の聖火
- 5 木曾吾妻村役場前にて分火うける人々 木曾須原にて女工さん達の聖火奉迎 長野縣護國神社に聖火奉納 碓氷峠頂上熊野社に奉納 小縣郡生島足島神社の奉迎群
- 6 上田市科野大社へ聖火到着 埴科郡坂城神社の殿櫃献植 千曲川岸橋上にて坂城より力石に引繼ぐ 松本市深志神社の奉納式 南安曇郡穂高神社の聖火奉納
- 7 雨中の象山神社に走込む聖火 更級郡八幡神社雨中の奉迎者 上水内郡北小川・日里引繼ぎ 下高井郡高社神社を走出す 下高井郡中野町・延徳村引繼ぎ 南・北安曇郡境引繼ぎ
- 8 飯山町附近雪中を走る聖火 上水内郡柏原村より戸隠へ 聖火戸隠中社大鳥居前を進む 山道に堵列聖火待つ小學生達 奉迎の長野市茂菅區民
- 9 長野市中央通を肅々進む聖火 信濃毎日新聞社前を出發する聖火 城山原頭の行事終了式場にて 城山縣社に聖火をおさめ行事終了を奉告す

#### 五、善光寺忠靈殿體育大會

- 1 善光寺忠靈殿前に於ける開會式 英靈に對する法要 選手代表の宣誓 大會役員四氏
- 2 肉弾相撃つ相撲 青春の血躍る柔道 郷軍の意氣・銃劍術 颯爽薫綠を戴る劍道
- 3 一般弓道 女子弓道 昭和女性の華・薙刀の團體演技 小坂委員長より優勝旗授與 譽れの優勝旗を得て輝く人々

#### 六、旭日禮拜運動

- 1 松本陸軍病院の旭日禮拜 飯山町民の旭日禮拜 長野市民の旭日禮拜 大町々民の旭日禮拜 上諏訪町民の旭日禮拜

#### 七、長野縣護國神社奉獻郡市青年學校對抗驛傳競走

- 1 長野市護國神社前の發程式 同上選手代表宣誓 長野市城山グラウンドをスタートす 長野市中央通を走る選手 丹波島橋附近を走る
- 2 丸子で中繼する上水内選手 篠ノ井中繼所へ一位で走込む更級選手 難關和田峠を越ゆる上小選手へ武石小學生の應援 第二日目下諏訪のスタート 第一着ゴールインの上小選手 遂に優勝した上小チーム 小坂本社常務取締役より第一位上小チームへ優勝旗授與





飯田	岡谷	上田	松本	長野	下野	上野	下水	高井
市	市	市	市	市	郡	郡	郡	郡
.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....
112	112	113	114	111	110	110	110	110

### 紀元二千六百年式典次第

一、整列 (式典中全員起立)	參列者一同
一、天皇 皇后兩陛下 出御	陸軍軍樂隊
奏樂「君か代」	陸軍軍樂隊
一、諸員最敬禮	參列者一同
一、國歌「君か代」奉唱	海軍軍樂隊
一、壽詞奏上	參列者一同
一、勅語を賜ふ	海軍軍樂隊
一、紀元二千六百年頌歌齊唱	東京音樂學校生徒
一、萬歲奉唱「三聲」	海軍軍樂隊
一、諸員最敬禮	參列者一同
一、天皇 皇后兩陛下 入御	陸軍軍樂隊
奏樂「君か代」	海軍軍樂隊
一、散會	

### 紀元二千六百年奉祝會次第

一、整列 (全員起立)	參列者一同
一、天皇 皇后兩陛下 出御	陸軍軍樂隊
奏樂「君か代」	陸軍軍樂隊
一、諸員最敬禮	參列者一同
一、國歌「君か代」奉唱 (全員起立)	海軍軍樂隊
一、奉祝詞奏上	參列者一同
一、勅語を賜ふ	海軍軍樂隊
一、開宴	海軍軍樂隊
1 紀元二千六百年奉祝會制定	宮內省
2 陸軍戶山學校軍樂隊作曲	陸軍省
吹奏樂「大歡喜」	陸軍省
3 吹奏樂「紀元二千六百年頌歌行進曲」	海軍省
吹奏樂「紀元二千六百年奉祝會制定	海軍省
吹奏樂「奉祝歌」	海軍省
4 吹奏樂「奉祝歌」	海軍省
一、奉祝國民歌「紀元二千六百年」齊唱	全國學生代表
一、萬歲奉唱「三聲」 (全員起立)	參列者一同
一、諸員最敬禮	參列者一同
一、天皇 皇后兩陛下 入御	陸軍軍樂隊
奏樂「君か代」 (全員起立)	陸軍軍樂隊
一、散會	

## 紀元二千六百年式典參列謹記

### み民われ……の感激

信濃毎日新聞社常務取締役

小坂 武雄

私は紀元二千六百年奉祝會役員として參列の光榮に浴したのでありますが、長野縣の席は幸ひに玉座の右寄り正面に近かつたので、麗しき龍顔鳳姿をよく拜することが出来ましたのは一段の光榮でありました。

お式はいとも嚴肅に進んで、正午前十一時二十五分全國津々浦々にまで一齊の萬歳奉唱となり、眞に目出度き極みでありました。二千六百年の昔、神武天皇より祭政の司を命ぜられた天種子命の子孫たる近衛公爵が、今内閣總理大臣として壽詞を奉るを拜見し、私は思ひを遠く二千六百年の古に馳せ、榎原の齋の宮居にあるの思ひを致しました。

勅語を賜はる玉音は申すも畏きことながら朗々として御元氣に満ち給ひ、これぞ八紘四海に宣はせ給ふ御言葉と拜せられ、たゞ／＼ありがたく、御民われ生けるしるしありと感涙に咽び、ただ此の大君の御爲にと深く心に誓ひ奉るばかりでありました。

この日空に一片の雲もなく晴れ渡つて居りましたが、お式終了して入御の後、始めて我に復り、仰ぎ見れば大内山の翠の梢に、繪のやうに瑞雲がフンワリと浮び、之れぞ榮ゆく御代の瑞祥と拜された事も目出度き極みでありました。

## 紀元二千六百年奉祝會に參列して

### ヒシ／＼胸に迫る幸福感

長野縣知事 鈴木 登氏 謹話

何と云ふ雄大莊嚴なる國民的式典でありませうか。畏くも式殿玉座に起たせ給へる天皇陛下の神々しくも御凛々しき御姿を拜して、力強い感激に打たれ覺えず目頭が熱くなるのであります。今更ながら天照大神様の御延長に亘らせ給ふ現人神にましますことの強く思はれて、神皇正統記にある「大日本は神國なり」と云ふ言葉が幾度か頭の中を往來するのであります。式場を埋める参列者は内外人無慮八萬人とか云ふことで、内外地の津々浦々は云ふに及ばず在外同胞、滿洲、支那、その他友邦代表も奉祝の赤誠を捧げ、参列を差許されて居る盛儀を見るにつけ、國運隆々皇化は内外に及んで居る八紘一宇の聖世治下に生れ合せた幸をヒシ／＼と感ぜずには居られません。四年越の大戦争をしてゐる國として、華美の點こそありませんが、それだけ剛健莊嚴なる斯くも大規模なる國家的奉祝式典を行ふことは、國力に偉大なる底力のあることを證するもので、果國一致の力をもつてすれば、今後如何なる困難も必ず打開出来ないことはないといふ感じに打たれたのであります。私は愈々國體の本義に徹し、祖先靈忠の傳統精神を磨き滅私奉公臣子の分を盡し、以て聖恩に報い奉ることを深く期してゐる次第であります。

### 實にや一君萬民の國體

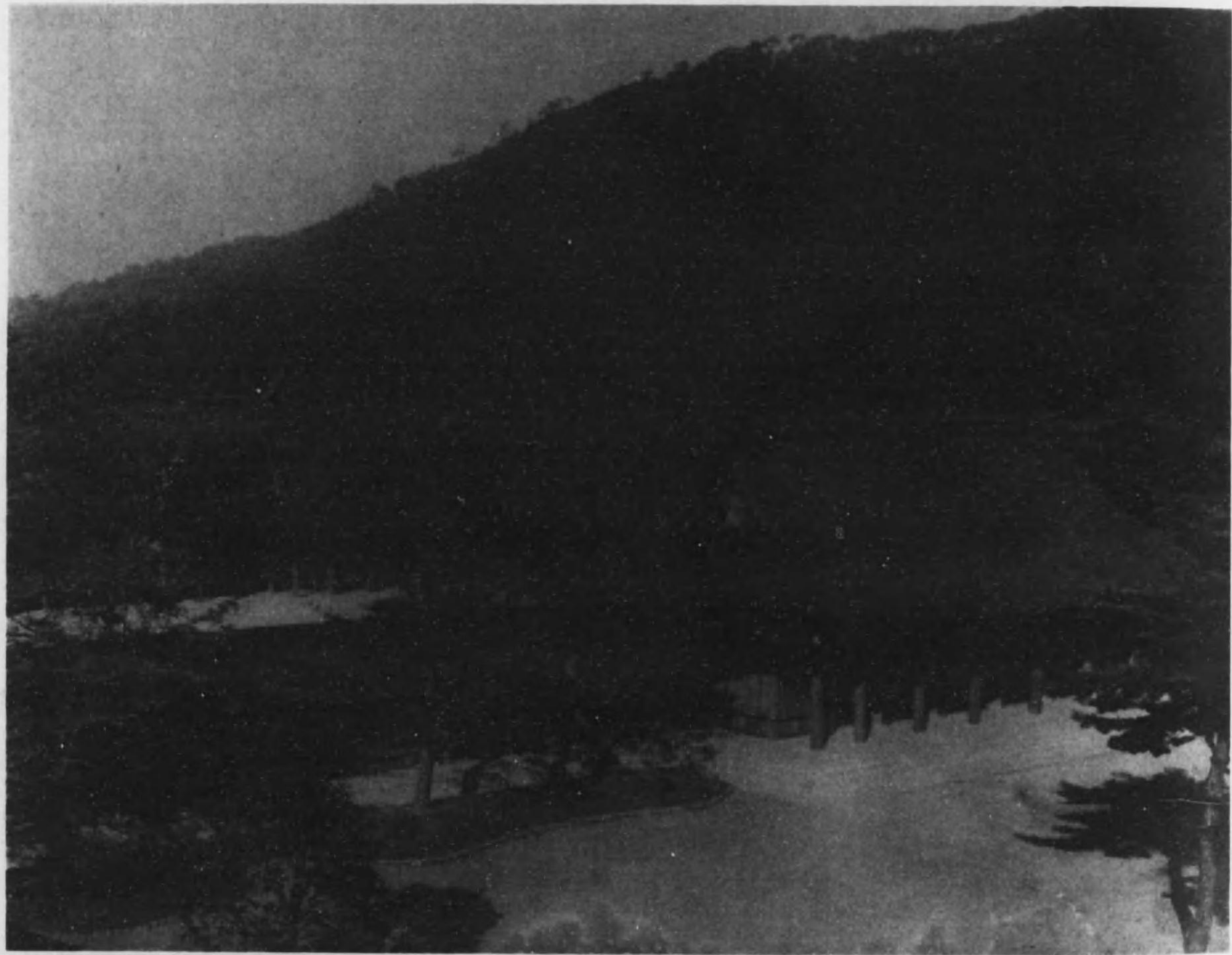
信濃毎日新聞社常務取締役 小坂武雄 謹記

けふも亦空紺碧に晴れ渡つた奉祝日和である。式場に入るとまう机の上には戴き物がズラリと並んで居る。その數五萬三千、宛ら白き花の園生である。この配給係長は元本縣學務部長の物部篤郎君であるが、九日の夜會つた時「何しろ大變ですぞ」と見るからに忙しさうであつたが、見事に間に合つたのを見て安心した。日像幟、月像幟もけふは三種の神器を型取つた五色の幟にかはつて居るし、玉座の御机の掛け布も派手やかな赤地金綱にかはり、式場全體の氣分がきのふの緊張嚴肅に比して何となくなごんで見える。併し愈々「出御」の聲を聞くと、瞬間、滿場聲を呑み吸一つなく、きのふと少しのかはりもない嚴肅なものとな變する。

けふの奉祝詞奏上は、奉祝會總裁秩父宮殿下に代はらせ給うて、海軍制服の皇弟高松宮殿下であつた。御聲實に凛々として力強く、長文の奉祝詞を奏上し給ふ文中「臣宜仁」と高らかに仰せ給ふを拜したが、實にや一君萬民の國體なるぞと有難く、参列のそこかしこに吸り泣きの聲、咽び泣きの聲が聞える。きのふも勅語を賜はる事を式場ではじめて承つたが、けふも亦しかり、重なる光榮に一同たゞ恐懼し奉る。勅語と申すものは、賜はる事を豫め付度すべきものでなく、其時になつて初めてわかるものと承つた。

昨日の儀式には龍委嚴然として身じろぎも遊ばされなかつたが、今日は開宴中、天機如何にも御靈しくお寛ぎ遊ばされ、お盃を重ね給うたやうに拜された。殊に全國選抜學生生徒隊の奉祝歌奉唱には、可愛い聲で精一杯に歌ふのが聞えるので、しば／＼龍顔を御右方幕外の合唱隊の方に向けさせ給ふを拜した。

御膳は兩陛下のみにて、各宮殿下方は白布を敷いた御机だけであつたやうに拜された。供御は吾々の儀と御同一と拜承するだに畏い。入御の後、外國大公使一同も白い風呂敷に包みありがたく戴いて歸る。たゞ宮様方のみはその儘お起ちになると、これも後から宮内官が包んで居つた。陽は暖かく御天守の白壁に照り映え、白雲一片、又もや式場の上に現れて瑞相を現はし、顧みれば大きな月が白く丸ビルの上に浮んで居る。何といふお目出度い日であらうか。私を代表として送られた社友と先輩各位に深く感謝の意を表す。



宮神原櫃和大・地の創草基天

辛酉年春正月庚辰朔、天皇樞原宮に即位、是歲を天皇の元年と爲す。正妃を尊びて皇后と爲したまふ。皇子神八井耳命、神沼名川耳尊を生みたまふ。故に古語に稱めまをして、敏傍の樞原に底磐之根に太立宮柱、高天之原に、峻時搏風、始取天下之天皇と曰し、號を神日本磐余彦火火出見天皇と曰す。初め天皇天基を草創たまふ日、大伴氏の遠祖道臣命、大來目部を帥りて密策を奉りて、能く諷歌倒語を以て妖氣を掃蕩へり。倒語の用られたること、始めて茲より起れり。



上突洞壽相首衛近に前御の下陸兩后皇 皇天

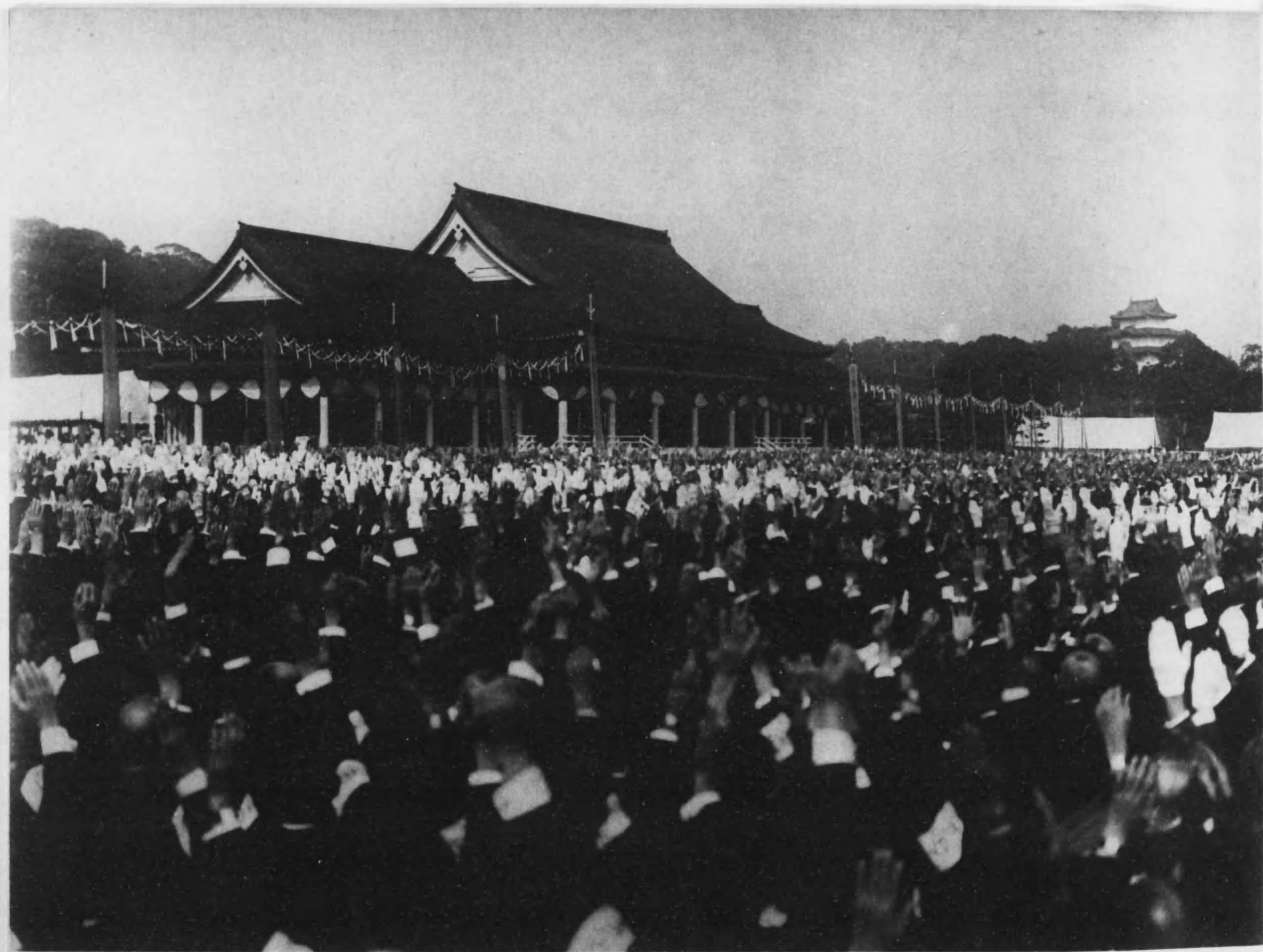
内閣總理大臣壽詞

臣 文府謹ミテ言ス伏シテ惟ミルニ

皇祖國ヲ肇メ統ヲ垂レ  
 皇孫ヲシテ八洲ニ君臨セシメ錫ヲニ 神勅ヲ以テシ授  
 クルニ 神器ヲ以テシタマフ 寶祚ノ隆天壤ト窮リ  
 無ク以テ  
 神武天皇ノ聖世ニ及ブ乃チ 天業ヲ恢弘シテ 皇都ヲ  
 標置ニ贊メ 宸極ニ光登シテ 德化ヲ六合ニ敷キ  
 タマヒ 歷朝相承ケテ益々 天基ヲ鞏クシ 洪猷ヲ  
 壯ニシ一系連綿正ニ紀元二千六百年ヲ迎フ國體ノ尊  
 嚴萬邦固ヨリ比類ナシ 皇謨ノ安遠四海豈匹儔アラ  
 ンヤ 臣 文府誠摯慶頓首頓首恭シク惟ミルニ  
 天皇陛下聰明聖哲允ニ文允ニ武夙ニ  
 祖宗ノ丕緒ヲ紹ギタマヒ 官呼治ヲ圖リ文教ヲ弘メ武備  
 ヲ整ヘ 威烈ノ光被スル所昭明ノ化普率ニ洽ク億兆  
 臣民皆雨露ノ惠澤ニ浴ス方今世局ノ變急ナルニ臨ミ  
 或ハ六師ヲ異域ニ出シ或ハ盟約ヲ友邦ニ結ビ以テ東

亞ノ安定ヲ確立シ以テ世界ノ平和ヲ促進シタマハ  
 トス海ニ絶代ノ威德曠古ノ大業一トシテ

皇祖肇國ノ 宸意ト  
 神武天皇創業ノ 皇謨トニ契合セザルハナシ 臣等生ヲ  
 昭代ニ享ケ此ノ隆運ヲ仰ギ感潁并耀ノ至リニ堪ヘズ  
 業ニ光輝アル紀元ノ佳節ニ當リ優渥ナル 聖詔ヲ拜  
 シ恐懼措ク能ハズ 臣等 協心、戮力誓ツテ大調ニ率由  
 シ益々國體ノ精華ヲ發揮シテ非常ノ時難ヲ克服シ八  
 紘一字ノ 皇謨ヲ翼賛シテ宏大無邊ノ 聖恩ニ奉對  
 センコトヲ期ス本日此ノ式典ヲ舉グルニ際シ  
 天皇陛下皇后陛下ノ 臨御ヲ辱クス 臣等 更ニ遠ク心ヲ  
 華國ノ淵源ニ馳セ思フ創業ノ雄圖ニ致シ感潁益々深  
 シ 臣 文府乏シキヲ承ケテ臺閣ノ首班ニ居リ鉉ニ帝國  
 臣民ニ代リ叨リニ 天顏ニ咫尺シテ恭シク 聖壽ノ  
 萬歲ヲ祝シ 寶祚ノ無窮ヲ頌シ奉ル 臣 文府誠摯慶  
 頓首頓首謹ミテ言ス

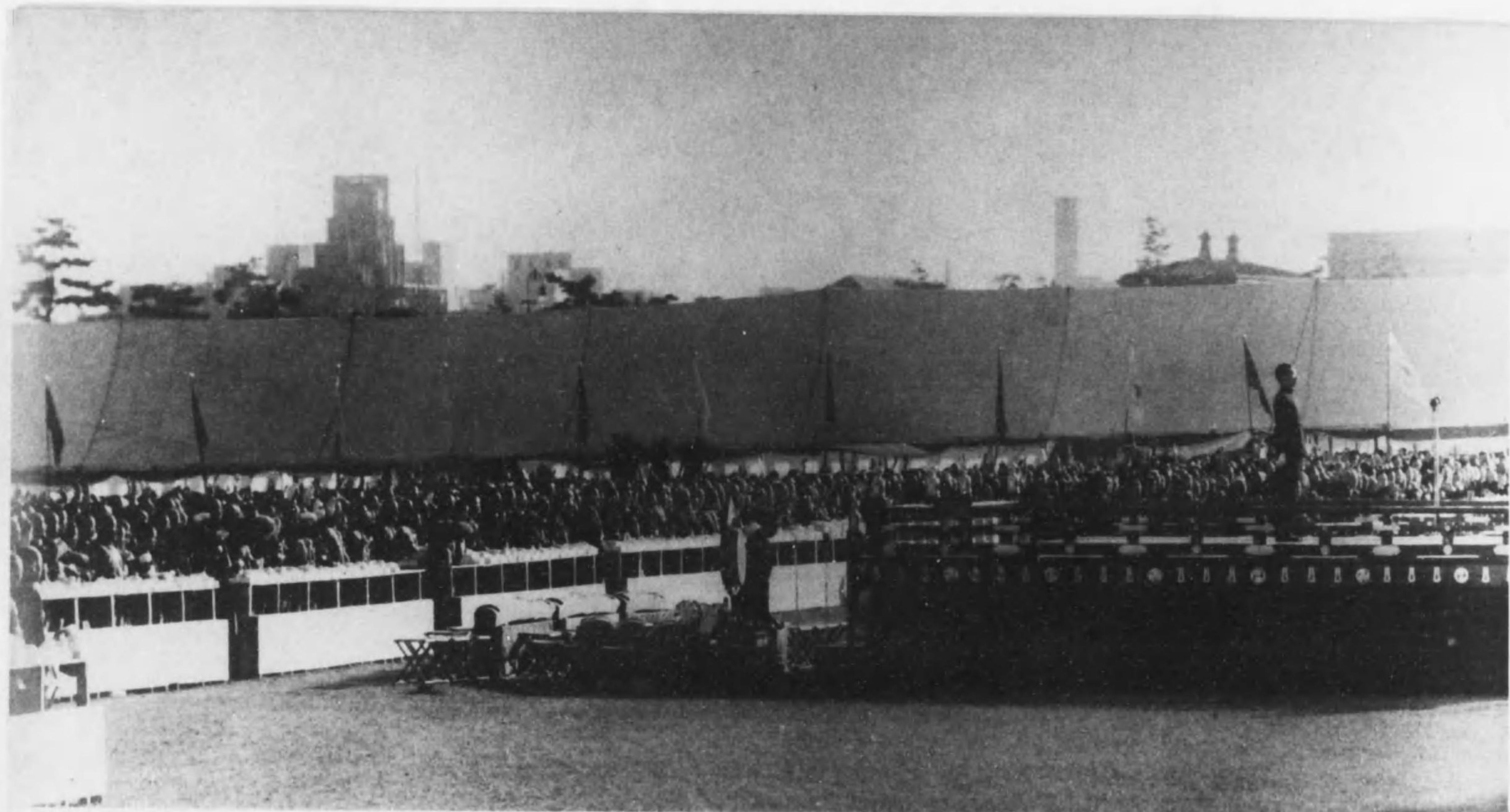


天皇 皇后陛下式下臨に御臨に億一草民萬歳奉唱を受けさ給ふ

(相首衛近頭先) 唱奉歳萬るけ於に場式念記・激感の日のこ 國のこ







紀元二千六百年奉祝會總裁御代高松宮殿下祝詞を奏上し給ふ

紀元二千六百年奉祝會總裁代理奉祝詞

紀元二千六百年奉祝會總裁代理 宣仁

謹ミテ言ス伏シテ惟ミルニ

神武天皇

皇祖ノ神勅ヲ奉シ天壤無窮ノ寶祚ヲ踐ミ給ヒシ

ヨリ列聖相承ケテ

陛下ノ御宇ニ達ヒ今年恰モ紀元二千六百年ニ當レ

リ

陛下斯ノ盛時ニ臨シ特ニ宮中ニ於ケル紀節ノ

祭典ヲ重クシ 明詔ヲ發シテ臣民率由ノ大道ヲ

示シ 恩教ノ令ヲ下シテ遍ク仁澤ヲ布キ又

神宮

山陵ヲ 親拜シテ孝敬ヲ申ヘ陸海ノ軍容ヲ 親

閱シテ士氣ヲ勵マシ給ヘリ

聖慮深厚洵ニ憧憬ニ勝ヘス 臣等茲ニ令辰ヲトシ

恭シク

天皇陛下 皇后陛下ノ臨御ヲ仰キ紀元二千六百年

奉祝ノ會ヲ行フ瑞雲騰揚トシテ宸闈ノ上ヲ蔽リ

和氣洋洋トシテ禁苑ノ外ニ溢ル普天率土手ヲ顧

ニシ聲ヲ同シウシテ此ノ盛事ヲ謳歌セサルナシ

願レハ世界ハ今曠古ノ變局ニ臨メリ

陛下武ヲ異域ニ用ヒテ東亞永遠ノ安定ヲ鞏固シ盟

ヲ友邦ニ結ヒテ宇内恒久ノ平和ニ寄與シ給ハン

トス

聖謨宏遠洵ニ感激ニ勝ヘス 臣等衷衷協同 皇威

ヲ贊襄シ時艱ヲ匡濟シ以テ

天恩ノ萬一ニ報イ奉ランコトヲ期ス 臣等生ヲ昭

代ニ享ケテ此ノ昌期ニ遭ヒ歡天喜地ノ至ニ勝フ

ルナシ恭シク表ヲ上リ賀ヲ陳ヘ以テ 聞ス 臣宣

仁謹ミテ言ス

るさば遊覧台覽天を「久悠」樂舞祝奉に前御を理料戰野もく畏はに下陸兩后皇・皇天





第二皇女  
正仁親王殿下



第三皇女  
孝子親王殿下



第一皇女  
照宮成子親王殿下



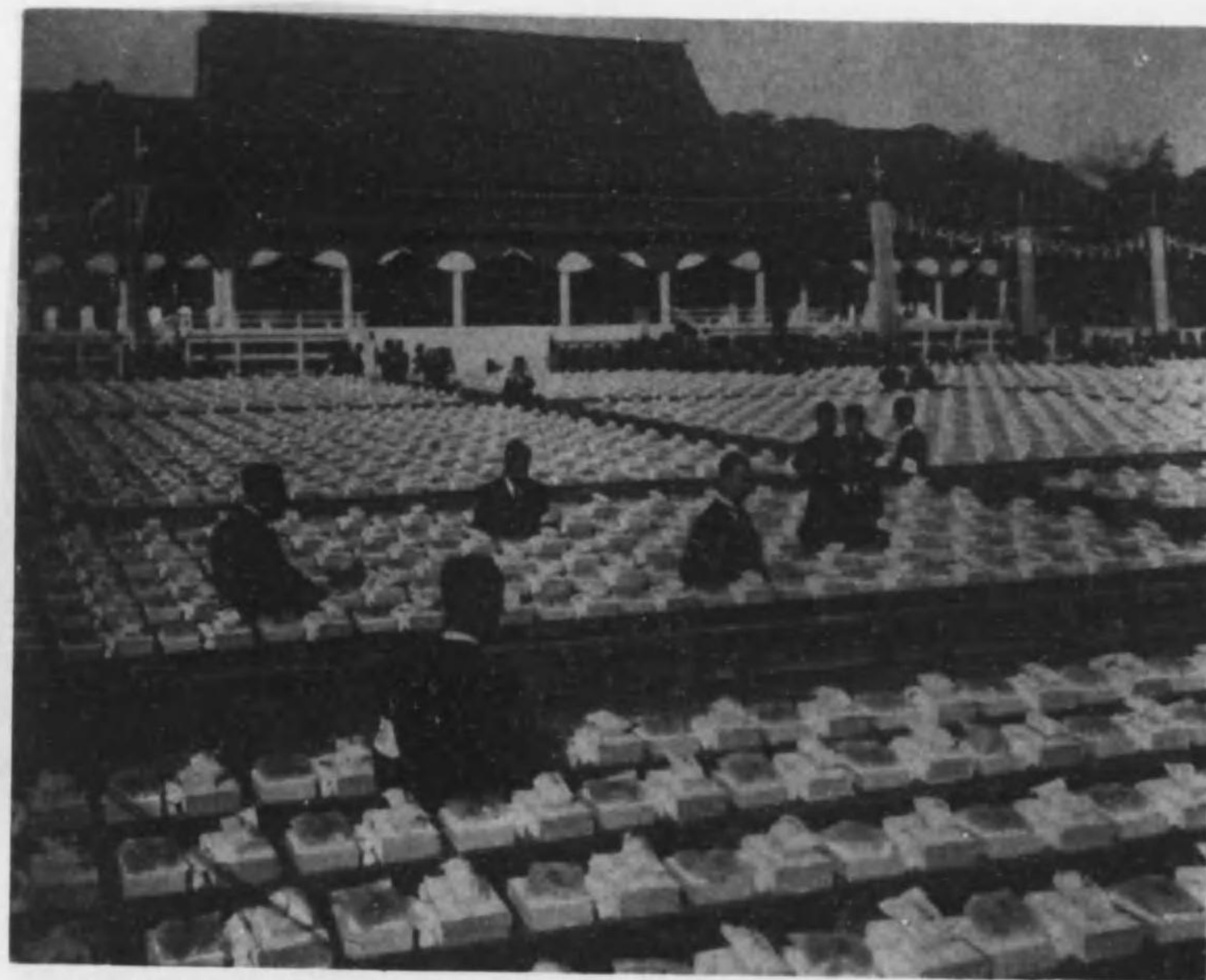
第四皇女  
厚子親王殿下



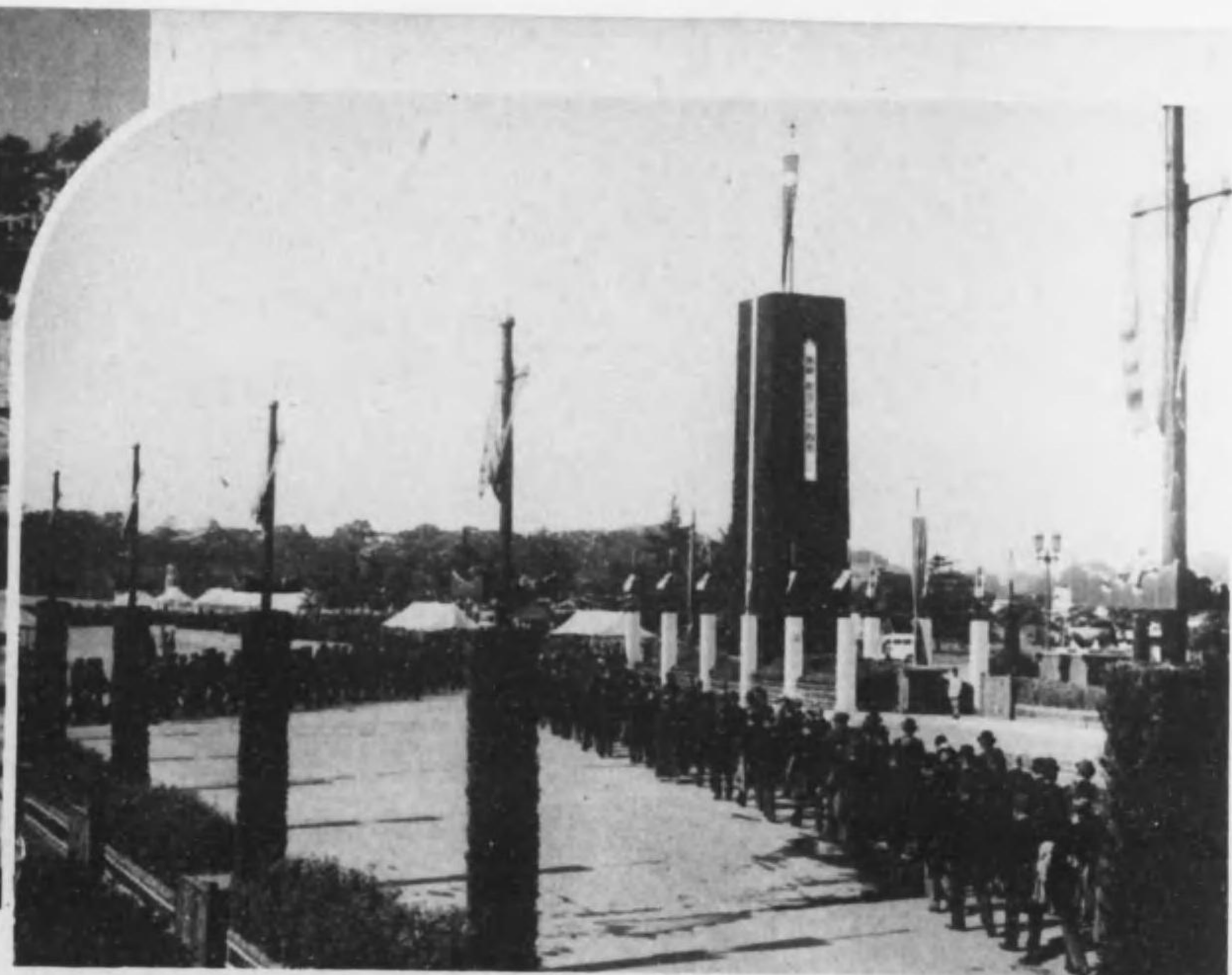
第五皇女  
清宮貴子親王殿下



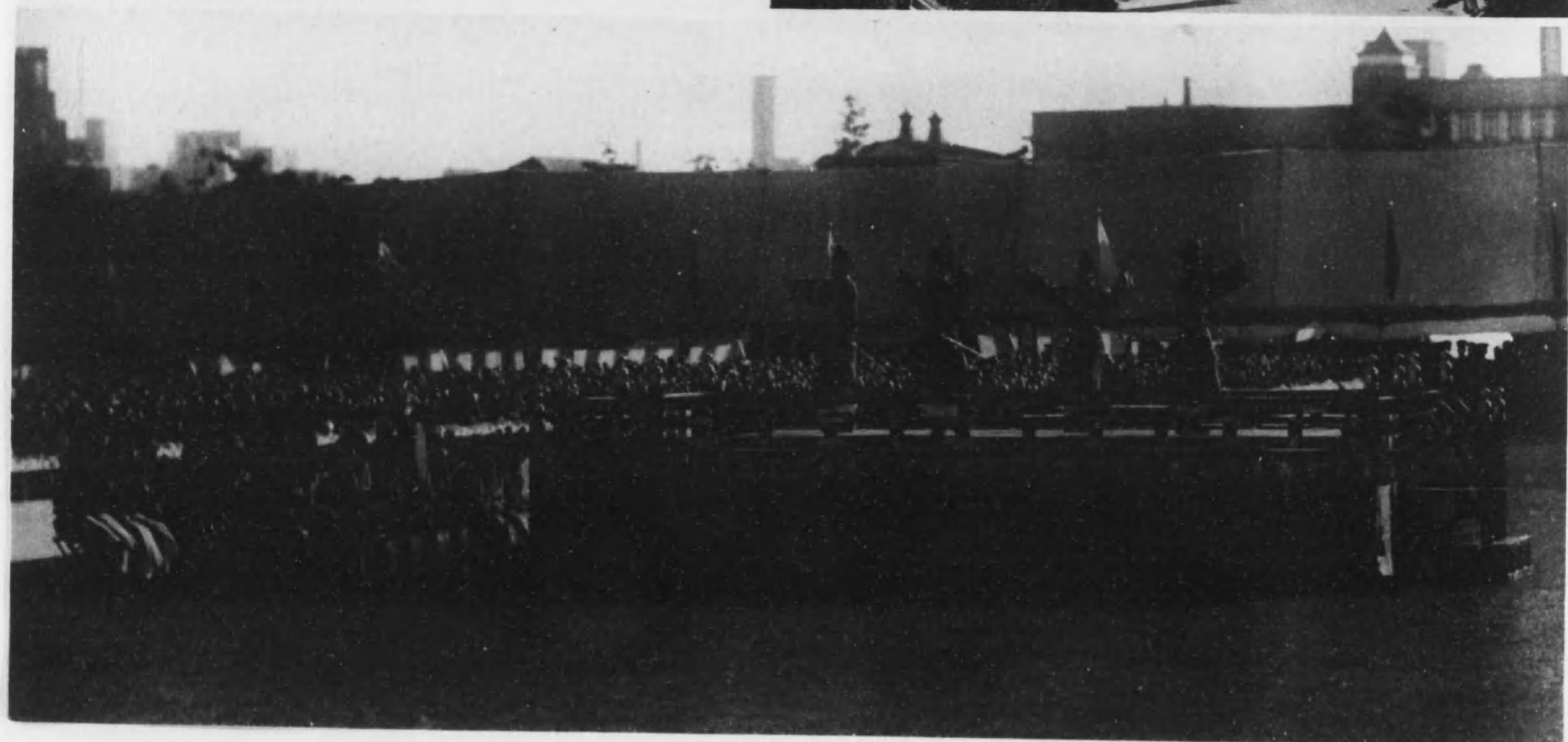
二元紀で庭々校同日當會祝奉の日一十月一十はで科等初院習學  
下殿子太皇の中學在御に年學一第がたし行舉を式祝奉年百六千  
女學れさば遊ひ貴御を年き佳の此席臨御にて格貴御の生學はに  
の長院栗山又れらせらあ和唱御を「歌頌年百六千二」に共御と  
揚振旗國日のこは眞寫御・たれさば遊き聽御に心熱御もを語調  
。様子太皇ふ給せは向に場



急列配の品念記と饋酒前場入の者列参てに場會祝奉



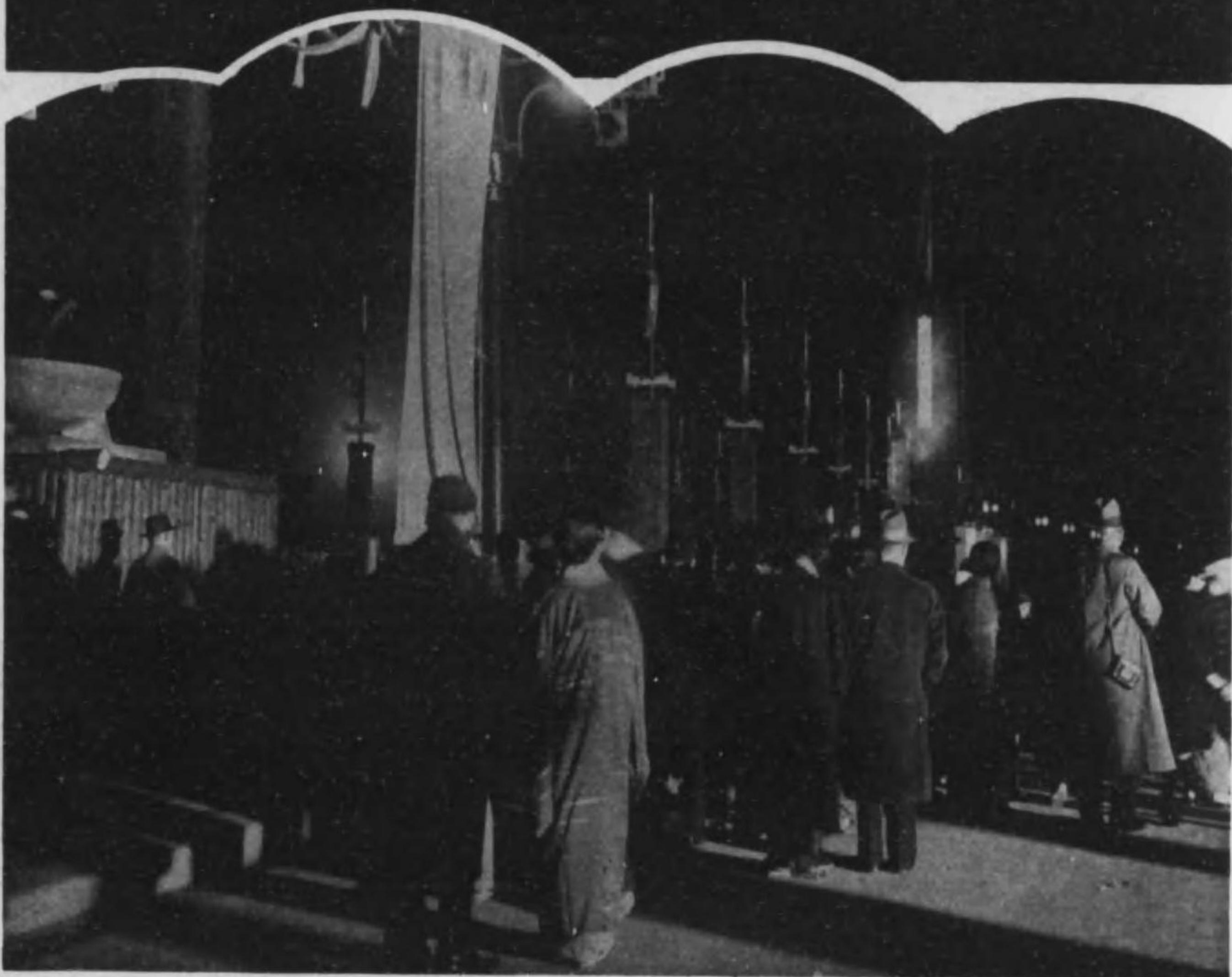
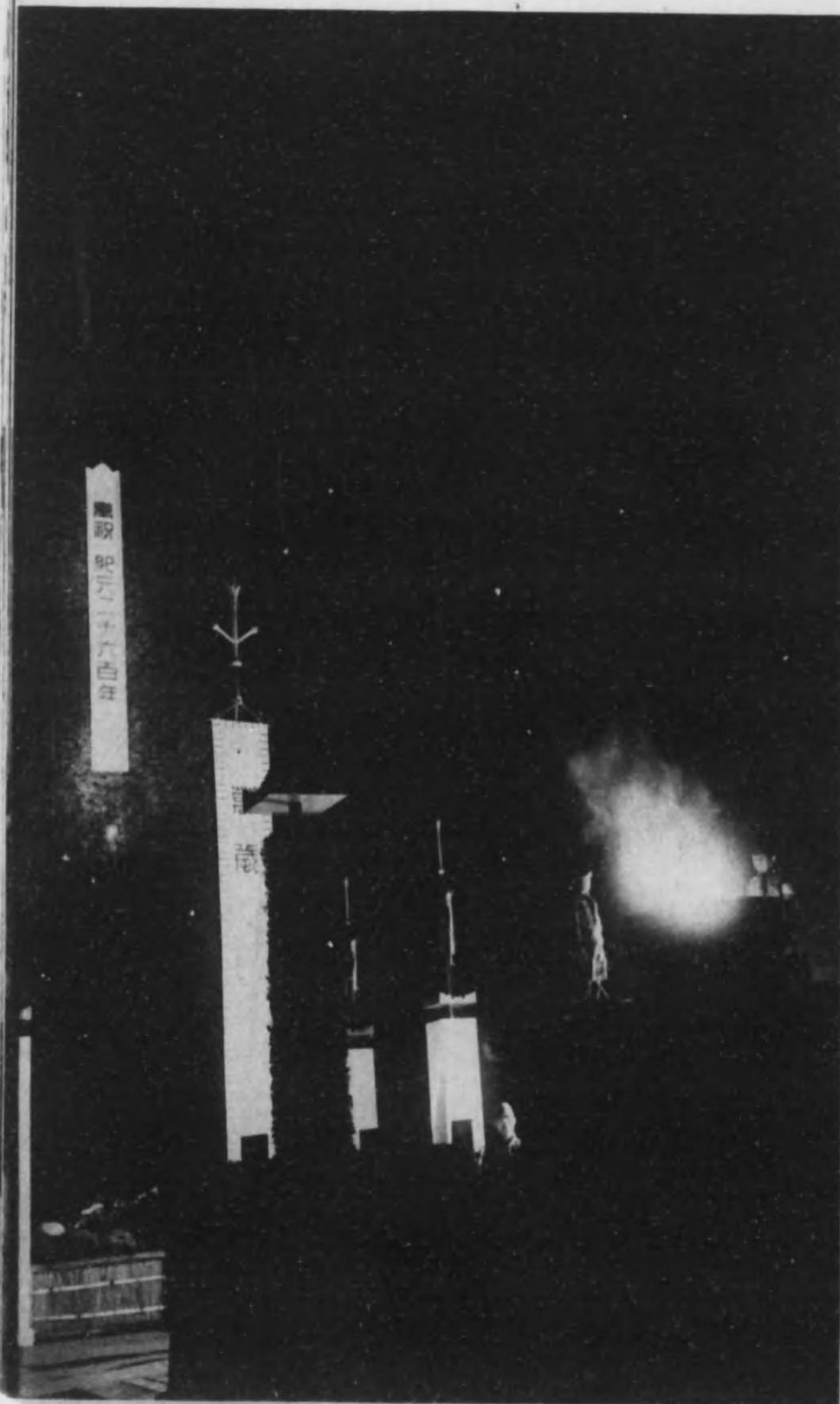
整然と式場に入る先達の参列者



御前に参す先達の参列者

式場入口附近帝都ビル  
街の夜景

式場入口附近帝都ビル  
街の夜景



式場入口附近帝都ビル  
街の夜景



式後許されて式殿を拜観する市民

奉祝國民歌  
 紀元二千六百年  
 一金鶏きんこ 輝く 日本にっぽんの  
 榮はなある光ひかり 身にうけて  
 いまこそ祝いわへ この朝あした  
 紀元きげんは 二千六百年  
 あゝ一億いち億の 胸むねはなる  
 二歡喜くわんぎあふるる この土を  
 しつかとわれら 踏みしめて  
 はるかに仰あがぐ 大御言おみことご  
 紀元きげんは 二千六百年  
 あゝ華國わこくの 雲青うんせいし

車電花の祝奉都帝

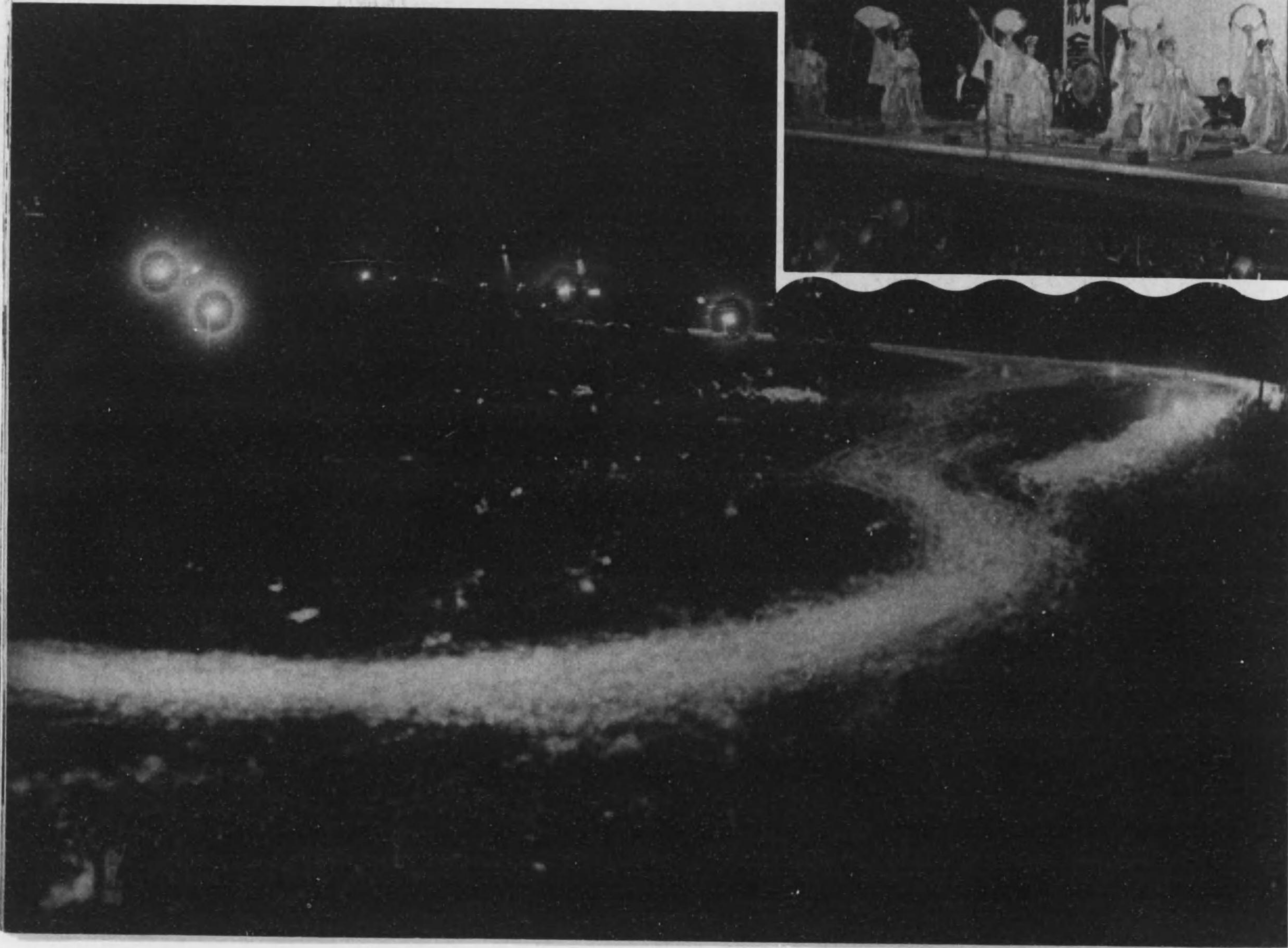


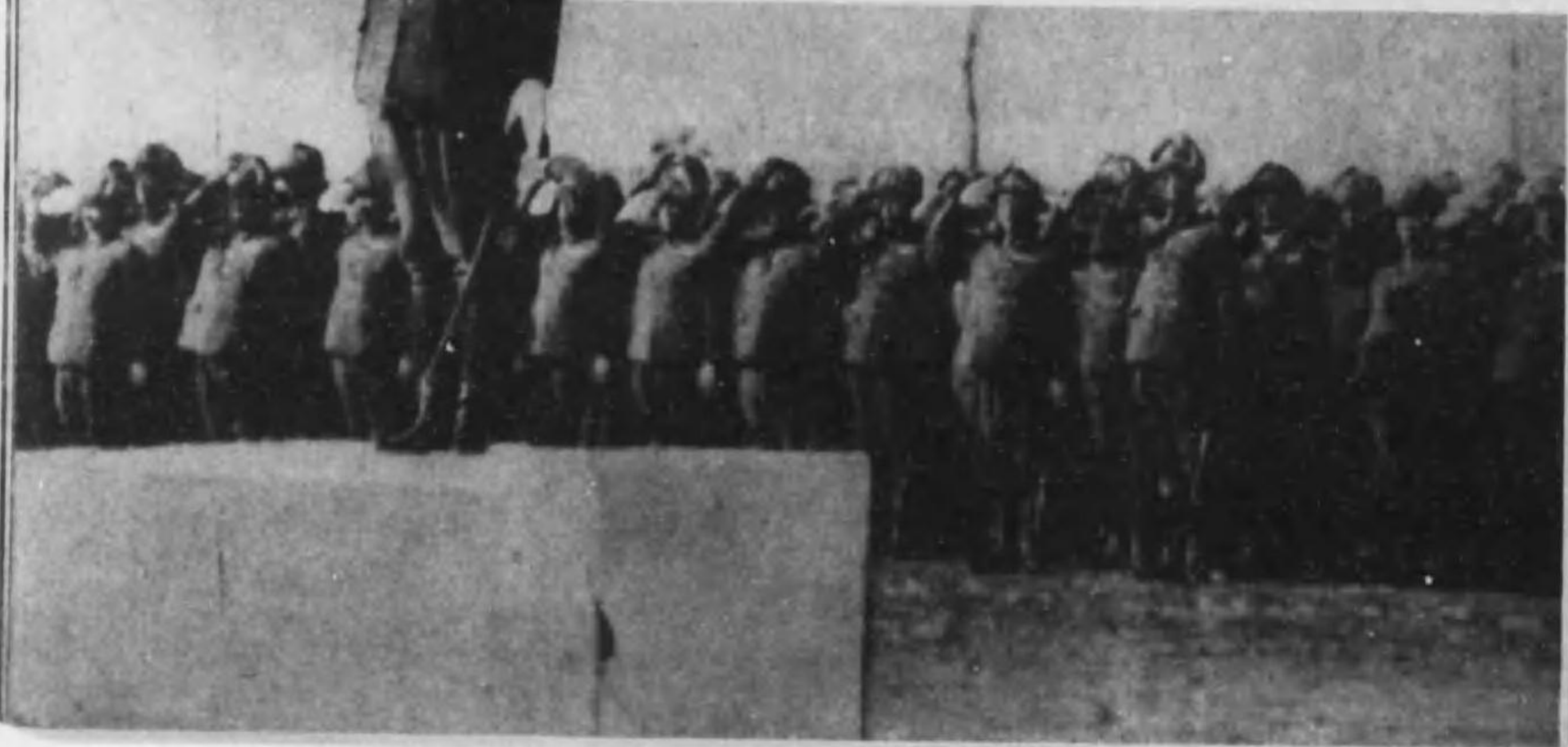
唱奉歳萬も民市く妙道 日の典式



其夜東京市民の奉祝大提灯行列 皇も后に下降に  
は御手提灯をさせた重橋山御市の民萬  
歳にへさ給ふのであつた

日比谷公會堂に於ける  
東京市民奉祝大會  
「浦安」の舞





滿鮮及び大陸戰線  
に於ける奉祝—  
〔上右〕廣東で奉祝假  
裝自動車隊行進  
〔上左〕上海特別陸戰  
隊の奉祝行進  
〔中〕南京に於ける西  
尾支那派遣軍總司令官  
以下將兵の萬歲  
〔下右〕朝鮮の子供達も  
叫ぶ萬歲  
〔下左〕滿洲國新京の關  
東軍司令部に於ける梅津  
司令官以下將兵皇居遙拜





者列參人局表代縣野長るけ於に所合集の前場入場式



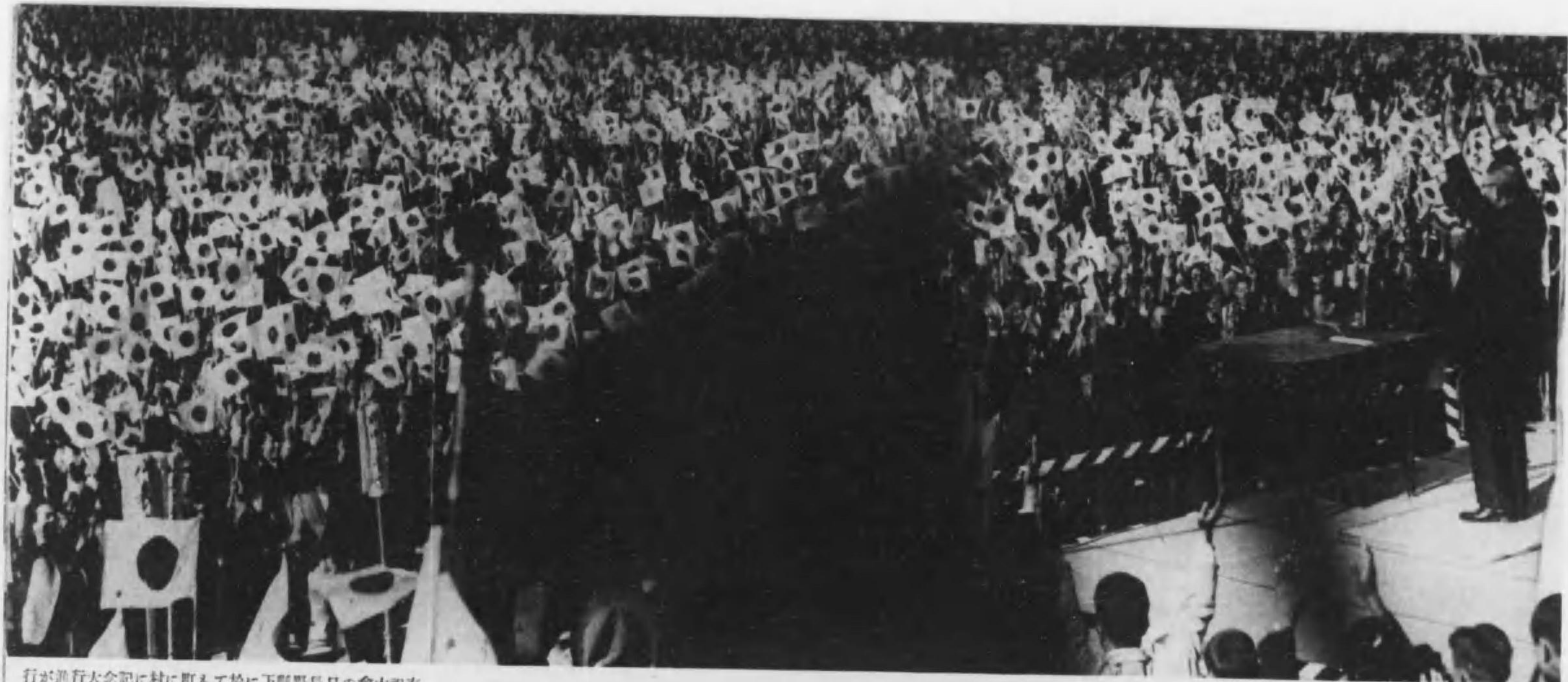
寸發を野長車用專列參典式



者列參表代縣野長む進へ場式とればれ晴



者列參縣野長たつ集に所合集備豫園公谷比日



行が進行大念記に村に町もて於に下縣野長日の會大祝奉  
 (唱奉歳萬の民市野長は上眞宮)たい轟が歳萬の祝奉れは



上  
 田  
 市  
 の  
 旗  
 行  
 列



會大祝奉の市本松





舞の「安浦」會大祝奉民市野長



列行旗の駆繰くよ仲で市野長



歳萬民町の町田村岩



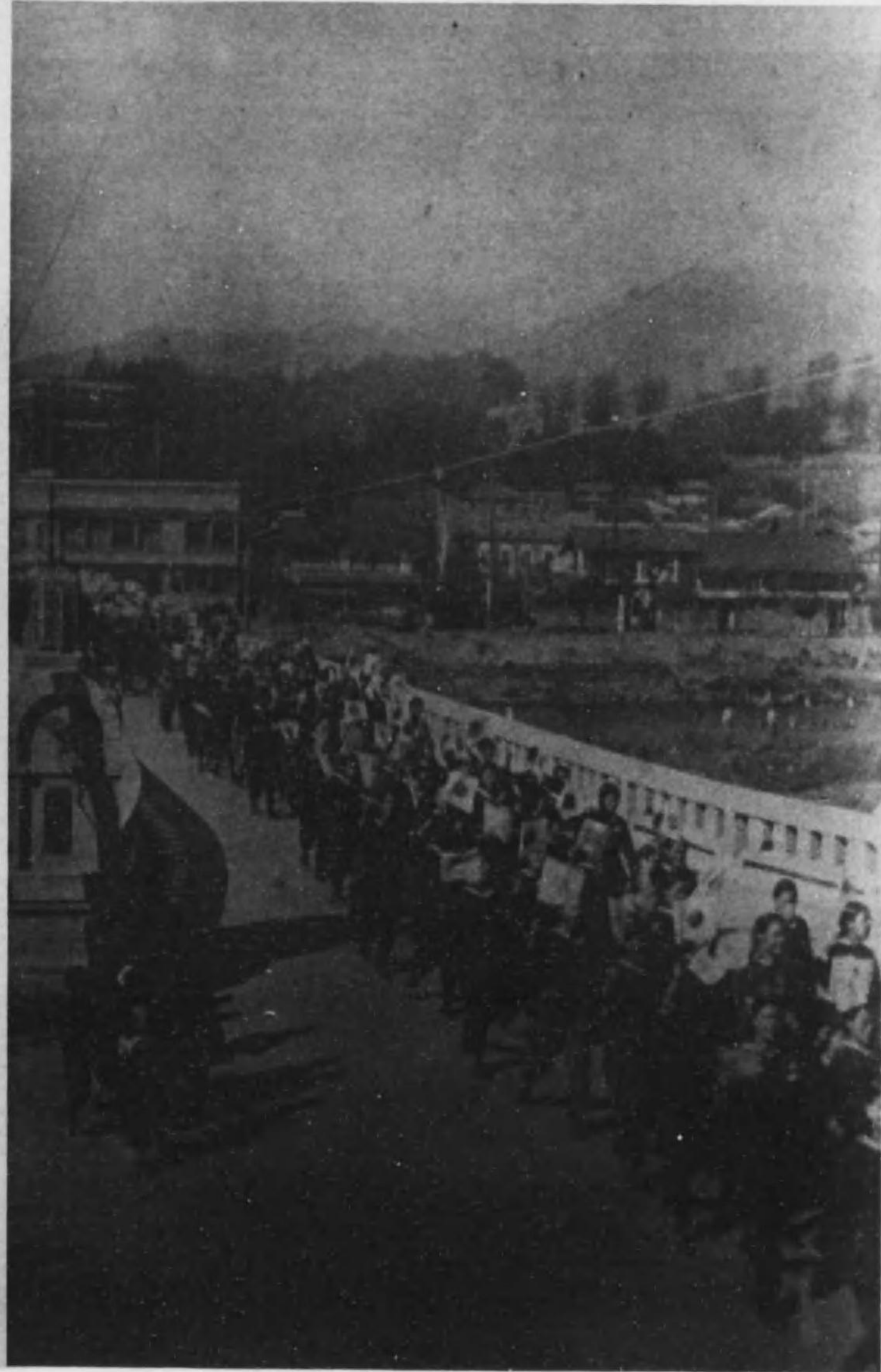
市奉  
小祝  
學講  
生話  
を  
聽  
く  
上  
田



〔左上・中〕  
松本市市民記念式



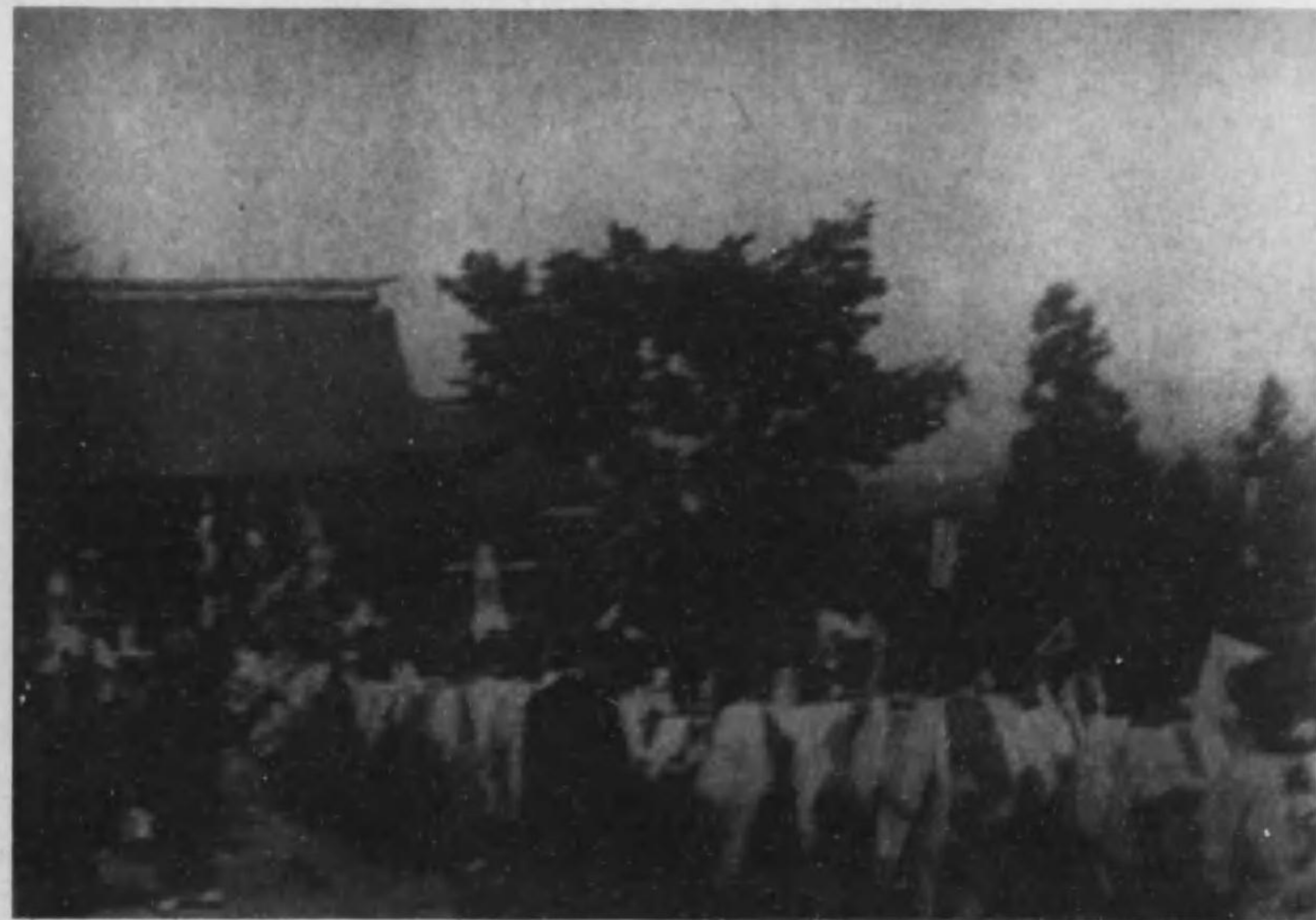
伊那町大橋上を進行する伊那町奉祝行列



袋原の群生學町山飯



舞安浦祝奉の校學小坂須

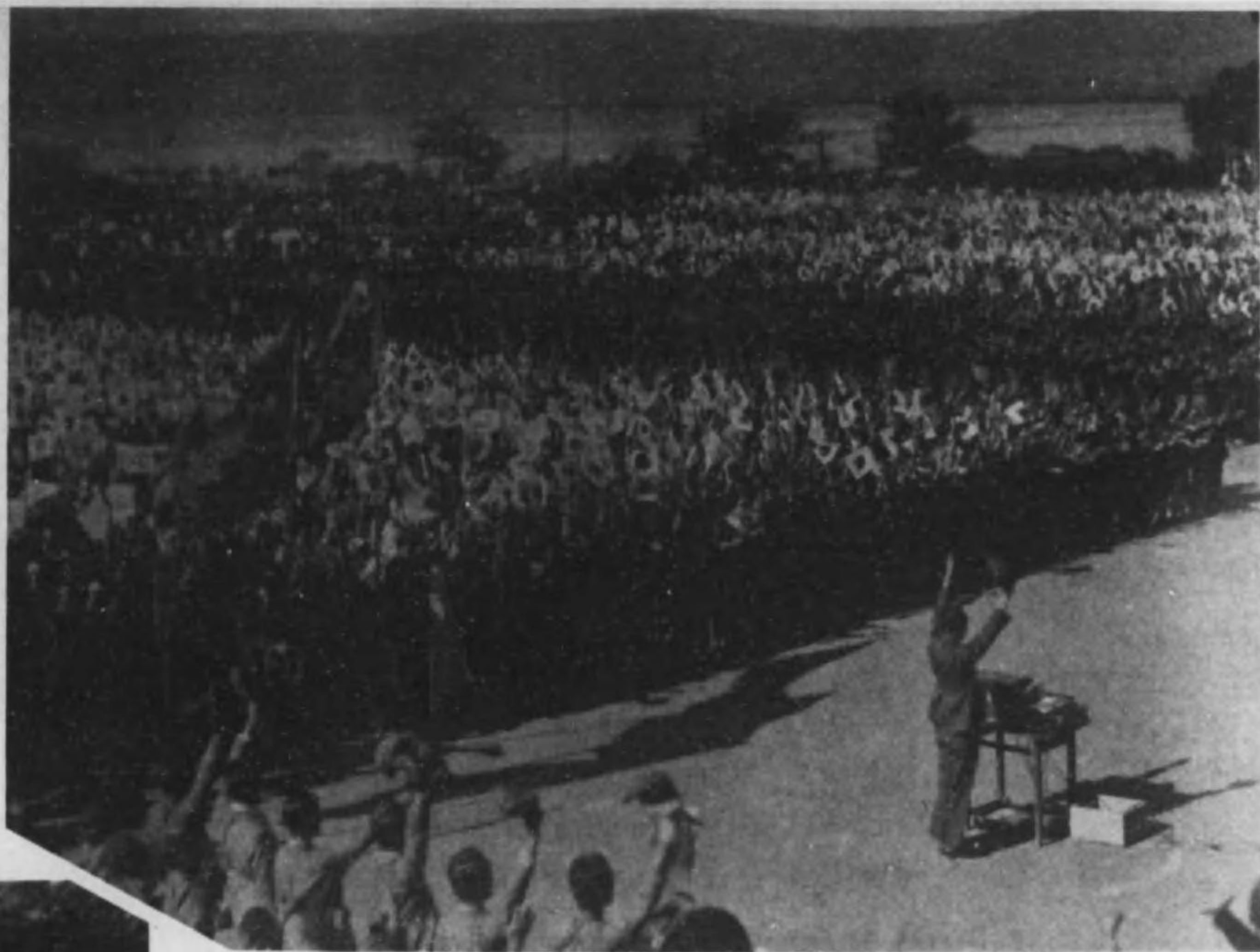


列行祝奉む込繰へ社神山象町代松

列行旗の町大動出も隊部供子



須坂町小児學童の旗行列



上野町民の奉祝式



須坂水鏡神社に於ける代町民の萬歳

飯山町警防團の奉祝車



！年一のこる顧





坂下門前一般無格者之記帳



建國奉祝武行列者之可愛子供達

建國以來ききに二千六  
百年、生々發展の民族  
に、今日こそ最も意義  
深き紀元節を誇ぐ二重  
橋前東京市民の萬歳

紀元節祝詞奏上のため参内する自動車行列

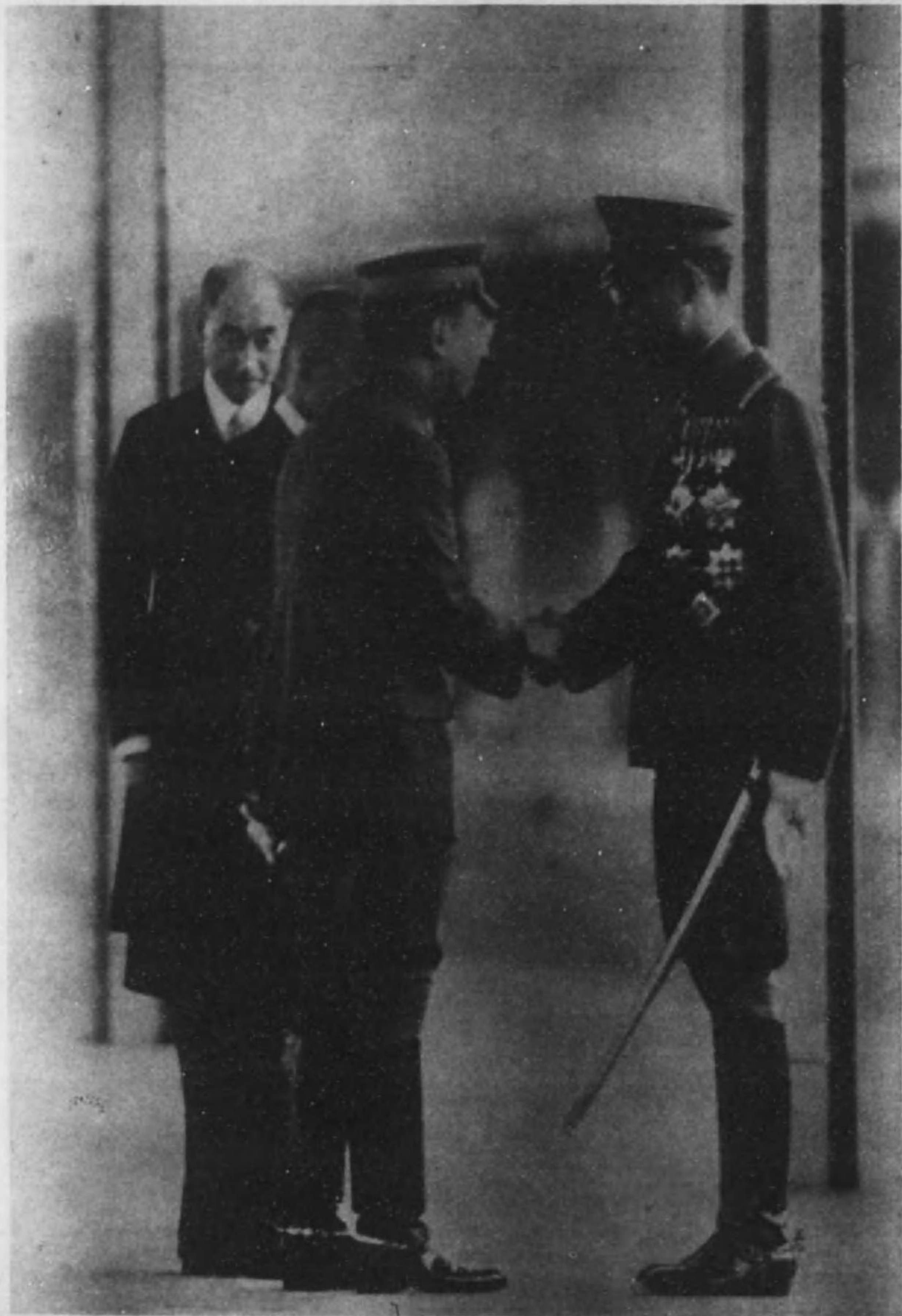


東京市民の建國奉祝大行列



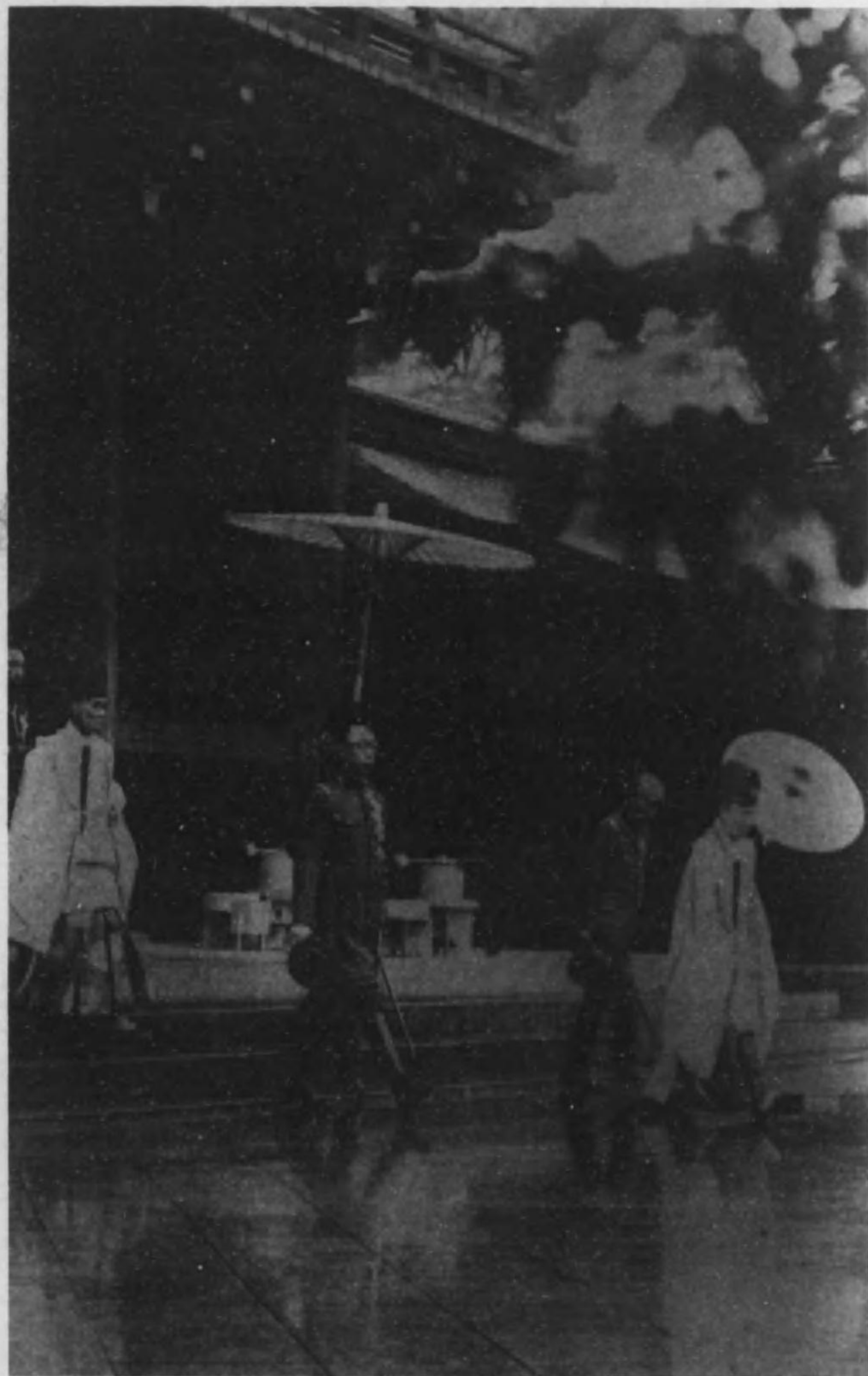


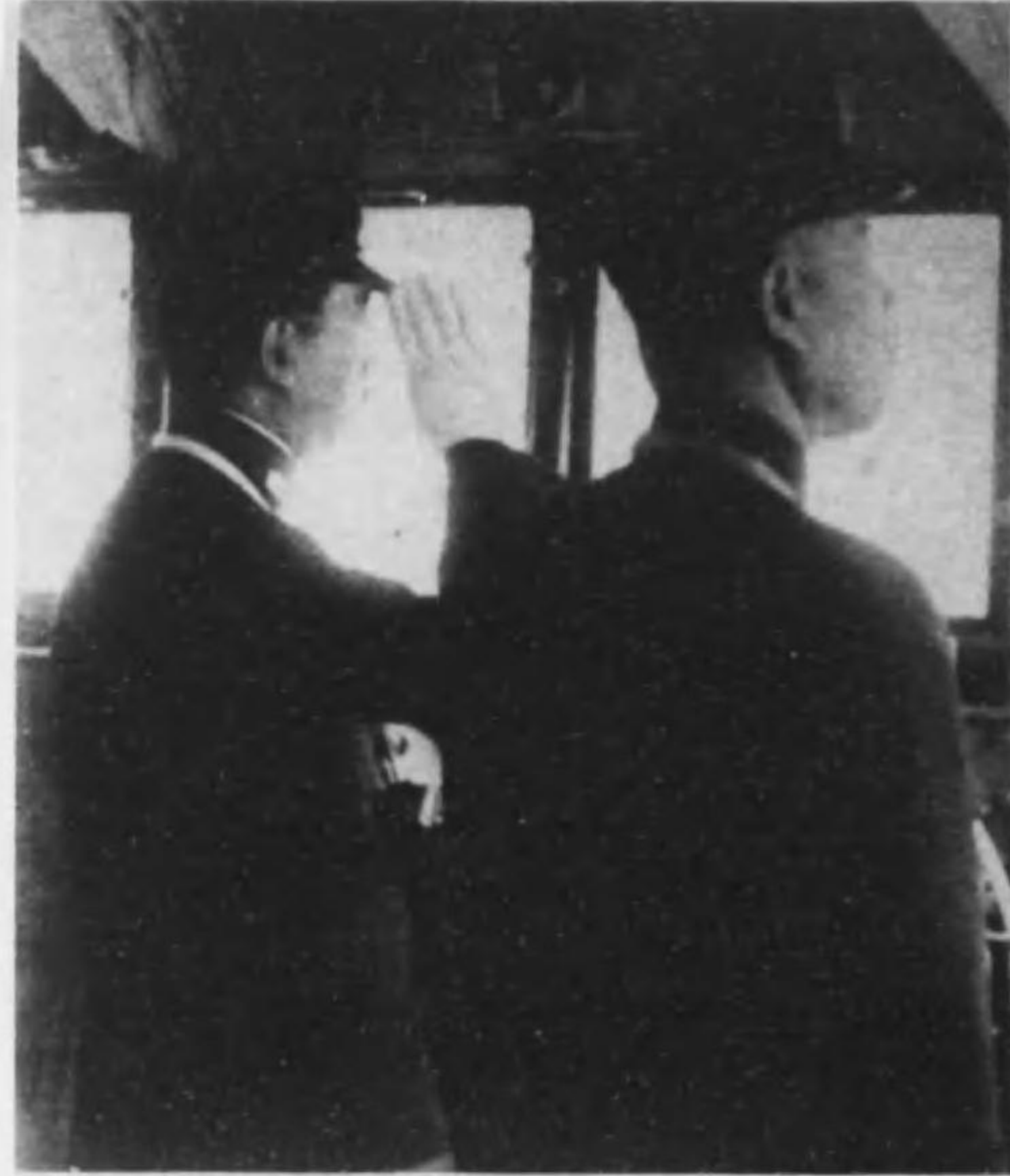
畏くも天皇陛下には皇紀二千六百年に際し、皇祖をはじめ奉り皇宗の大御前に親しく御参拜の御爲六月九日關西に行幸、伊勢神宮・橿原神宮・仁孝天皇・孝明天皇・英照皇太后・明治天皇並に昭憲皇太后の山陵に御親拜あらせられた（御寫眞は橿原神宮にて謹寫）



皇當室給月御ら頭天  
 紀にふり二帝御御  
 遊下御れて六世爲親千  
 ばと出た御日下め意し六  
 さ固迎が来東に、をく百  
 れきひ、訪京は滿表我年  
 た御の驛あ驛六洲し皇に

拜參御宮神治明日七十二月六下陸帝皇國洲滿の中朝來御





御親を賜ふ天泉閣下



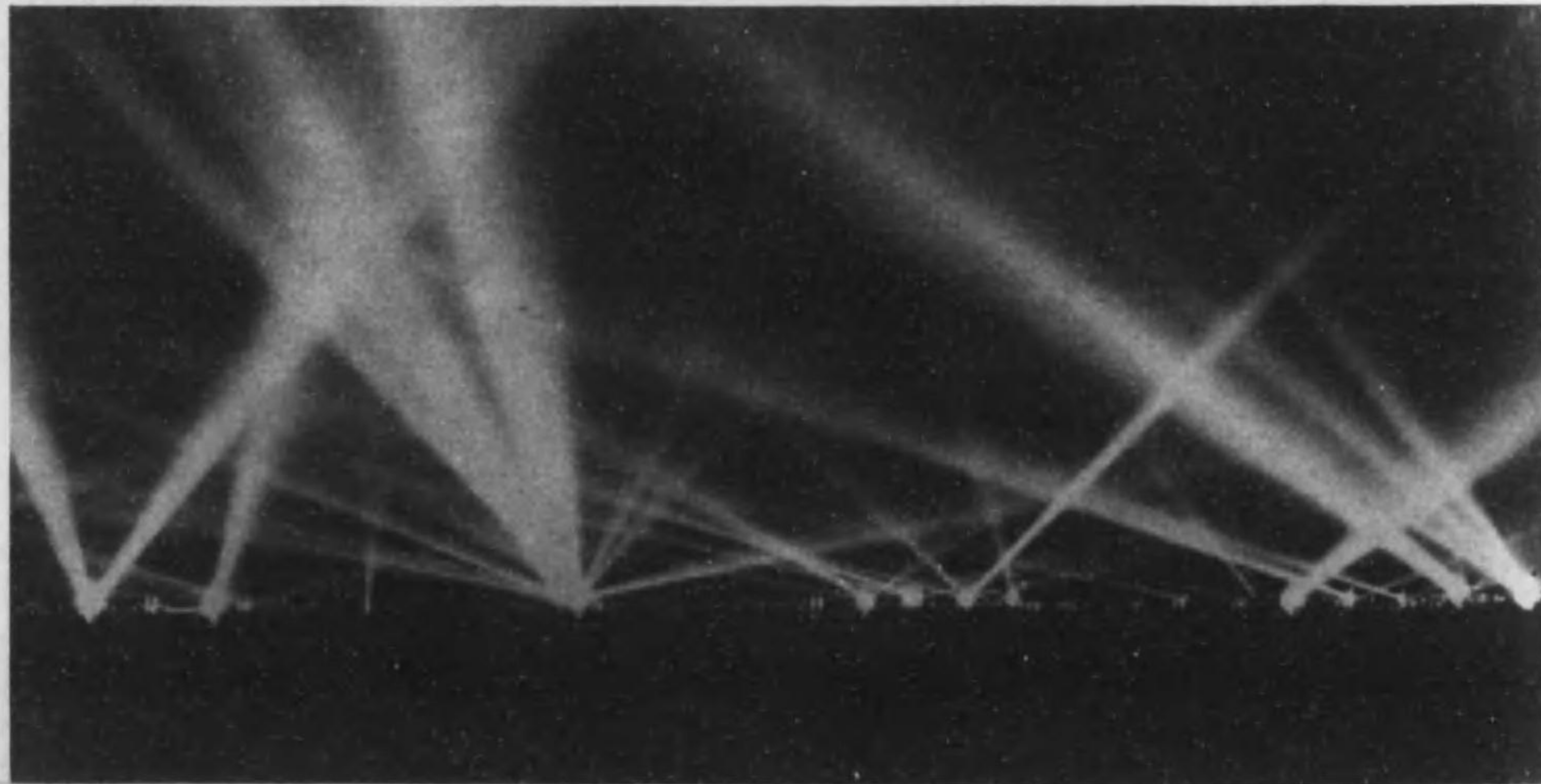
御親を「くろがね」の偉容

各艦一齊に探照燈照射

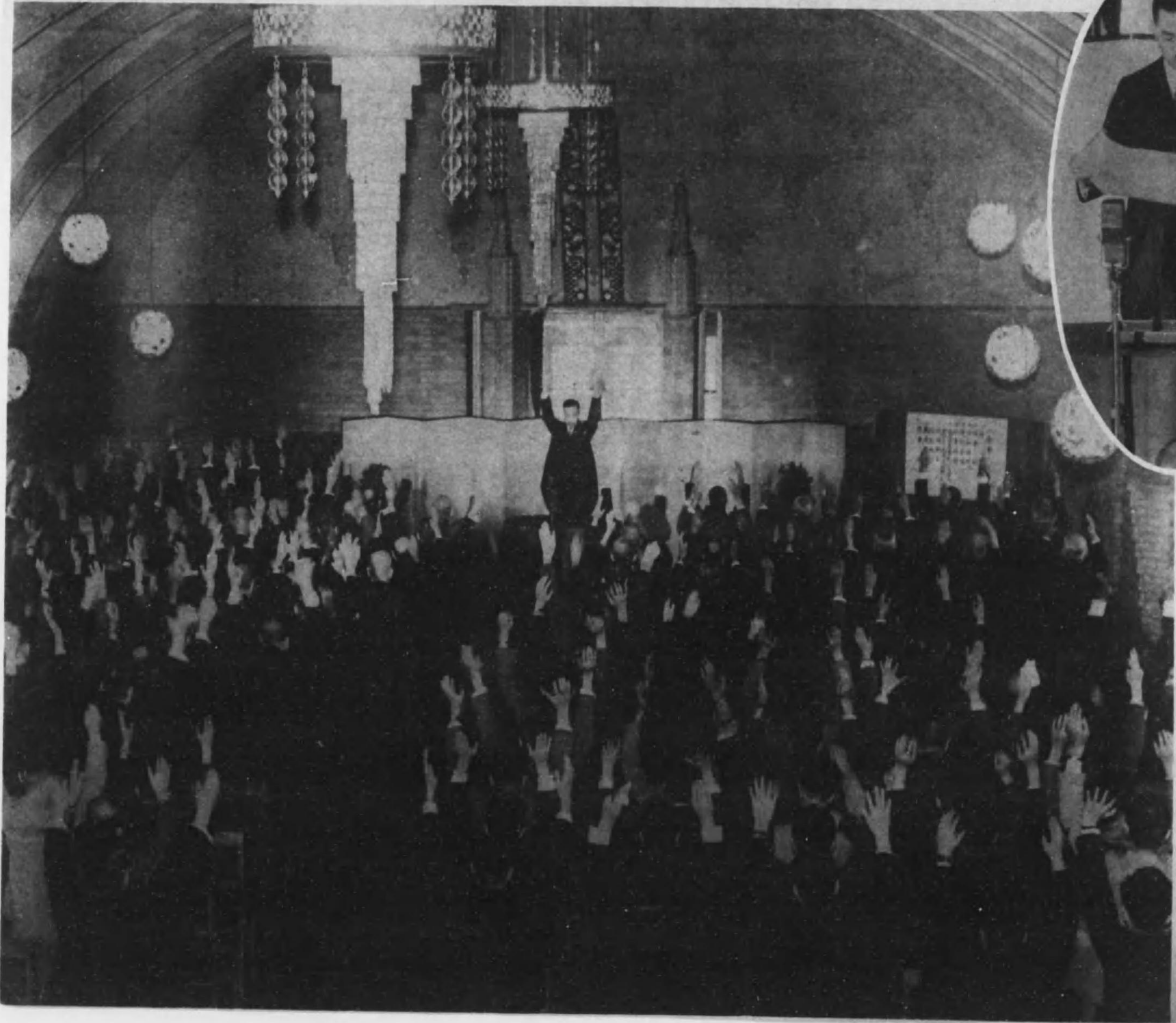


紀元二千六百  
 十一年十一月  
 行幸、帝御  
 のは、幸、帝  
 容を、示、た  
 海軍は、大  
 特別、元、大  
 別、元、大  
 々、々、々  
 の、の、の  
 舉行、下、式

御召艦「比叡」へ進む御召艇



如の左要大は公衛文衛近裁總會同がたげ畢を式會發的史歴て於に耶官相首日二十月十は會贊翼政大るす足發てつ向に動運設建家國防國度高るな新し處對に同難際國の有會未  
 建の制體家國防國度高。すまりあでのるあゝつげ畢を力全てし對に途完の制體家國防國度高、み鑑に勢狀際國の時現、し體奉を旨聖は府政』たしにか明を意決てしなを押抜き  
 轉題的機有るな滑圓も最てしを面部各の構機家國たま、し備整を制體力協の心一億一てつ向に標目きし新て捨を敵の切一るけ於に去過ていおに面部各の等化文、濟經、治政は設  
 のるす決を命運の家國が我に眞は來將の動運贊翼政大。すまりあゝつげ告を來到の機時るな大重し對に國我や今は史歴。すまりあでのるなと能可てめ初て依に事るめしさを  
 『。すまりあでのるず存とるきつに事ふいと「す致を誠の公奉て於に場立の々夫夜日奉し對に人一御上」ち即「踐實道臣の贊翼政大」は領朝の動運本。すまりあで



近衛大政翼贊會總裁の挨拶

大政翼贊會發會式に於ける萬歳



日獨伊三國同盟祝賀會に於ける松岡外相、オット獨大使、インデルリイ伊大使を中心の乾杯

日・獨・伊三國政府は兼ねて三國同盟締結に關し東京・柏林・羅馬に於て各々交渉中であつたが遂に意見の完全一致を見、九月二十七日、柏林のヒトラー總統邸に於て我來獨大使・リツベントロツプ獨外相・チアノ伊外相と三國代表相會し歴史的調印を行つた。かくて英・米等の自由主義國家群に對する亞歐輻軸を完成、世界史上に劃期を見たので、翌十月十三日、大政翼賛運動發足と三國同盟締結を祝賀するため全国各地に國民大會が開かれた。

日比谷公會堂に於ける大政翼賛三國同盟祝賀國民大會の萬歳



東京市中を進行する祝賀行列



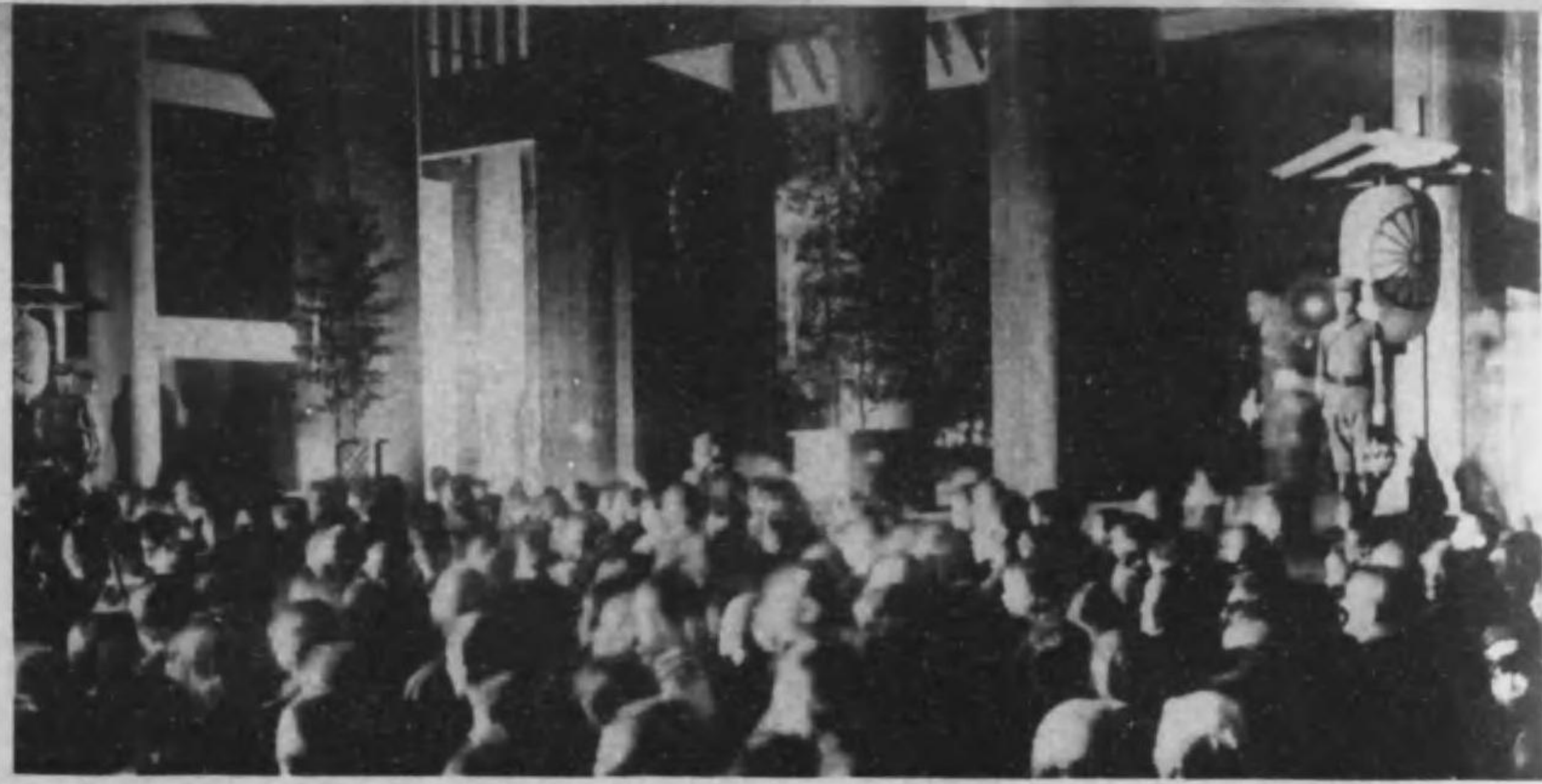


翼賛運動展開・三國同盟締結祝賀の國民大會は十月十三日全國津々浦々に舉行されたが、縣下各地に於ても氣勢を擧げ、逞しき新發足を嘗つた。(寫眞右上は岡谷市民大會、中は上田市公會堂にて記念講演聽く人々、下は松本市民大會、左上は長野市民大會、中は須坂町民大會、下は飯田市民大會)





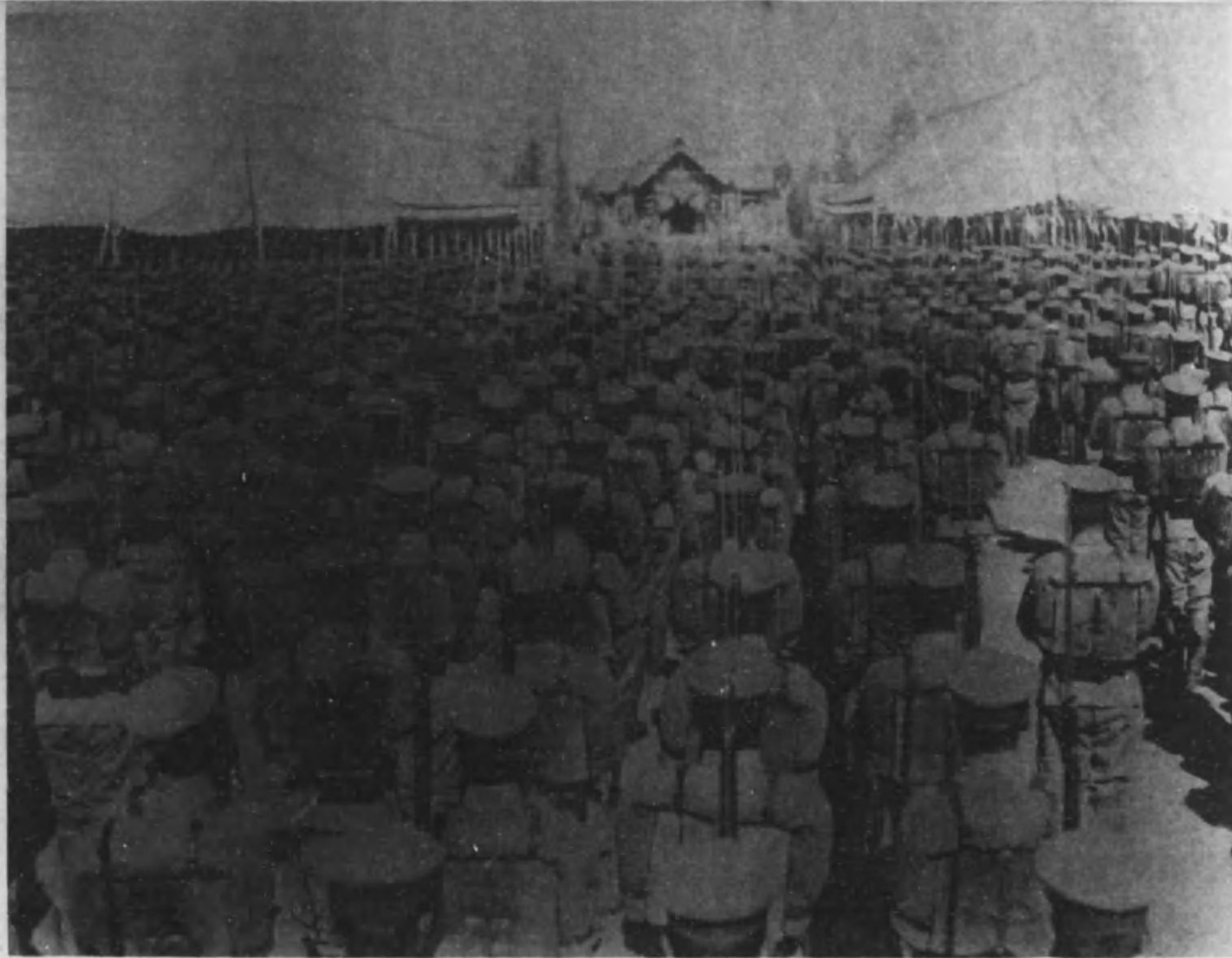
の社百四千四萬一神祭新 日年四第下變事  
 中月十は祭大時臨の社神國靖てへ迎を靈英  
 陸兩后皇 皇天もく畏 がたれは行り取旬  
 奉行に社同日八十るた日三第のそはに下  
 。たつあでのたれらせらあ拜視仰



〔寫眞上〕 英靈今ぞ鎮まる、招魂式當夜  
 の社頭にて〔中〕天皇・皇后兩陛下の行幸  
 を御待ち申上ぐる遺族〔下〕近衛首相以下  
 の閣僚も行幸を御待申上ぐ



火燭の社神國護縣ふ迎を靈英



たし行舉を典祭もて於に社神國護縣野長日の祭大社神國靖



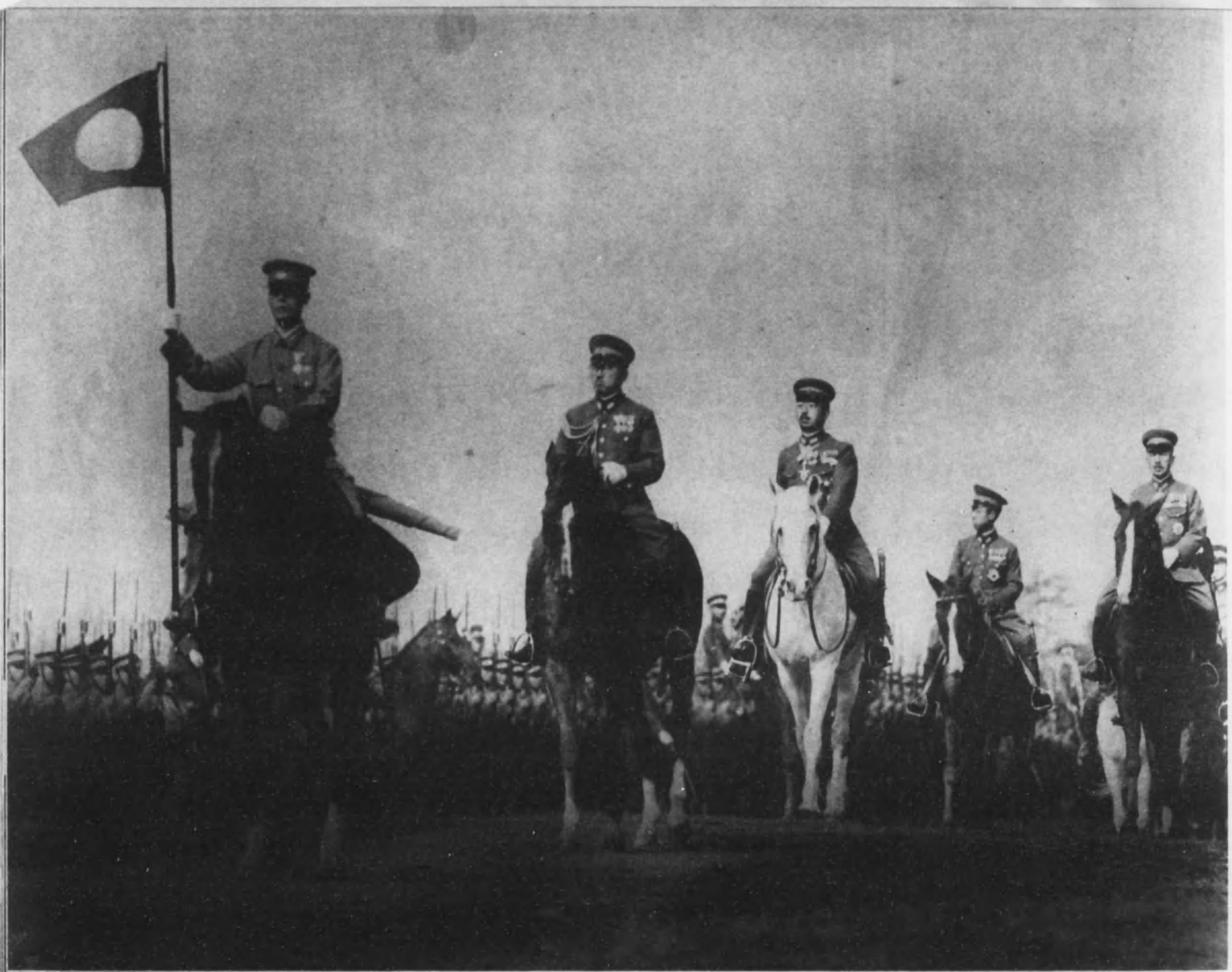
長野縣護國神社祭典遺族案内所

士勇衣白るす拜參に社神國護縣



祭靈慰の社神國護町那伊日のこ





。たつあでのたし示くな徳道を容偉の軍陸が我下局時 れは行て於に揚兵練木々代京東 日一十二月十でい仰を臨親の下陸帥元大は式兵觀念記年百六千二元紀



陸軍觀兵式の偉觀戰車  
の進行。

觀兵式場に拜す宮様方



觀兵式參觀の各國武官



倭國の觀參式兵觀



特に參觀許された遺家族

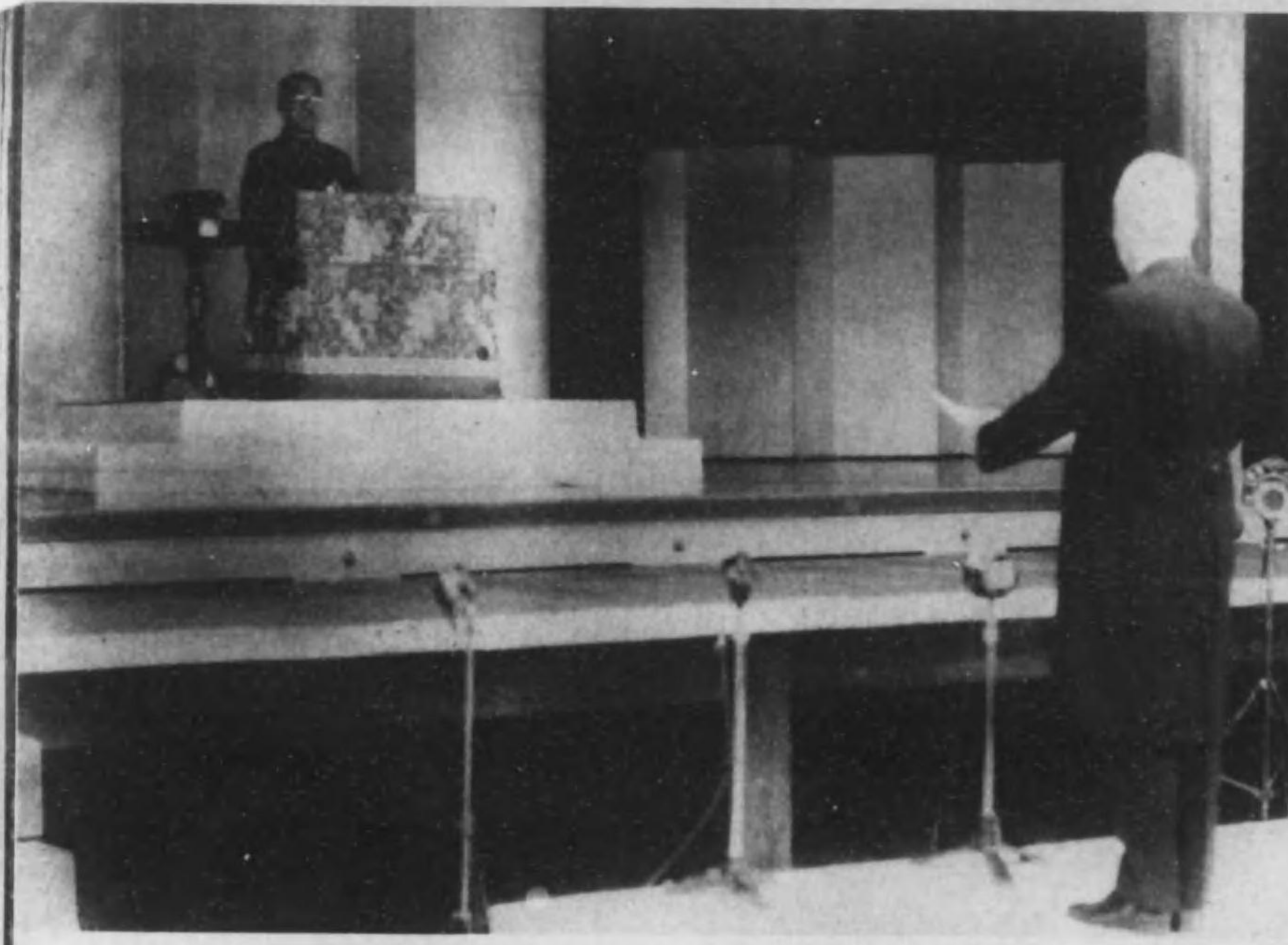


時あたかも紀元二千六百年は教育勅語發滿五十年に當つたので其の記念式典が十月三十日、天皇陛下御名代閑院宮殿下の台臨を仰ぎ、全國教育關係者一萬一千名參列して、明治神宮外苑憲法記念館に於て厳肅に舉行された。この日、畏くも勅語を拜して全國民は只管恐懼、萬古不易の大詔に對し益々聖旨に副ひ奉らん覺悟を新にしたのである。

勅語

皇祖考義ニ聖勅ヲ降シタマヒテ國體ノ精華ヲ闡明シ國民道德ノ大本ヲ昭示シタマヒシヨリ茲ニ五十年ナリ而シテ爾臣民克ク聖勅ノ趣旨ヲ體シ夙夜振勵文ヲ經トシ武ヲ緯トシ教化愛ニ洽ク學風以テ振ヒ國運ノ隆昌克ク今日アルヲ致セルハ朕ノ深ク憚ル所ナリ

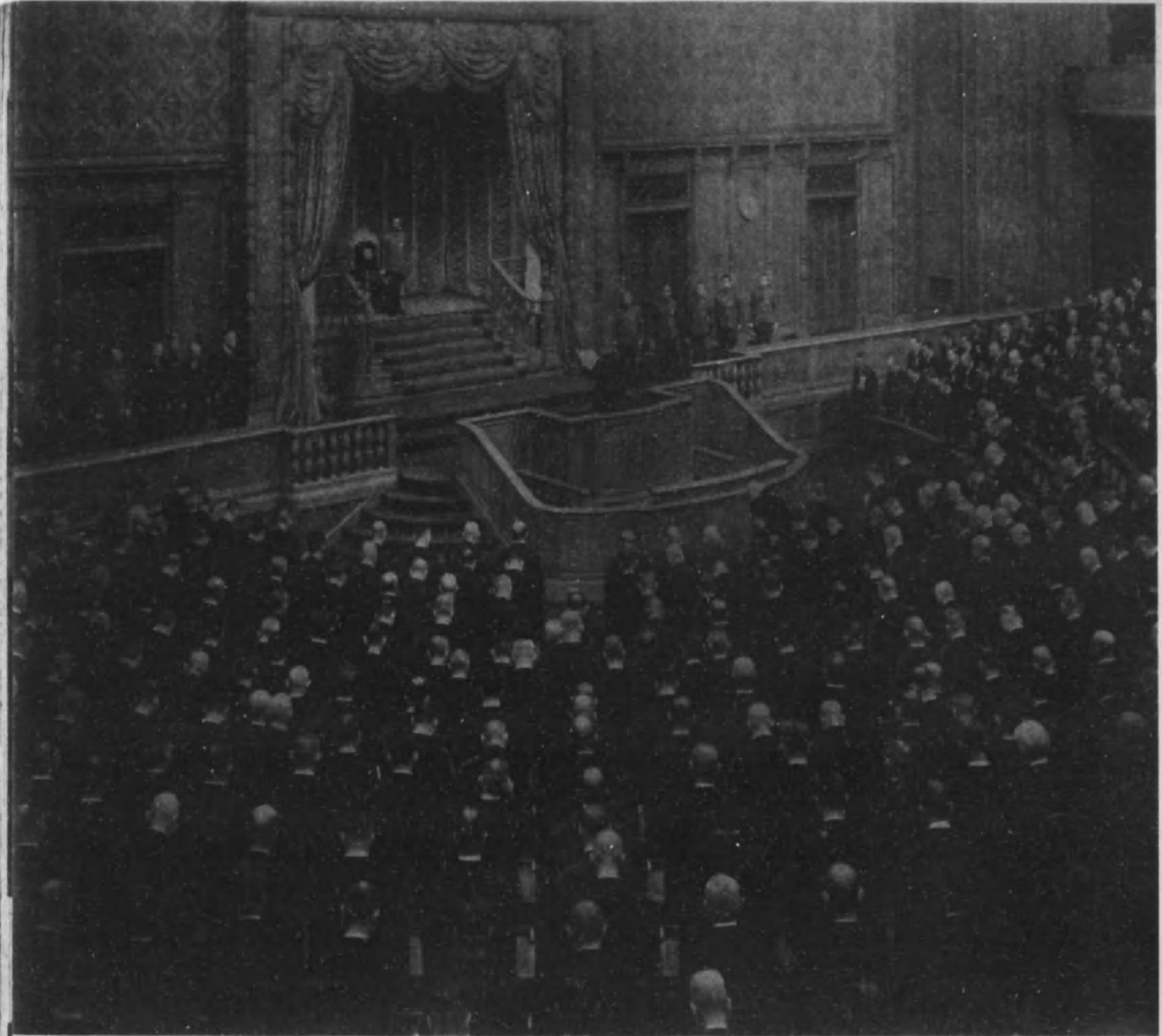
今ヤ國際ノ情勢ハ曠古ノ大變ニ際會セリ爾臣民其レ世局ニ鑒ミ億兆心ヲ一ニシ時艱ヲ克服シテ大調ノ聖旨ニ副ヒタテマツリ以テ德輝ヲ四表ニ光被センコトヲ期セヨ



閑院御名代宮殿下の御前に橋田文相奉答文を奏上



長野師範附屬小學校に於ける教育勅語發滿五十年記念式



天皇陛下の御前式に朗読する松平貴族院議長

帝國議會開設されて滿五十年、  
時もよし紀元二千六百年の秋十  
一月二十九日、その記念式典は  
長くも天皇陛下の親臨を仰ぎ奉  
り、白聖の議事堂に於て厳肅に  
且つ盛大に舉行された。

この一日白聖の帝國議會議事堂



紀元二千六百年十一月廿日午前十時二十五分、待望の日支新條約が南京に於て遂に調印された。本條約は昭和十三年末發せられた近衛聲明に開り、道義に基き、善隣友好、共同防共、經濟提携の實を具現し、東亞民族解放と支那の光輝ある獨立を確保する重大要求を確立したものであり、同時に不割譲、無賠償を根本精神とする歴史的條約たる點に於て、正に世界新秩序への發足にふさはしいものであった。汪精衛氏が抗戰の首都重慶を脱出以來二年、あらゆる荆棘の道を切開いて苦難の生成を續けて來た和平建國の國民政府は今や晴れの外交場裡に登場したのであり、こゝに新たな國交調整の條約をもつて、南京の國民政府は支那の正統唯一の政府たる事を承認せられたのである。かくて、依然抗戰を續ける蔣政権に對しては飽く迄も武力的彈壓を加へつゝ、日滿支三者提携に依る東亞民族が、東亞共榮圈確立をめざして逞しい進軍を開始したのである。

阿部信行大使(右)と汪精衛國民政府主席(左)の調印光景



(てくら記) 會賀祝の會員委務政北華



表發の席主汪後印調



表發の使大部阿後印調





。たう賜を釋會御のみしくつい御に達見造の士勇はてに園稚幼校同に特 啓行に校學範師等高子女京東日三月二十はに下陞后皇らか召思御き畏の興振御育教子女



小坂武雄氏



伊右衛門衛氏



松大江太郎氏



小野祐之氏



小野秀一氏



吉川亮夫氏



渡邊元得氏



小山良三氏



北村甚兵衛氏



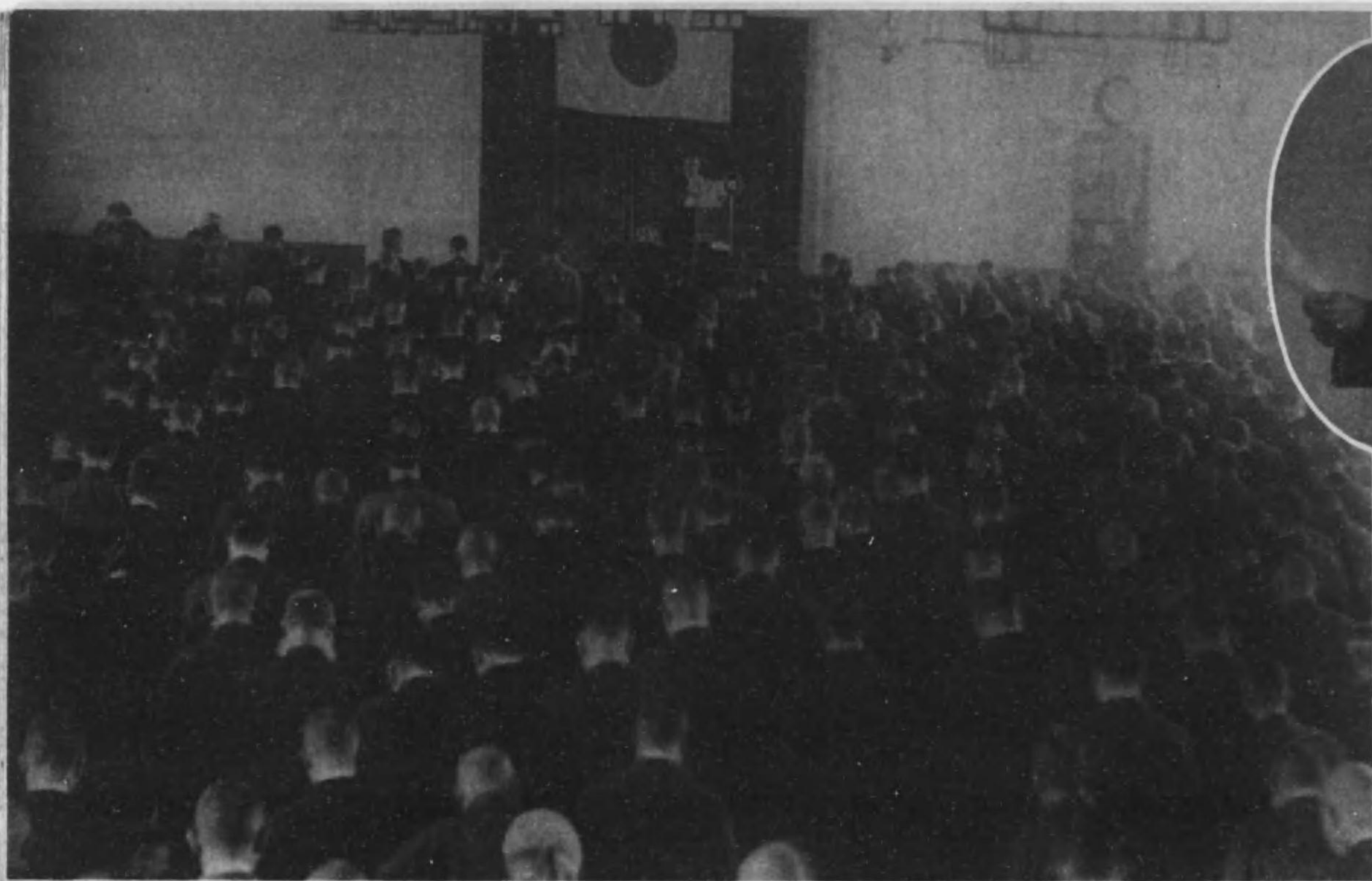
宮下周氏

大政翼賛運動の全国的展開と共に本縣に於ても翼賛會支部設立準備の中核となるべき常務委員(支部長代行)として十一月十九日、渡邊元得(吉川亮夫(支部長)小野秀一(支部長)小野祐之(支部長)松江大太郎(支部長)伊右衛門衛(支部長)小坂武雄(支部長)小山良三(支部長)北村甚兵衛(支部長)宮下周(支部長)委員)の十氏並に縣知事鈴木登氏が近衛總裁より指名され、愈々本格的に支部設立準備に入つたのである。(寫眞は常務委員)



二十六月十日三日開催の初の大政翼賛會  
時中央議會力・本議會に對しより吉川亮夫委員出席





支部主宰常務委員鈴木知事式辭  
支部結成式場の光景

大政翼賛會本縣支部結成式は十二月二十一日長野市縣立圖書館ホールに於て、顧問參與各郡市支部長以下八百餘名の來賓參列、極めて嚴肅に舉行された。支部庶務部長藤井伊右衛門氏の開辭・支部主宰常務委員鈴木知事式辭・本部派遣常任總務古野伊之助氏の近衛總裁告辭代讀、支部組織部長宮下周氏の實踐要項朗讀等の間、満場たゞ緊張、會員は烈々大政翼賛の熱意に燃えたのである。

富辨袋裏で食ソバの錢十二



者列參む別に字肩を意決



縣下の諸行事

# 樞原神宮聖火奉納繼走

奉納の聖業を担ひ奉り、銃後の志氣を昂揚、百八十萬  
 縣民が一つに結ぶ祖國の誠心に燃なる聖火を高々と捧  
 げかざして全信州を駆け廻り、皇運の燦爛と國威の振  
 興を祈念する信濃毎日新聞社主催、長野縣後援、長野  
 縣下各種團體協賛、紀元二千六百年奉祝の縣内神社歴  
 拜聖火奉納繼走は、四月一日、建國の聖地大和樞原の  
 宮に慈しく御神火を奉戴、官幣大社諏訪神社に奉還し  
 く、四日同神社前に嚴肅なる聖火祭及び點火祭をあげ  
 引續き發程式を執行、聖火は甲班乙班に分たれて、一は  
 天龍の流れに沿つて伊那路へ、一は和田の峻嶺を越え  
 て佐久路へ、銃後若人の意氣と誠を引續いて晴雨を分  
 たす晝夜強行、急坂をよち、深雪を押し、全信州の山  
 河を縦ふ甲・乙兩班の路程實に百八十五町村に亘る  
 八百キロ、聖火奉納神社四十六社、六日午後四時聖火  
 は相前後して長野市に入り、信濃毎日新聞社前に兩班  
 再び合して唐々城山へ……かくて聖火は城山神社に奉  
 納されて嚴肅裡に奉告式を執行、續いて城山グラウン  
 ドに終了式をあげ、信州に亘る樞原の宮の神火を燈  
 して、紀元二千六百年奉祝記念の行事は終了した。  
 (寫眞右は聖火奉納の西澤大會執行委員長「樞原神宮  
 にて。下は樞原神宮神符と神社獻木殿櫃を拜受して長  
 野縣に着いた新井大會副會長と之を迎へた長野市民代  
 表)。



## 甲乙兩班の通過地と聖火奉納神社

**甲班通過地** 【諏訪郡】下諏訪町、上諏訪町、手長神社、四賀、中洲、湖南、豊田、橋  
 【岡谷市】郡社十五社、【上伊那郡】朝日、伊那宮、川島、小野矢彦神社、【東筑摩  
 郡】筑摩原小野神社、【上伊那郡】中箕輪、南箕輪、伊那町、西春近、宮田、赤穂、  
 飯島、七久保、上片桐、【下伊那郡】大島、山吹、市田、座光寺、上郷、【飯田市】  
 白山社、大宮護訪神社、【下伊那郡】淵、松尾八幡社、【西筑摩郡】吾妻、讀書、大  
 桑、上松町、福島町水無神社、三所御嶽神社、新開、日義、木祖、楢川、【東筑  
 摩郡】宗賀、洗馬、廣丘、芳川、【松本市】筑摩神社、深志神社、岡宮神社、護國神  
 社、【東筑摩郡】島立沙田神社、島内、【南安曇郡】高家、倭、温住吉神社、明盛、  
 豊科町、南穂高、西穂高、穂高町穂高神社、北穂高、【北安曇郡】松川、池田町、社  
 神崎宮、大町若一王子神社、美麻、【上水内郡】南小川八幡社、榮、七二會守田神社  
 【更級郡】信里、共和、【上水内郡】安夜里、【長野市】妻科神社、信濃護國神社、城  
 山神社

**乙班通過地** 【諏訪郡】下諏訪町、【小縣郡】和田、大門、長久保新町、【北佐久郡】  
 芦田、本牧、布施、南御牧、五郎兵衛新田、【南佐久郡】岸野、櫻井、野澤町、白田  
 町、田口、新海三社神社、平賀、中込町、【北佐久郡】岩村田町、御代田、西長倉、  
 輕井澤町鸕野皇大神社、小沼、北大井、小諸町、大里、【小縣郡】澁野、縣、神川、  
 鹽川、長瀬、九子町、依田、富士山、東鹽田生島足島神社、川邊、【上田市】科野大  
 宮社、上田神社、【小縣郡】神科、本原、長山家神社、塩尻、【埴科郡】南條、中條  
 坂城町、坂城神社、【更級郡】力石、上山田、更級、八幡武水別神社、稻荷山町治田  
 神社、【埴科郡】杭瀬下、埴生、足代町、南宮縣兩宮坐日吉神社、清野、松代町墨坂山神  
 社、西條白鳥神社、寺尾、【上高井郡】川田、船内、井上小坂神社、須坂町墨坂神社  
 墨坂神社、豊洲、小布施、都住、【下高井郡】碓氷、中野町、平岡、科野高社神社、常  
 陸、飯山町、秋津、登井、【上水内郡】鳥居、神伊豆毛神社、中郷、富士里、古間  
 柏原、戸隠戸隠神社中社、宇井、【長野市】美和神社、信濃護國神社、城山神社







(甲乙) 和時田頂の上の引継ぎ



(甲甲) 諏湖を遊む火聖



大門より長久保新町へ引継ぐ



植試概般社産矢那伊上

(甲甲) 諏訪社長手程の火聖



小保新町女子青年團員  
に茶菓接待する火聖



(乙) 典式納奉火祭の社神社三海新久佐南



輕井澤二手橋付近の聖火奉迎篝火 (乙)



碓氷峠國境付近を進む聖火 (乙)



飯田市白山神社に参入の聖火 (甲)



上伊那宮田・赤穂引継ぎ (甲)

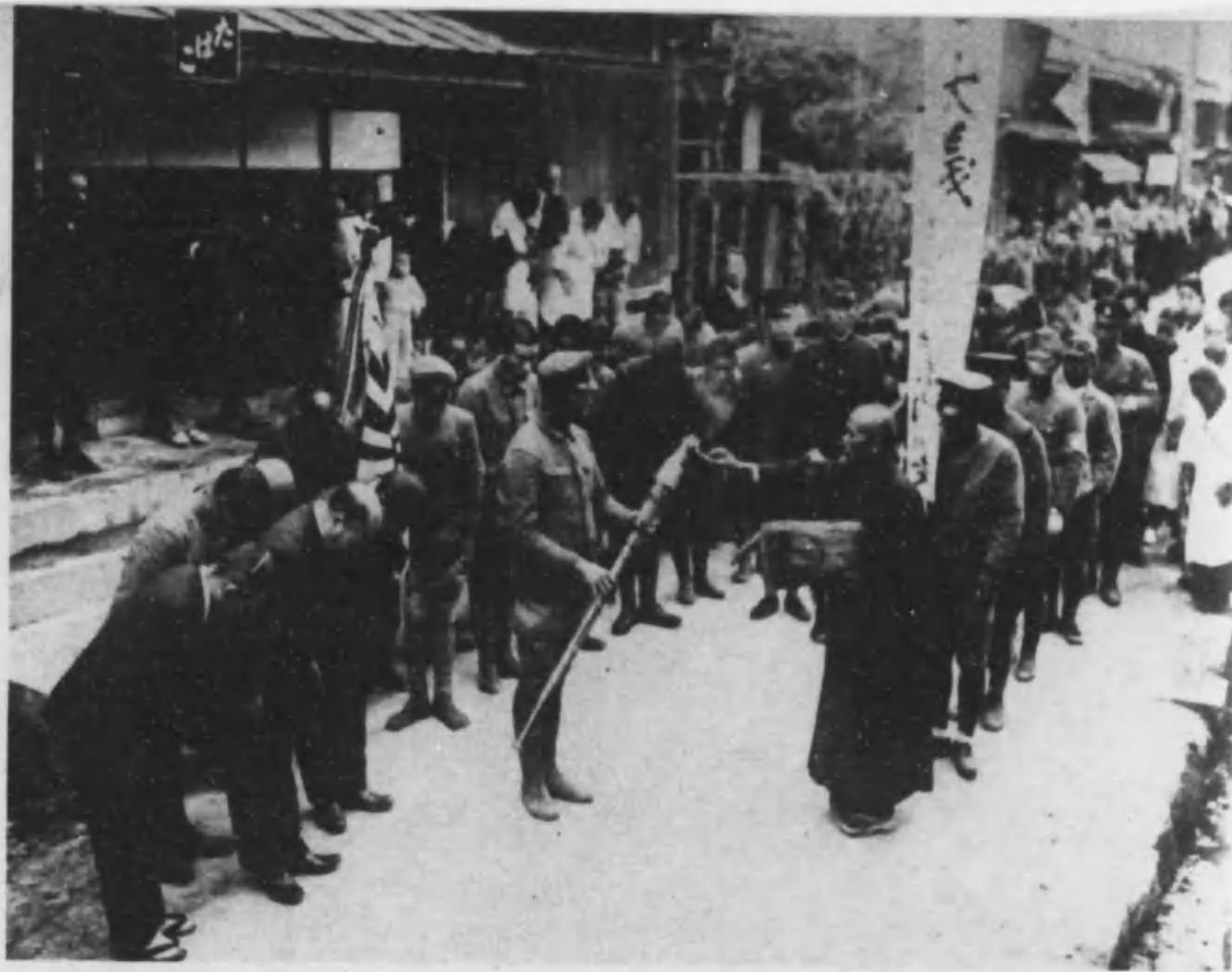
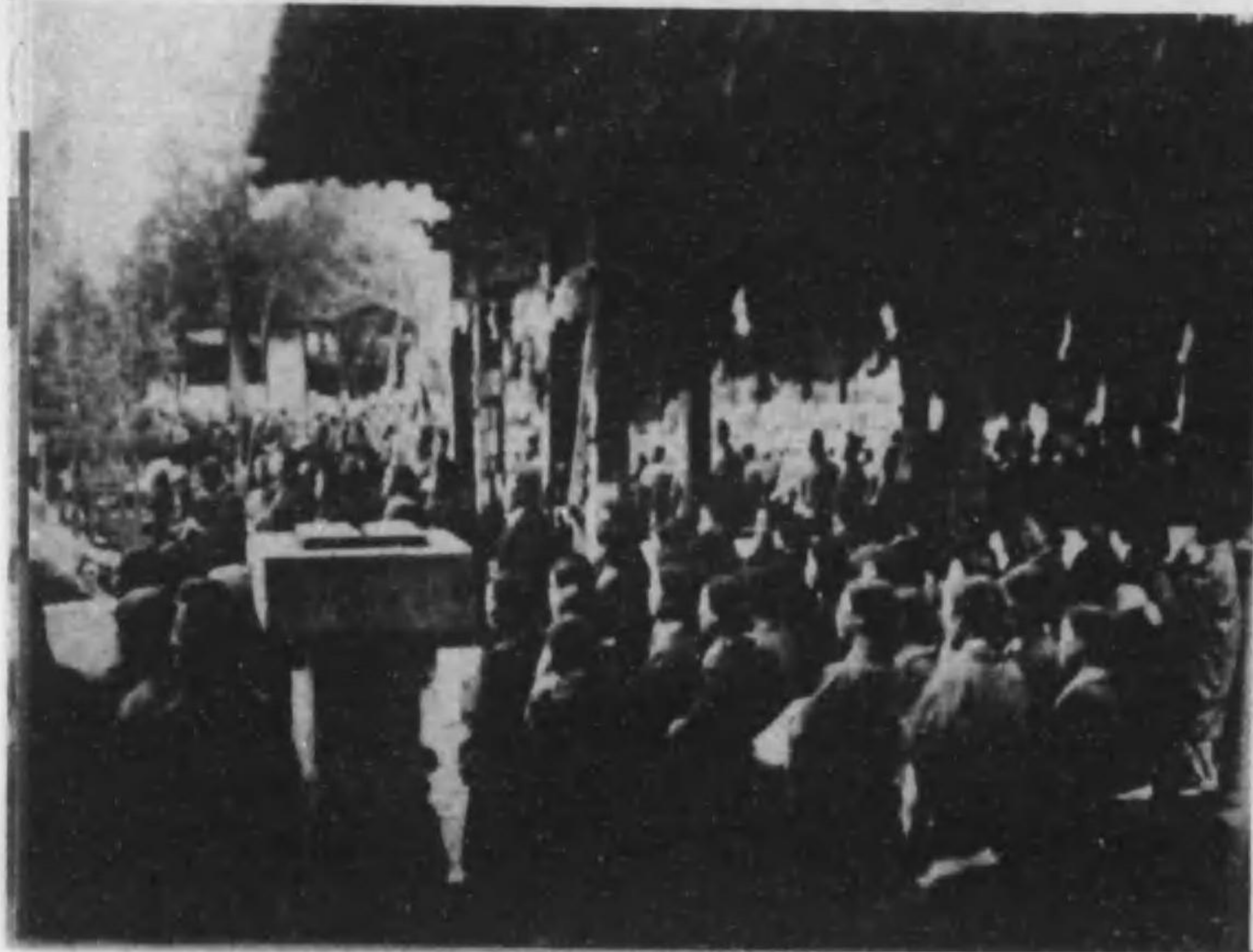


長野縣護國神社に燈火奉納



碓氷峠頂上熊野社に奉納

(乙) 群迎奉の社神島足島生縣小



(甲) 々入るけう火分てに前場役村妻吾曾木



(甲) 迎奉火聖の達んき工女てに原須曾木



松本市深志神社の奉火式(甲)

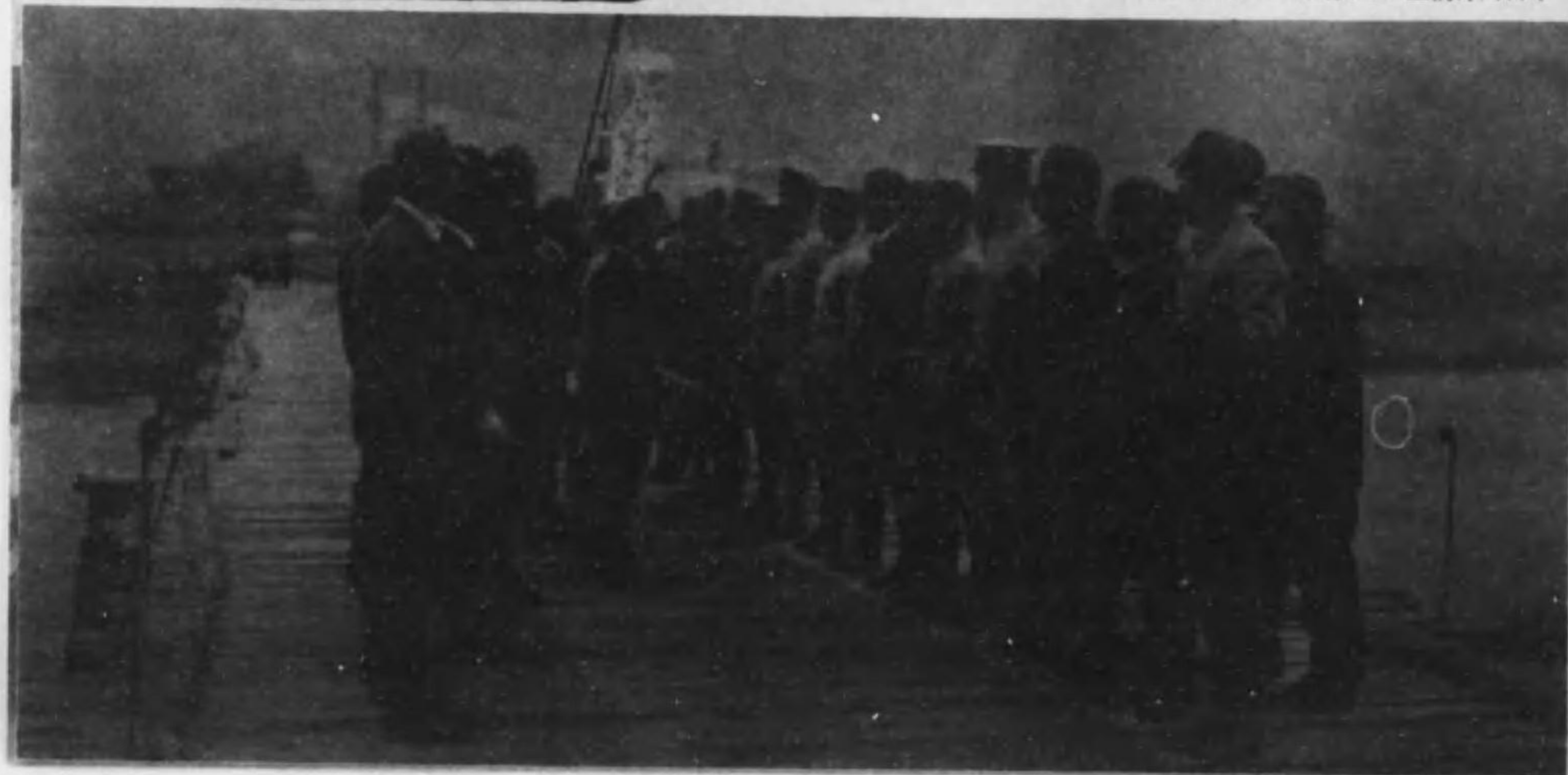


(甲乙) 着到火聖へ社大野科市田上



南安徳高神社の聖火奉納

(甲乙) 〆織引に石力りよ城坂てに上橋并川曲千

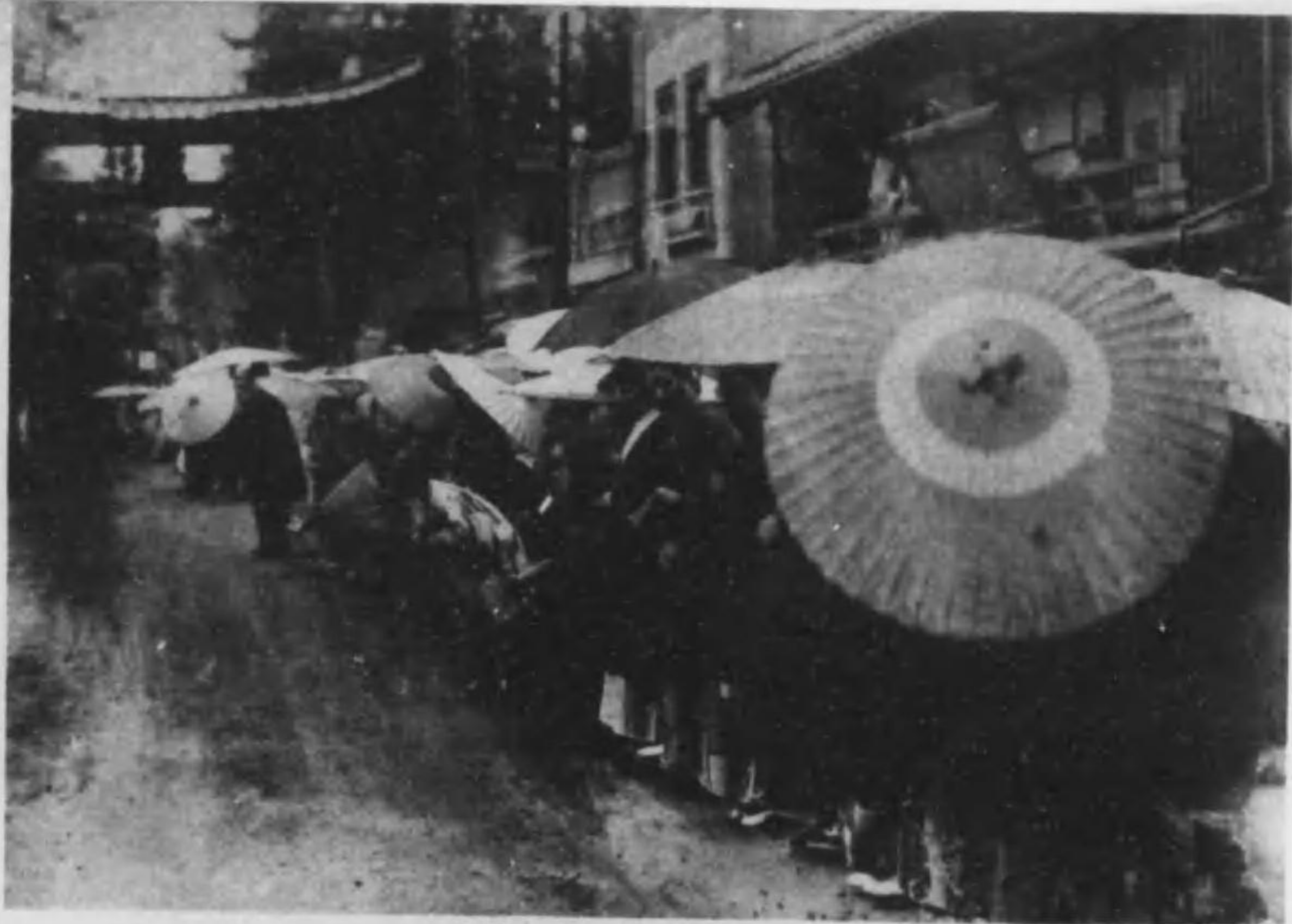


(甲乙) 植紙概殿の社神城坂科植





(172) 火祭む込走に社神山象の中雨



更級八幡神社雨の中の奉迎者(20)



南・北安曇郡境引継ぎ(18)



上水内北小川・日里引継ぎ(21)

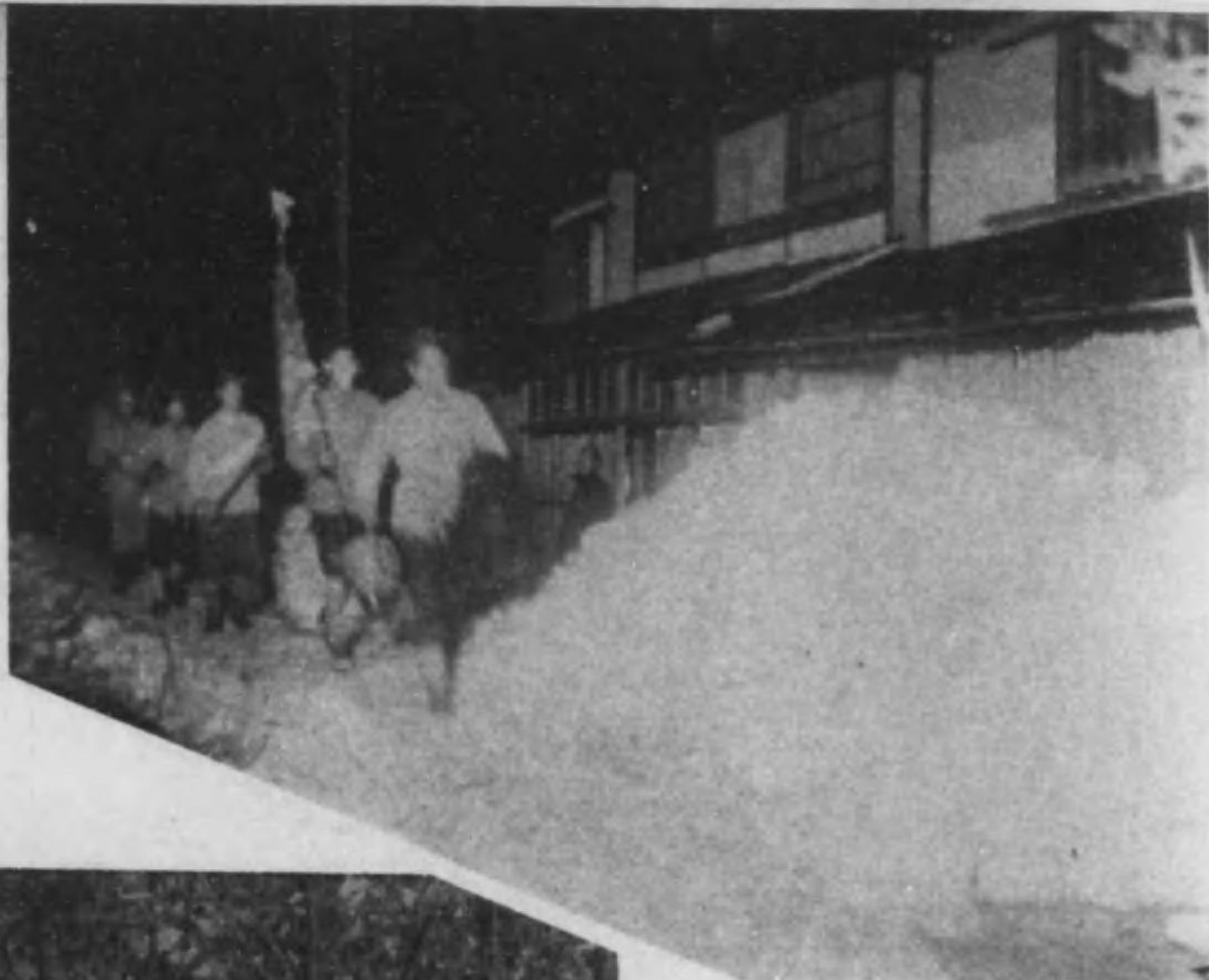
(22) き組引村徳延・町野中井高下



下高井高社神社を走出す(23)



來迎の長野市茂菅區民（乙）



（乙）火聖る走を中雪近付町山飯

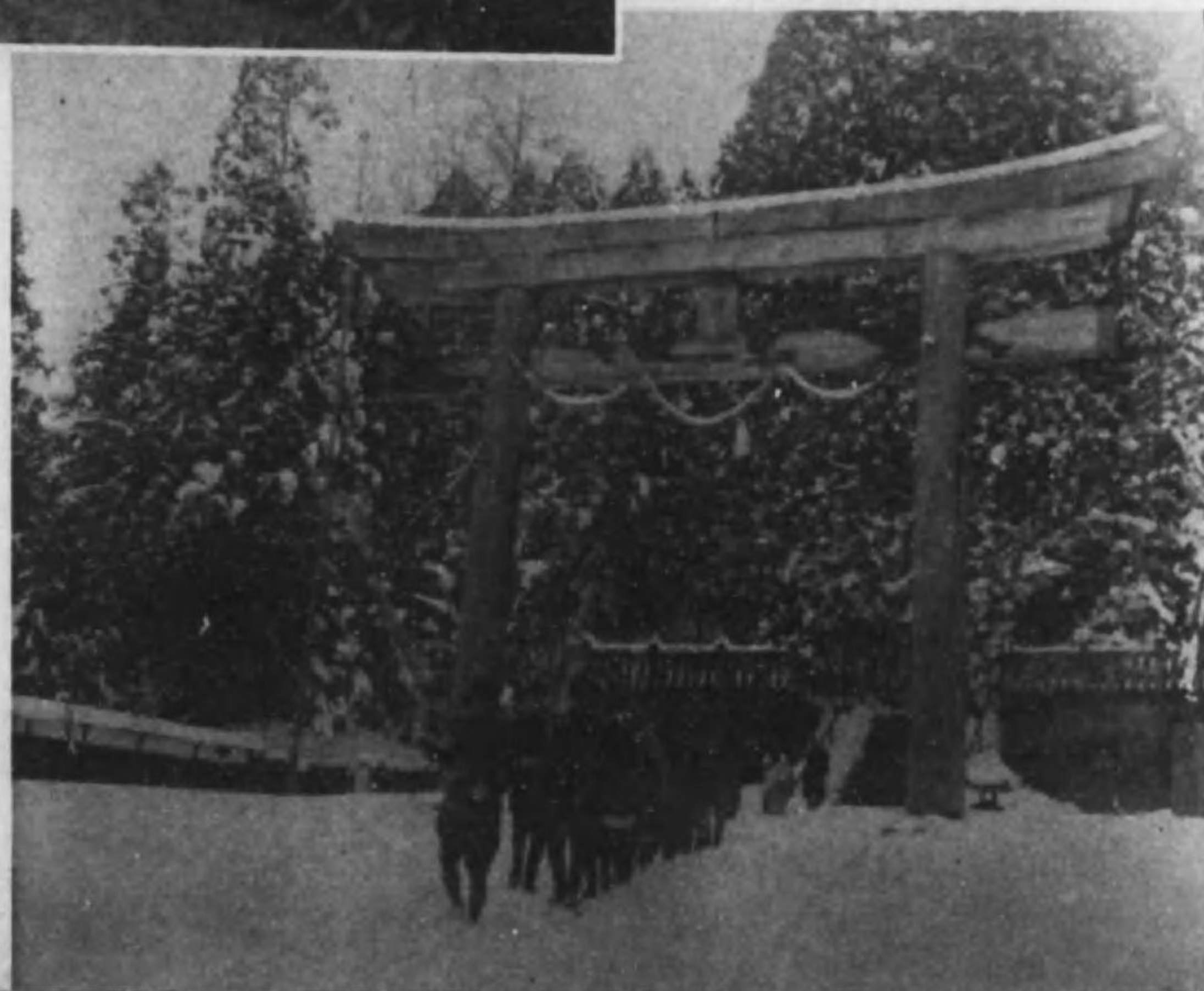
（乙）へ隠戸りよ村風柏内水上



（乙）む進を前居島大社中隠戸火聖



山道に堵列聖火待つ小學生達（水上内村にて）





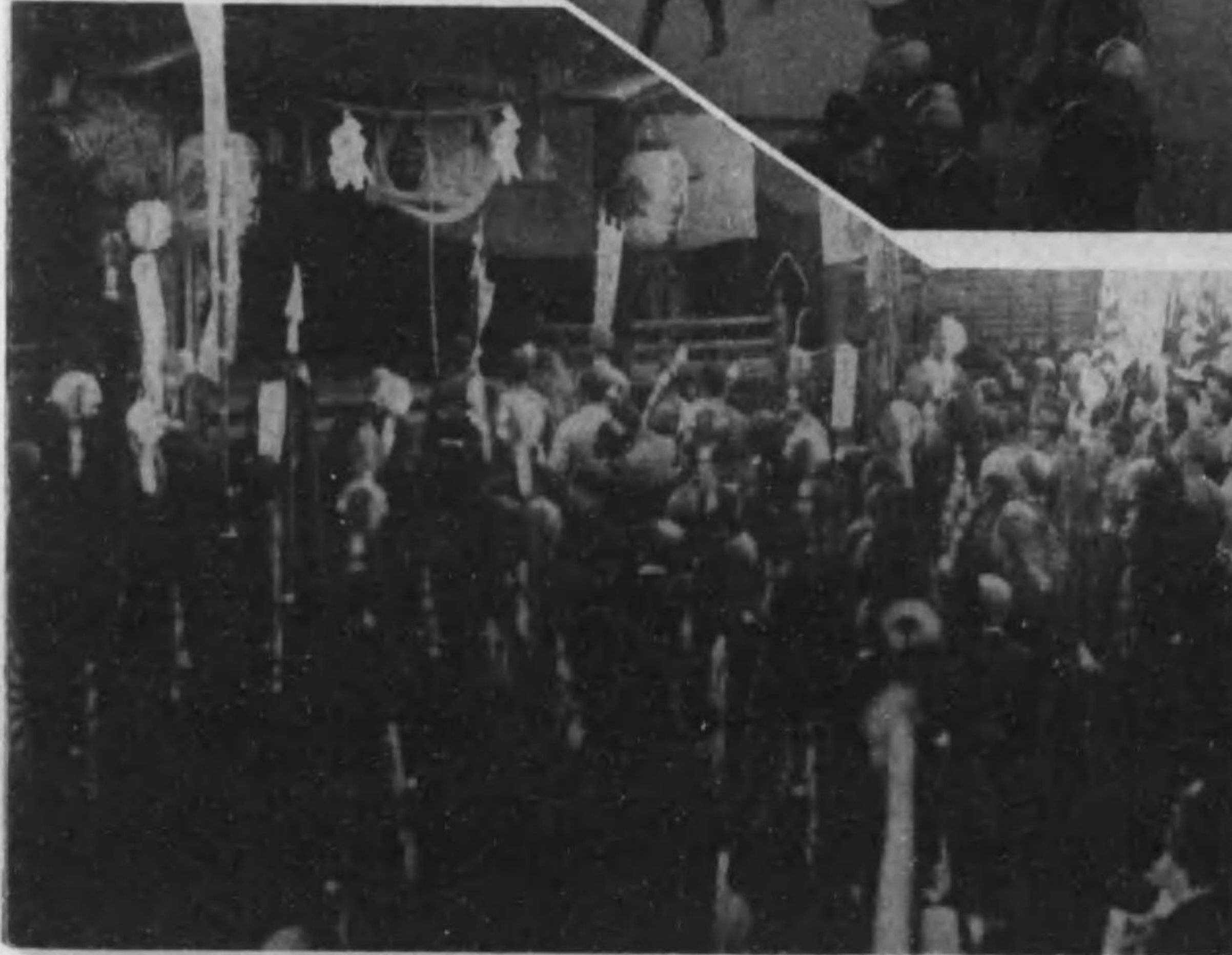
てに場式了終の頭原山城

六日午後四時甲乙兩班は相前後して、主催者たる長野市信濃毎日新聞社前に到着、それより中央通りに出て行進、城山縣社に聖火をおさめたのち城山グラウンドに於て終了式を舉行、最も意義深く、然かも盛大なる行事の幕は茲に全く閉じたのであつた。

信濃毎日新聞社前を出發する聖火



す告奉を了終事行めさおを火聖に社縣山城



長野市中央通を賑々進む聖火



護國の英靈に國民一九の感謝を  
 捧げ、併せて送しき日本建設へ  
 の意圖を告げる第二回善光寺忠  
 靈殿體育大會は、紀元二千六百  
 年に當て意義一入深く、新緑進  
 る五月二十六日佛都城山原頭に  
 展開された。柔道・剣道・銃劍術・  
 弓道・相撲・薙刀と國粹競技の全  
 部にわたって、固ふ精銳は全信  
 濃から馳せ加つた一千四百名昭  
 和武道の進軍譜として全國民に  
 強い感銘を與へたのである。

善光寺忠靈殿前に於ける開會式



選手代表の宣誓



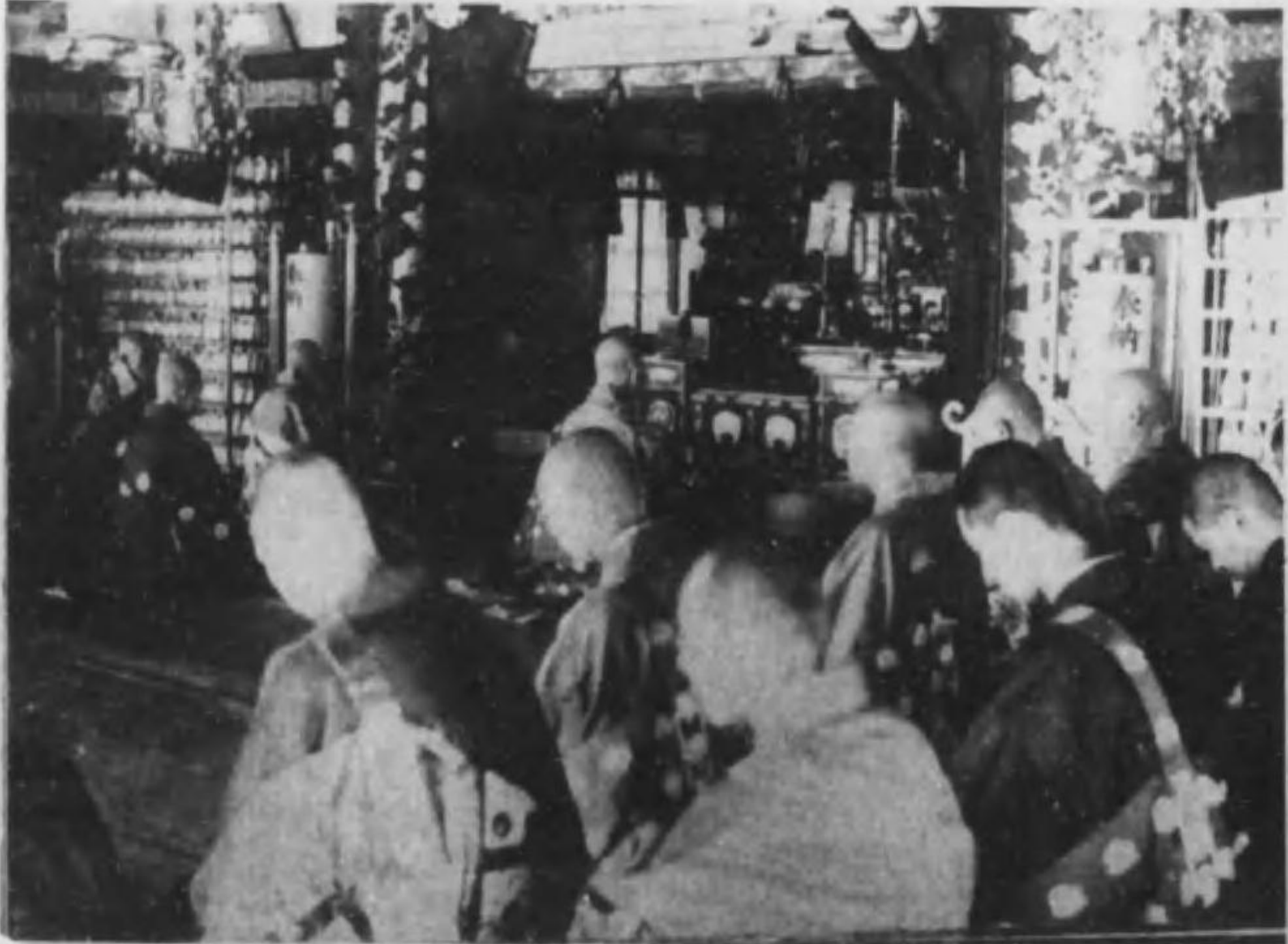
要法るす對に靈英

野長田富長會  
辭式事知縣

每信坂小長員委會大  
辭式役總取務常

野高長會副  
辭式長市野長

信澤西長部技體每  
示指長局輯編每





道柔る躍血の青春



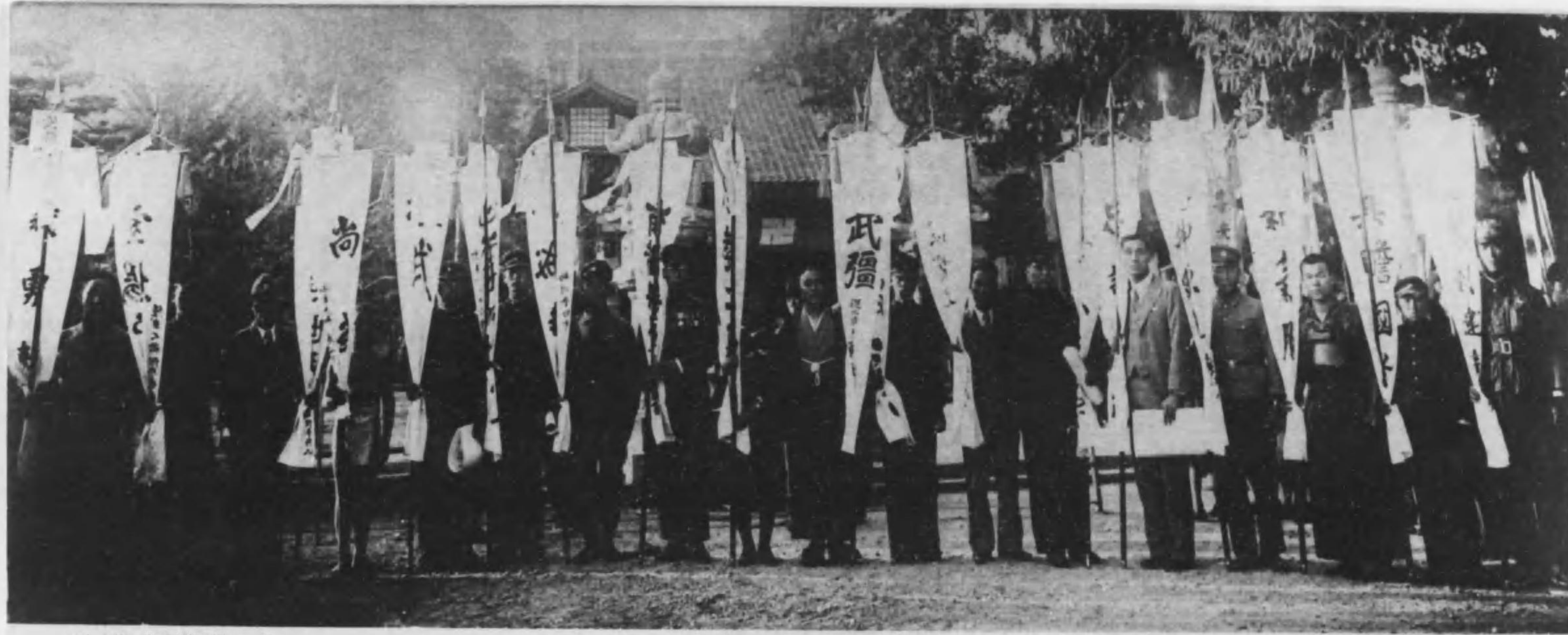
撲相つ撃相弾肉



道創る截を録照爽風



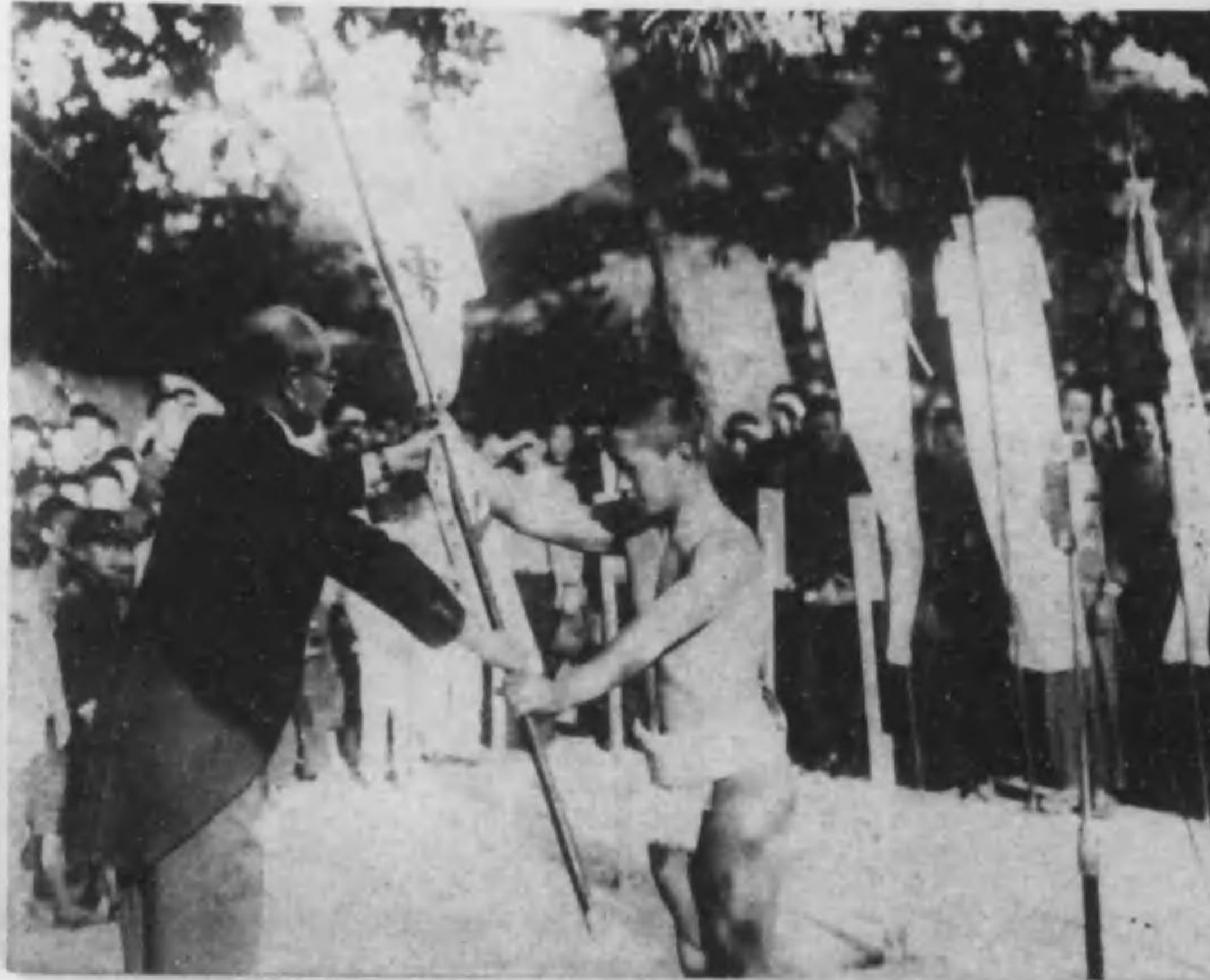
術創徒・氣意の軍郷

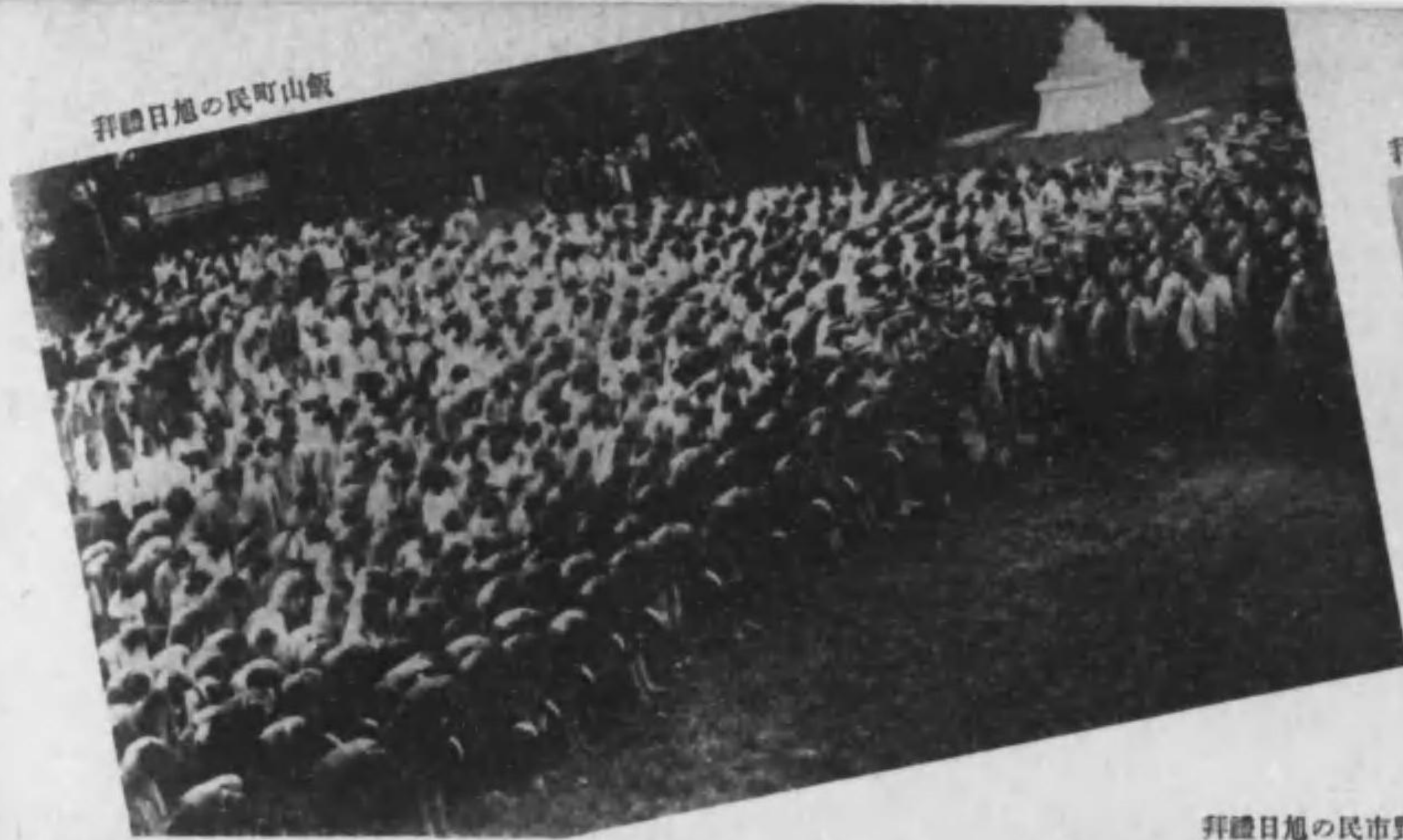


々人く輝て得を戦勝優のれ譽

(中右)一般弓道  
(中左)女子弓道  
(下右)昭和女性  
華・薙刀の團體演  
技

與授戦勝優りよ長員委坂小





拜禮日旭の民町山飯



拜禮日旭の院病軍陸本松

拜禮日旭の民市野長



拜禮日旭の民町訪談上

拜禮日旭の民々町大



るめを濟事紀  
 の全每變元  
 強縣日勃二  
 大に民新發千  
 覺向社周六  
 悟つては年百  
 昂提、旭日意  
 揚に唱、旭日義  
 實、日の深き  
 し聖拜を七月七  
 たの完め七日に  
 の座“日迎ふ  
 であた動信る





丹波橋附近を走る

長野市護国神社前の發程式  
選手代表を走る選手

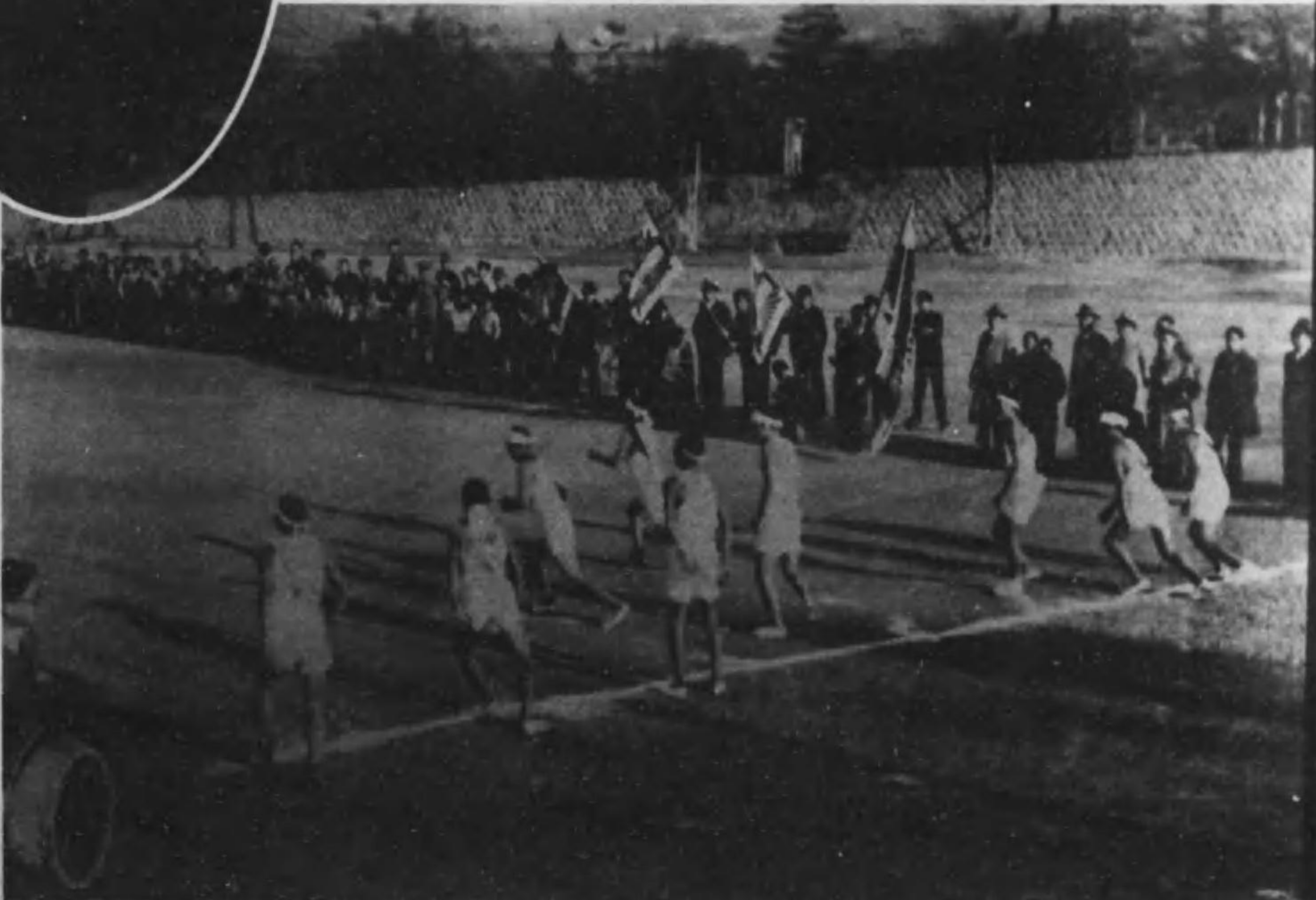
發程式にて選手代表宣誓



皇紀二千六百年奉祝の意を味含めて一義深入るべく主第回長野縣國社神  
奉獻年下青年學校對抗備備大會定十一月五日・六日松本長野一七三キロ  
走して行奉る・演説を演説した



長野市城山グラウンドをスタートす







第二日目下駄勤のスタート



丸子で中継する上水内選手



第一着ゴールインの上小選手



篠ノ井中継所へ一位で走込む更級選手



小坂本社常務取締役より第一位上小チームへ優勝旗授與

遂に優勝した上小チーム

難關和田峠を越ゆる上小選手へ武石小學生の應援





(てに町田村岩)

皇紀二千六百年を奉祝する事業の一つとして、この年の秋、信濃毎日新聞社では縣下各地に於て小學兒童製作品展覽會を開催した。次代を背負はんとする小國民達が、此の世紀に生れ合はせた感激と祝意とを、繪に或は書に、おのづからにはとばしらしめた製作品の展覽は、觀る者に大きな感銘を與へ、皇國民教育上に貢獻する處多かりしのみならず、佳年奉祝の意義を遺憾なく深めたのである。



(てに町山飯)

(てに町井ノ篠)



(てに市田飯)



(てに社本毎信・市野長)



(てに町那伊)



## 紀元二千六百年記念式典參列者

- 一、寫真掲載郡市順位は南佐久・北佐久・小縣・諏訪・上伊那・下伊那・西筑摩・東筑摩・南安曇・北安曇・更級・埴科・上高井・下高井・上水内・下水内・長野市・松本市・上田市・岡谷市・飯田市とし、人物順位は郡部に於ては公様式に依る町村順、市部に於ては五十音順に掲載した。
- 二、ノ切後到着の寫真は前記順位に依る事を得ず補遺として末尾に加へた。
- 三、參列者の略歴を付録したが其の順位は寫真の場合と同様である。
- 四、略歴は大體參列當時のものである。
- 五、寫真も略歴も送付願ひ得なかつた人々に就いては其の氏名のみを略歴欄の末尾に付記した。



(代總民縣・八畑)  
氏治虎木々佐



(長村・瀬海)  
氏助清塚佐



(長村・木相北)  
氏孝地菊



(長岡原郷口ノ海・牧南)  
氏水正出井



(代總民縣・込中)  
氏涼川市



(諭教校學中澤野)  
氏貞鳥小



(代總民縣・田白)  
氏平朝今出井



(長村・榮)  
氏作高澤倉



(長村・方日大)  
氏磨武川淺



(長村・精德)  
氏郎三德澤黒



(長村・牧北)  
氏雄徳出井



(長町・込中)  
氏郎二春松植



(導訓校學小澤野)  
氏作新澤見高



(長校學黨農久佐南)  
氏衛丈原北



(長村・沼青)  
氏柏向日



(長村・八畑)  
氏吉幸出井



(代總民縣・精德)  
氏郎次富澤黒



(長村・海小)  
氏助新田依



(長村・上川)  
氏郎太愛上川



(長町・澤野)  
氏二宗野伴



(代總民縣・田白)  
氏吉辰井櫻



(長村・原切)  
氏期一吉浦三



(長校學小八畑)  
氏治軍崎岩



(代總民縣・精德)  
氏郎太彌澤黒



(長村・木相南)  
氏男子甲島中



(長村・牧南)  
氏義高出井



(代總民縣・澤野)  
氏輔節木並



(長町・田白)  
氏繁内竹



(長村・根平)  
氏 郎太徳澤棚



(尋調校學小諸小)  
氏 術津多林小



(長町・諸小)  
氏 三周川掛



(長所支所籍取業實)  
氏 潔 田 作



(長村・野岸)  
氏 藏政内木



(長村・山内)  
氏 寛 崎 岩



(長村・澤大)  
氏 因 川 市



(長村・井三)  
氏 助直水苗



(長町・澤井輕)  
氏 郎一源屋土



(土讚代・諸小)  
氏 郎太邦山小



(長町・田村岩)  
氏 一 英 原



(長校女高田村岩)  
氏 思長崎岩



(長村・井橋)  
氏 太彌哲田白



(長村・口田)  
氏 助之慶谷豊



(長所馬種野長・井三)  
氏 夫屋高馬對



(長村・倉長西)  
氏 録新見里



(土讚代・諸小)  
氏 亮 山 小



(代總民縣・田村岩)  
氏 助喜井長



(尋調校學小田村岩)  
氏 郎四原荻



(代總民縣・山前)  
氏 島大本岡



(監教校學年青賀平)  
氏 雄輝田多



(長村・賀志)  
氏 藏久伊津紳



(長村・賀庄)  
氏 郎三森澤柳



(代總民縣・諸小)  
氏 郎三甚山小



(長所振出久佐北部濟額)  
氏 男幸松村



(長校學中田村岩)  
氏 郎太寅藤佐



(長村・山前)  
氏 融 輪 箕



(長村・賀平)  
氏 昇 澤 中



(長校學小子丸)  
氏 德 一 下 岩



(長村・島橋)  
氏 郎 四 清 橋 高



(長村・日春)  
氏 實 田 武



(代總民縣・澁川)  
氏 利 重 川 掛



(代總民縣・沼小)  
氏 三 郷 山 高



(長村・井大南)  
氏 紀 清 利 甘



(長村・瀬高)  
氏 幸 田 毛 羽



(長村・子丸)  
氏 郎 三 大 澤 柳



(長村・和都三)  
氏 知 正 川 市



(長村・和協)  
氏 男 一 田 依



(長村・田新衛兵郎五)  
氏 三 叔 藤 伊



(長村・井大北)  
氏 器 津 齊 美



(長校學小井大南)  
氏 治 伸 岡 花



(長村・都依中)  
氏 夫 信 原 上



(代總民縣・子丸)  
氏 作 藤 本 山



(長村・牧御北)  
氏 郎 四 市 澤 柳



(長村・牧本)  
氏 満 橋 高



(長村・牧御南)  
氏 男 田 依



(長村・里大)  
氏 郎 三 宇 岡 花



(長村・田代御)  
氏 内 源 川 安



(長村・津中)  
氏 平 常 平 吉



(長町・町新保久長)  
氏 次 昌 重 武



(所在駐牧御北)  
氏 夫 榮 村 中



(長村・田苧)  
氏 郎 三 儀 下 岩



(長村・施布)  
氏 助 袋 製 田 常



(長村・澁川)  
氏 郎 一 捨 田 依



(長村・沼小)  
氏 久 貞 利 甘



(長村・岡三)  
氏 郎 太 廣 村 中



(長村・田依)  
氏一源田津志



(長村・尻鹽)  
氏門衛右郎八藤佐



(長村・陽傍)  
氏治武林小



(代總民縣・城股)  
氏一新崎榮



(長村・川神)  
氏正井金



(長村・津福)  
氏吉才澤宮



(長町・町古津長)  
氏郎太藤野星



(長村・内西)  
氏郎太卯藤齋



(長村・瀬長)  
氏平仁中田



(長村・科神)  
氏郎一直鳥倉



(長村・原本)  
氏實一水清



(代總民縣・川神)  
氏郎三榮川谷長



(代總民縣・津福)  
氏貴善屋土



(長村・野嶺)  
氏二量岡長



(長村・内東)  
氏郎次喜田山小



(役助・瀬長)  
氏一常村中



(尋調校學小科神)  
氏基下宮



(長村・長)  
氏郎一儀澤柳



(長村・里豊)  
氏治政木満



(尋調校學小津福)  
氏勝澤柳



(代總民縣・野嶺)  
氏雄義部阿



(代總民縣・内東)  
氏郎一莊本山



(長村・川塩)  
氏説澤瀧



(代總民縣・川鹽)  
氏衛兵理原



(代總民縣・長)  
氏郎太彦澤柳



(長村・城股)  
氏富幸原上



(長村・和)  
氏善金小林小



(長村・邊川)  
氏人拾浦山



(代總民縣・訪談上)  
氏 久良 澤 豐



(代總民縣・訪談上)  
氏 郎太 詳 森 大



(代總民縣・訪談下)  
氏 作 繁 味 五



(長村・田豐東)  
氏 三 藤 原 宮



(長村・田豐西)  
氏 門 衛 左 助 田 武



(長村・賀室)  
氏 衛 義 水 清



(長村・石武)  
氏 久 詰 橋



(代總民縣・訪談上)  
氏 一 與 村 田



(代總民縣・訪談上)  
氏 二 倪 澤 小



(尋調校學小訪談下)  
氏 雄 幸 口 小



(長村・山土宮)  
氏 平 陶 村 峰



(長村・所調)  
氏 郎 一 浩 橋 山



(長村・里譜)  
氏 周 下 宮



(長村・田和)  
氏 郎 四 中 田



(長校學小島高)  
氏 穂 章 原 繁



(所支訪談上局野林室帝)  
氏 重 金 島 大



(支巡署訪談上)  
氏 一 久 佐 川 有



(長町・訪談下)  
氏 一 守 口 小



(長村・田豐中)  
氏 三 亮 泉 小



(長村・木青)  
氏 雅 正 内 堀



(土議代・田和)  
氏 郎 副 武 田 羽



(代總民縣・訪談上)  
氏 臨 宗 山 丸



(長町・訪談上)  
氏 潤 原 豐



(館書所農田木士訪談)  
氏 儀 清 山 秋



(長場論試産水訪談下)  
氏 郎 七 脚 鴨



(代總民縣・田豐中)  
氏 吉 茂 上 村



(長局便郵水實)  
氏 門 衛 右 庄 原 宮



(長村・田泉)  
氏 巖 澤 西





(長村・野泉)  
氏次勝澤松



(長村・平豊)  
氏郷清尼牛



(代總民縣・明永)  
氏明泰叔宮



(長村・地長)  
氏平松田山



(長村・岸川)  
氏雄武倉片



(長村・洲中)  
氏一東伊



(代總民縣・訪談上)  
氏子美不山丸



(代總民縣・野泉)  
氏香省森藤



(長村・川玉)  
氏吉勝田原



(長村・澤米)  
氏宿兵太味五



(代總民縣・地長)  
氏得元邊渡



(代總民縣・岸川)  
氏術勝倉片



(代總民縣・訪談上)  
氏七喜屋守



(代總民縣・訪談上)  
氏而滿叔宮



(長村・村原)  
氏司兵水清



(代總民縣・川玉)  
氏久安島平



(長村・山北)  
氏宿龜崎矢



(長村・賀四)  
氏一耕野茅



(代總民縣・岸川)  
氏巳和澤北



(長校學中訪談)  
氏一俊澤吉



(代總民縣・訪談上)  
氏治玉坂宮



(長村・郷本)  
氏郎五惣池小



(代總民縣・川玉)  
氏代子田上



(長村・東湖)  
氏治衆藤伊



(長村・明永)  
氏男武崎矢



(代總民縣・岸川)  
氏雄武崎山



(員議院族貴・岸川)  
氏郎太兼倉片



(士議代・訪談上)  
氏男胤澤宮



(長村・富那伊)  
氏治米松小



(長町・遠高)  
氏雄常瀬廣



(長校女高那伊)  
氏郎八平原春



(代總民縣・町那伊)  
氏助之政松小



(代總民縣・南湖)  
氏英精野津



(長村・湊金)  
氏吉浦松小



(長村・境)  
氏進之角出平



(代總民縣・富那伊)  
氏郎太覺井武



(長村・野小)  
氏人政野小



(士議代・町那伊)  
氏勝満野



(長町・那伊)  
氏四昭平下



(長村・田豊)  
氏作與田山



(代總民縣・川宮)  
氏門衛左作藤伊



(長村・合落)  
氏備六池小



(代總民縣・富那伊)  
氏治支田和



(長村・島川)  
氏也政澤飯



(所判裁區那伊)  
氏信龍田濱



(長所介紹業職那伊)  
氏美政木々佐



(長村・湊)  
氏美勳澤味



(代總民縣・川宮)  
氏江みす井今



(長村・見士富)  
氏瑠玖川細



(代總民縣・輪箕中)  
氏人康賀有



(尋調校學小富那伊)  
氏浩内河黒



(署務稅那伊)  
氏男正岡若



(代總民縣・町那伊)  
氏道賀宮榮



(長校學小那伊)  
氏輔泰藤伊



(長村・南湖)  
氏郎五澤西



(尋調校學小見士富)  
氏春隆崎矢



(長村・澤藤)  
氏十作山向



(長村・縣寄)  
氏巖谷細



(代總民縣・澤中)  
氏其志池小



(長村・桐片)  
氏助儀村松



(代總民縣・穗赤)  
氏郎二要澤宮



(代總民縣・穗赤)  
氏藏文部芦



(長村・輪箕中)  
氏雄洋東水苗



(長村・藤長)  
氏衛直原北



(長村・南河)  
氏藏勇澤湯



(長村・那伊)  
氏雄傳澤福



(代總民縣・向南)  
氏平應坂高



(長村・鳥飯)  
氏一正野河



(代總民縣・穗赤)  
氏平金原北



(代總民縣・輪箕中)  
氏風一葉千



(長村・義三)  
氏信賢原



(長村・和美)  
氏吾金山中



(長村・近春東)  
氏一義田細



(長村・向南)  
氏盈山米



(長村・保久七)  
氏直以桐片



(長町・穗赤)  
氏作良田小



(長村・近春西)  
氏備羽赤



(長村・篤美)  
氏司衛日春



(長村・里那伊)  
氏郎一要下宮



(代總民縣・近春東)  
氏藏長鳥飯



(長村・澤中)  
氏雄一下木



(長村・桐片上)  
氏郎一澤宮



(藤岡校學小穗赤)  
氏郎一清腰竹



(長村・田宮)  
氏清正水清



(代總民縣・條下)  
氏男喜島福



(代總民縣・本山)  
氏人成村市



(長村・尾松)  
氏夫亮川吉



(專調校學小田市)  
氏郎四田保久



(長村・吹山)  
氏一又田倉



(長村・輪箕東)  
氏助之準柳青



(長村・輪箕南)  
氏幸友田倉



(專調校學小條下)  
氏彌八村木



(長村・路内清)  
氏實風下松



(長村・丘龍)  
氏郎市田代



(代總民縣・田市)  
氏夫農正都橋



(長村・寺光座)  
氏郎四文原綿



(長村・日朝)  
氏一嘉戸瀨



(長村・良手)  
氏人正野海



(長村・條下大)  
氏玖理田金



(長村・地會)  
氏平弘原



(代總民縣・丘龍)  
氏穗美田中



(專調校學小縣)  
氏美義谷熊



(士議代・郷上)  
氏助之智阿原北



(代總民縣・日朝)  
氏野横輪三



(長村・輪箕)  
氏治平井細



(長村・豊)  
氏陸幹村松



(長村・谷平)  
氏門衛右藤松村



(長村・穗三)  
氏郎太村今



(論散校學年青尾松)  
氏人國涯毛



(長村・田市)  
氏實一川間



(長村・島大)  
氏郎一長山米



(長村・輪箕西)  
氏成茂松小



(長村・川橋)  
氏 剛 畑 吉



(區閣機遣鐵・島福)  
氏 郎 十 太 村 中



(局支會木局野林室帝)  
氏 太 良 田 富



(局支會木局野林室帝)  
氏 郎 太 國 野 今



(代總民縣・野河)  
氏 郎 太 金 井 筒



(土讓代・江龍)  
氏 司 謙 原 中



(長村・開且)  
氏 氣 和 千 谷 藤



(長村・祖木)  
氏 郎 次 菊 原 典



(局支會木局野林室帝)  
氏 郎 三 昇 邊 護



(局支會木局野林室帝)  
氏 次 宗 野 藤



(代總民縣・島福)  
氏 一 秀 野 小



(長村・田和)  
氏 雄 忠 崎 山



(長村・繁久下)  
氏 人 直 石 三



(長村・圓平)  
氏 清 田 花



(長村・川奈)  
氏 喜 龍 藤 嘉



(長町・松上)  
氏 正 儀 中 野



(局支會木局野林室帝)  
氏 耕 田 平



(長局支會木局野林室帝)  
氏 夫 宣 木 辛



(長村・草富)  
氏 美 珍 木 々 佐



(長村・木高)  
氏 人 誠 原



(代總民縣・代千)  
氏 藏 三 岡 島



(長村・義日)  
氏 郎 治 末 川 谷 長



(査巡所在駐村川橋)  
氏 清 井 寛



(代總民縣・島福)  
氏 助 之 銀 岡 松



(長町・島福)  
氏 太 正 藤 佐



(代總民縣・島福)  
氏 淳 東 伊



(長村・野河)  
氏 盛 澤 桃 胡



(長村・代千)  
氏 薫 島 松



(長村・常五)  
氏 壽 岸 山



(尋調校學小郷本)  
氏 逸 眞 山 橋



(長村・邊山入)  
氏 吉 傳 島 豊



(代總民縣・尻鹽)  
氏 人 正 澤 小



(長村・書讀)  
氏 郎 次 原 岡



(長校學小澤黒)  
氏 富 千 野 牧



(長村・開新)  
氏 吉 榮 原



(長村・田中)  
氏 男 伊 間 草



(長村・田岡)  
氏 治 久 佐 林 小



(代總民縣・郷本)  
氏 郎 一 準 沼 飯



(長校學小尻鹽)  
氏 雄 露 池 大



(長村・妻吾)  
氏 郎 太 並 田 平



(長村・瀧王)  
氏 雄 征 尾 細



(代總民縣・田岡)  
氏 二 亮 島 下



(長村・城本)  
氏 司 傳 下 岩



(長村・郡錦)  
氏 市 仲 田 太



(長村・郷本)  
氏 郎 佐 仁 浦 三



(長町・尻鹽)  
氏 一 信 内 堀



(長村・口山)  
氏 一 清 脇 市



(長村・桑大)  
氏 八 傳 島 大



(長村・田岡)  
氏 一 藤 澤 細



(代總民縣・北坂)  
氏 宗 結 坂 宮



(長村・田會)  
氏 郎 一 彌 旗 降



(代總民縣・郷本)  
氏 毅 三 島 宮



(長村・邊山聖)  
氏 操 井 新



(長村・立田)  
氏 郎 五 勘 宮 大



(尋調校學小書讀)  
氏 省 三 林 小



(長村・岳三)  
氏 人 直 中 田



(代總民縣・地摩筑)  
氏 雄 藤 木 青



(長村・井新)  
氏 馬 篤 中 田



(代總民縣・馬洗)  
氏 司 村 谷 熊



(代總民縣・田渡)  
氏 男 恒 合 和



(代總民縣・立島)  
氏 重 榮 野 上



(長村・手川東)  
氏 郎 五 泰 沖



(長村・北坂)  
氏 夫 喜 世 本 山



(代總民縣・地摩筑)  
氏 郎 八 戸 神



(代總民縣・新)  
氏 信 條 上



(長村・馬洗)  
氏 助 又 原 塚



(長村・形山)  
氏 可 長 池 大



(代總民縣・立島)  
氏 文 清 藤 武



(代總民縣・手川中)  
氏 輝 弘 口 溝



(長村・韻麻)  
氏 平 坦 邊 茂



(長村・丘片)  
氏 郎 八 利 村 中



(長村・井今)  
氏 彌 鶴 中 田



(長村・田和)  
氏 郎 次 海 條 上



(長村・日朝)  
氏 夫 弘 村 三



(長村・立島)  
氏 治 藤 利 瀬 百



(長村・手川中)  
氏 輝 美 々 加



(長村・井坂)  
氏 永 彦 井 玉



(長村・山中)  
氏 雄 茂 間 草



(長村・地摩筑)  
氏 郎 四 瓶 古



(長村・林神)  
氏 郎 次 國 口 野



(尋調校學小日朝)  
氏 勇 瀬 百



(代總民縣・田渡)  
氏 雄 守 像 宗



(長村・手川上)  
氏 雄 重 澤 增



(長村・坂生)  
氏 城 登 川 宮



(士議代・盛明)  
氏 郎二 悦原 植



(長村・高徳南)  
氏 船 村 岡



(代總民縣・川島)  
氏 也 龍 倉 米



(長村・温)  
氏 茂 壽 柳 青



(代總民縣・梓)  
氏 義 朝 今 科 倉



(士議代・科豊)  
氏 耕 中 田



(士議代・山中)  
氏 渡 瀬 百



(長村・盛明)  
氏 倫 松 小



(長村・高徳西)  
氏 孝 盛 轟



(長村・川島)  
氏 一 壽 倉 平



(代總民縣・温)  
氏 平 惣 村 三



(長村・倭)  
氏 男 平 内 竹



(長町・科豊)  
氏 郎 十 儀 原 三



(長村・丘廣)  
氏 晴 又 羽 赤



(長議會縣・町大)  
氏 郎 一 竹 山 内



(長村・高徳北)  
氏 作 登 藤 伊



(長村・家高)  
氏 幸 木 高



(長村・田三)  
氏 高 壽 花 板



(學訓校學小梓)  
氏 基 塚 手



(長町・高徳)  
氏 衛 政 井 白



(諭教校學農安南)  
氏 司 康 原 笠



(長所張用安北部濟經)  
氏 門 衛 左 善 彌



(長村・明有)  
氏 司 一 山 秋



(代總民縣・家高)  
氏 郎 一 護 山 丸



(長村・倉小)  
氏 技 六 田 塚



(長村・梓)  
氏 司 金 村 三



(長村・晏安)  
氏 憲 律 上 川



(長校學小科豊)  
氏 進 松 小





(長町・山荷稻)  
氏平 備本山



(長村・谷小南)  
氏志 武井坂



(長村・平)  
氏純 口矢



(長村・郷陸)  
氏壽 嘉藤遠



(在巡所在駐村盤常)  
氏男 前坂宮



(長村・社)  
氏雄 正橋高



(代總民頼・町大)  
氏吾 秀林平



(長町・井ノ鎌)  
氏郎 三祐方日大



(長村・谷小北)  
氏郎 九彌崎山



(長村・城神)  
氏司 忠田太



(長村・津廣)  
氏司 橋口山



(長村・川松)  
氏逸 秀野茅



(職神・村社)  
氏也 周内竹



(専調校學小町大)  
氏亨 口矢



(代總民頼・井ノ鎌)  
氏男 茂田保久



(専調校學小谷小北)  
氏男 本山



(長村・城北)  
氏重 太田大



(長村・坂八)  
氏郎 一準山丸



(長村・染會)  
氏雄 義山高



(長村・盤常)  
氏郎 一敬水清



(長町・田池)  
氏次 滿田窪



(専調校學小町通)  
氏弘 明五



(長村・土中)  
氏郎 肆原田



(諭教校學年青谷小南)  
氏次 源喜山々野



(長村・麻美)  
氏一 誠藤伊



(長村・貴七)  
氏市 誠口矢



(代總民頼・盤常)  
氏雄 鎮水清



(長署察警田池)  
氏雄 平島兒



(代總民縣・厨師)  
氏夫暢時山



(代總民縣・津中)  
氏郎一口坂



(長村・岡大)  
氏生富中田



(代總民縣・柳川)  
氏郎一太澤西



(長村・幡八)  
氏進林若



(長村・石力)  
氏雄光山宮小



(長署察警井ノ篠)  
氏乙五松小



(長村・里稻)  
氏藏市木青



(長村・津中)  
氏助銀田生羽



(長村・府更)  
氏雄恒田塚



(長村・柳川)  
氏治我久本山



(代總民縣・幡八)  
氏もと田和



(代總民縣・石力)  
氏助之力坂宮



(代總民縣・井ノ篠)  
氏太幾田島



(導調校學小龜水下)  
氏郎一忠月歌和



(代總民縣・厨師)  
氏雄益林小



(長村・里信)  
氏久輝山内



(長村・田信)  
氏成國林小



(長村・原榮)  
氏貴田富



(長村・上村)  
氏志廣井大



(代總民縣・井ノ篠)  
氏助之源入宮



(長村・島鶴)  
氏巖村北



(長村・厨師)  
氏助之傳林



(長村・和共)  
氏雄茂田庄



(長村・郷牧)  
氏敏井玉



(長村・崎慶)  
氏雄中田



(長村・教更)  
氏衛兵甚村北



(代總民縣・田山上)  
氏雄繁木青



(長村・條西)  
氏南東西澤木八



(長村・村森)  
氏隆賢村西



(長村・加五)  
氏郎太万内竹



(代總民縣・代松)  
氏郎次彦田八



(代總民縣・代屋)  
氏郎三音林若



(導調校學小城坂)  
氏人義部色



(長村・田島小)  
氏文朋部阿



(長村・條東)  
氏治平小本塚



(長村・科倉)  
氏重藤近



(職神・加五)  
氏調章林宮



(長村・條南)  
氏郎志澤瀧



(長局便郵代松)  
氏勳藤齋



(長町・城坂)  
氏哲日春



(長村・島木青)  
氏郎三吉川市



(長村・榮豊)  
氏郎治政日春



(長村・縣宮雨)  
氏美晴藤安



(長村・生埜)  
氏郎治徳川市



(長村・條之中)  
氏順田塚



(長町・代松)  
氏衛兵字田中



(長町・代屋)  
氏郎治寅村新



(長村・寺福東)  
氏夫秀木青



(長村・尾寺)  
氏郎太重田榮



(長村・野蒔)  
氏男正出小



(長村・下瀬杭)  
氏司榮達安



(長町・倉戸)  
氏三圭澤瀧



(導調校學小代松)  
氏重平澤西



(論教授業實子女代屋)  
氏久露澤宮



(長村・尾寺西)  
氏治柳村中



(長村・丘高)  
氏次芳非酒



(尋調校學小施布小)  
氏助之龜島長



(長村・田山)  
氏吉啓田保久



(長村・丘豊)  
氏郎太房原春



(長村・内輪)  
氏郎太貞崎山



(長村・科保)  
氏雄久岸山



(代總民縣・尾寺)  
氏量憲谷戸



(長村・野平)  
氏一吾谷關



(長町・野中)  
氏衛兵彌切田小



(長村・住都)  
氏造慶中田



(長村・野日)  
氏治音本坂



(長村・上井)  
氏雄重本坂



(長村・田川)  
氏泰澤西



(士議代・坂須)  
氏治邦中田



(長村・野日)  
氏勝政澤根小



(尋調校學小野中)  
氏智英川白



(長明便郵施布小)  
氏郎太長井岩



(長村・洲豊)  
氏治俊屋土



(長村・甫高)  
氏政善澤中



(代總民縣・内輪)  
氏二修澤宮



(長局便郵坂須)  
氏八喜水清



(長村・波穂)  
氏保本山



(長村・徳延)  
氏次隆子金



(長村・施布小)  
氏郎四山内



(長村・井高)  
氏吉賢岩黒



(長村・禮仁)  
氏吉梅塚篠



(代總民縣・内輪)  
氏助貞澤宮



(長校學小坂須)  
氏郎治虎水清



(代總民縣・鄉紳)  
氏作豊田和



(長村・原柳)  
氏助元澤宮



(長村・塚)  
氏一幸藤齋



(長村・高穂)  
氏平東林小



(長村・島木上)  
氏良市彌木高



(長村・丘長)  
氏介了科保



(代總民縣・禮平)  
氏市嘉藤佐



(長村・里古)  
氏次佐小中田



(長村・沼長)  
氏郎太初永徳



(長村・島豆大)  
氏保出小



(長村・穂端)  
氏門衛左郎五林小



(長村・郷往)  
氏文忠角大



(長村・野科)  
氏助之己田島



(長村・禮平)  
氏知通崎宮



(長村・槻若)  
氏馨岡花



(長村・居島)  
氏博義松村



(長村・扇朝)  
氏市彌山森



(長村・郷豊)  
氏史正井富



(尋調校學小郷往)  
氏次昇山中



(長村・傍)  
氏泉和田豊



(長村・瀬間夜)  
氏郎太禮木湯



(長村・川淺)  
氏次信林小



(長村・郷紳)  
氏巳清原吉



(員議院族貴・原柳)  
氏造順坂小



(長村・川市)  
氏郎三伊崎野



(長校學林農井高下)  
氏郎十菊口山



(長村・島木)  
氏次副藤佐



(長村・岡平)  
氏高紀山丸



(長村・榮)  
氏 勇 井 岩



(代總民縣・和津)  
氏 一 元 戸 坂



(主議代・川小北)  
氏 雄 忠 本 松



(司社社神醫白)  
氏 利 治 井 武



(長村・井孚)  
氏 助 之 虎 口 山



(長村・尻漁信)  
氏 郎 敬 橋 高



(長村・岡高)  
氏 吉 鼎 山 丸



(代總民縣・榮)  
氏 喜 政 内 堀



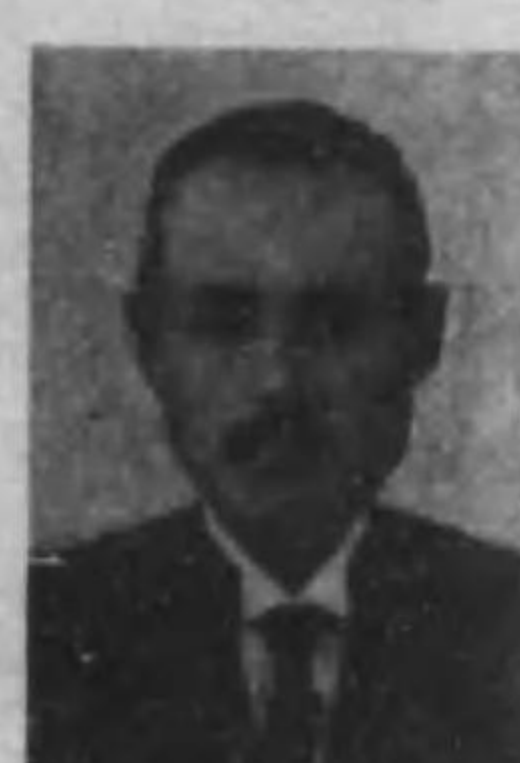
(長村・和津)  
氏 郎 三 義 尾 宮



(長村・川小北)  
氏 男 三 本 松



(長村・棚)  
氏 郎 一 助 嵩 徳



(長村・隠戸)  
氏 藏 信 山 北



(長村・間吉)  
氏 作 孝 村 駒



(長村・郷中)  
氏 夫 吉 山 丸



(長村・里日)  
氏 利 正 方 日 大



(代總民縣・内水)  
氏 郎 重 榮 澤 尾



(長村・川小南)  
氏 禧 和 本 松



(論教授學年青備)  
氏 代 千 龜 田 和



(尋調校學小隠戸)  
氏 郎 治 金 林 小



(長村・里土富)  
氏 郎 一 作 澤 味 五



(長校學小尻野)  
氏 郎 次 周 井 野 山



(代總民縣・切田小)  
氏 之 保 田 長



(長村・内水)  
氏 輔 柳 水 清



(代總民縣・和津)  
氏 秀 観 原 笠



(長村・里無鬼)  
氏 厚 村 中



(司宮社神隠戸)  
氏 人 淑 山 久



(代總民縣・井孚)  
氏 藏 賀 嘉 澤 古



(長村・原柏)  
氏 治 惣 與 村 中



(代總民縣・野長)  
氏 昇 井 新



(長村・井登)  
氏 治 定 田 紳



(長村・田太)  
氏 治 榮 瀨 市



(長村・盤常)  
氏 市 戸 内 木



(導調校學小盤常)  
氏 郎 太 光 橋 高



(職紳・山飯)  
氏 文 吉 川 小



(長村・切田小)  
氏 治 大 原 禮



(長課畫規部濟經)  
氏 武 清 井 今



(長院病部支野長赤日)  
氏 里 千 原 相



(代總民縣・田太)  
氏 門 衛 右 三 野 水



(代總民縣・盤常)  
氏 二 一 卷 藤



(代總民縣・山飯)  
氏 藏 長 野 牧



(長所畫出内水下部濟經)  
氏 雄 恭 田 太



(長村・里茂安)  
氏 治 寅 木 青



(代總民縣・野長)  
氏 登 井 今



(代總民縣・野長)  
氏 郎 一 佐 山 秋



(長村・山岡)  
氏 衛 兵 喜 持 米



(長村・樺外)  
氏 雄 孟 岩 栗



(長村・田永)  
氏 郎 三 伸 澤 北



(長校學小山飯)  
氏 昂 又 川



(導調校學小里茂安)  
氏 彦 正 島 中



(課場工部察警)  
氏 治 芳 林 今



(課地耕部濟經)  
氏 甫 井 新



(長村・内水)  
氏 郎 八 與 瀨 廣



(長村・原柳)  
氏 吉 常 山 丸



(長村・津秋)  
氏 郎 四 長 澤 米



(長町・山飯)  
氏 治 謹 水 清



(代總民縣・里茂安)  
氏 作 種 下 松



(託囑縣野長)  
氏郎治德西小



(長校學範師野長)  
氏利登美谷熊



(長校學中野長)  
氏郎太憲藤上



(代總民縣・野長)  
氏郎太誓切田小



(長驛野長)  
氏圓鶴島尾



(職住願本大寺光善)  
公尼榮智宮大



(長所判裁方地野長)  
氏郎太伊田石



(代總民縣・野長)  
氏郎治吉松小



(代總民縣・野長)  
氏治英岩栗



(課安保部察警)  
氏可貞村木



(代總民縣・野長)  
氏せも切田小



(代總民縣・野長)  
氏子合百崎尾



(代總民縣・野長)  
氏等塚大



(所判裁方地野長)  
氏寬谷石



(長課察警等高別特)  
氏美憲林小



(百六千二元紀)  
員役會祝奉年  
氏平藤津神



(代總民縣・野長)  
氏治慶楠



(代總民縣・野長)  
氏衛兵十原笠



(代總民縣・野長)  
氏造周合落



(屬課計統部務總)  
氏一季田岡



(正事檢所判裁方地野長)  
氏郎三梯磯



(區掌軍野長)  
氏吉清林小



(百六千二元紀)  
員役會祝奉年  
氏雄武坂小



(代總民縣・野長)  
氏寬井熊



(屬課務學部務學)  
氏郎太賢崎川



(長館書圖野長)  
氏郎三泉部乙



(所判裁方地野長)  
氏隆海鶯



(代總民縣・野長)  
氏助之長澤大





(長校女高野長)  
氏治滿久井佃



(學視市野長)  
氏人吉田高



(課路道部木土)  
氏雄鐵内高



(課方地部務總)  
氏平新木鈴



(諭教校學業工野長)  
氏郎四重崎榮



(長部査巡所警務)  
氏一茂木坂



(長局託供野長)  
氏郎次知林小



(長課務部務總)  
氏知義村辻



(事判所判裁區野長)  
氏康登本武



(屬課務部警務)  
氏壯橋高



(事知縣野長)  
氏登木鈴



(長部木土)  
氏郎次宗山杉



(長局便郵野長)  
氏貞道藤佐



(場工野長鐵新)  
氏三雄林小



(會育教濃信)  
氏郎太彌屋土



(補事主課產才工商)  
氏雄智富谷



(補部警課察警)  
氏助之高橋高



(學視課務學)  
氏至知沼菅



(長所務刑野長)  
氏郎三英木鈴



(屬課地耕部濟經)  
氏平良藤佐



(代總民縣・野長)  
氏節藤齋



(導調校學小山城)  
氏夫秀田傳



(屬課險保康健)  
氏治杉原禮



(長市野長)  
氏衛忠野高



(係法司署野長)  
氏榮喜與川關



(代總民縣・野長)  
氏マサ木鈴



(長部濟經)  
氏保忠田重



(代總民縣・野長)  
氏孝寄井酒



(代總民縣・野長)  
氏 雄久本松



(長署察警野長)  
氏 光喜澤舞



(屬課場工部察警)  
氏 登義井福



(補事主業事會社)  
氏 司秀崎原



(師技生衛校學部務學)  
氏 靖川延



(代總民縣・野長)  
氏 三禮村中



(代總民縣・野長)  
氏 衛兵郎忠轟



(長校學小町後)  
氏 深本松



(諭教校學範師野長)  
氏 一周田每



(代總民縣・野長)  
氏 門衛右伊井藤



(長校專女野長)  
氏 衛長口穂



(授教專女野長)  
氏 郎治藤本濱



(代總民縣・野長)  
氏 誠義山中



(所判裁方地野長)  
氏 郎太洋路小中



(長課務農部濟經)  
氏 道芳本松



(立縣野長)  
(長場驗試事農)  
氏 吉源田前



(課產水工商)  
氏 熊吉崎藤



(課生衛部察警)  
氏 春武林平



(代總民縣・野長)  
氏 郎三林



(課務林部濟經)  
氏 一嘉尾西



(代總民縣・野長)  
氏 門衛左與澤中



(屬課業機部務學)  
氏 助之辰山丸



(長校學業商野長)  
氏 郎太代喜島松



(代總民縣・野長)  
氏 平郡旗降



(事監任常金中)  
氏 功井深



(長所養養野長人軍偵傷)  
氏 敬直林



(長課練露部濟經)  
氏 二實村西



(代總民縣・野長)  
氏 夫孝野中



(代總民縣・野長)  
氏三井田山



(代總民縣・野長)  
氏助貞木八



(長課合組業産)  
氏一三八森



(長部務總)  
氏雄秀谷水



(代總民縣・野長)  
氏治源佐澤宮



(長場驗試業置縣野長)  
氏郎一壽井水



(士講代・野長)  
氏郎三辨山丸



(長課計會部務總)  
氏治定田和



(屬課籍警部務總)  
氏平發製浦山



(長局支金貯野長)  
氏衛兵郎吉本森



(長課事兵寺社)  
氏一敬田宮



(代總民縣・野長)  
氏郎太代澤宮



(正僧大職住遊勸大)  
氏曉設尾水



(代總民縣・野長)  
氏雄盛山丸



(補事主育教會社)  
氏平米山牛



(補事主課合組業産)  
氏郎次武岸山



(區綜保野長)  
氏郎二松森



(代總民縣・野長)  
氏亮壽上村



(代總民縣・野長)  
氏郎次要澤宮



(代總民縣・野長)  
氏郎一幸坂宮



(長課理醫部本土)  
氏雄文崎宮



(代總民縣・本松)  
氏代龜木寛



(長所成養教青立縣)  
氏郎四平崎山



(代總民縣・野長)  
氏重喜角兩



(代總民縣・野長)  
氏志登松村



(代總民縣・野長)  
氏江靜谷水



(代總民縣・野長)  
氏禪玉澤水



(代總民縣・野長)  
氏雄女下宮



(代總民縣・本松)  
氏梅本橋



(授教校高本松)  
氏枚一安富



(署察警本松)  
氏作寅本高



(授教校高本松)  
氏壽澤鈴



(長校女高本松)  
氏節直林小



(代總民縣・本松)  
氏郎三仲井折



(代總民縣・本松)  
氏義覺田石



(代總民縣・本松)  
氏可十八林



(事檢所判裁區本松)  
氏郎太松塚伸



(代總民縣・本松)  
氏市源石館



(長場支本松赫靈)  
氏郎次勢伊橋高



(代總民縣・本松)  
氏龜義田權



(代總民縣・本松)  
氏雷瀬川



(授教校高本松)  
氏平惣川市



(長署林警本松)  
氏記辰田濱



(長校學小智岡)  
氏一敏山西



(代總民縣・本松)  
氏郎太山居武



(署務稅本松)  
氏治賢橋高



(事判所判裁區本松)  
氏敏成崎坂



(授教校高本松)  
氏三智瀬川



(尋調校學小水清)  
氏章正崎江



(代總民縣・本松)  
氏治莊林平



(長局便郵本松)  
氏藏啓山々野



(長校輔師子女本松)  
氏巴克田戸



(代總民縣・本松)  
氏郎五實美高



(長校學中本松)  
氏郎一謙水清



(長校校高本松)  
氏雄茂木桑



(代總民縣・本松)  
氏永頼里小



(代總民縣・田上)  
氏 仲 島 倉



(百六千二元紀)  
員役會祝奉年  
氏 吉 善 原 笠



(授教專置田上)  
氏 郎 太 保 藤 遠



(代總民縣・田上)  
氏 郎 太 守 井 新



(代總民縣・本松)  
氏 い え 瀬 百



(代總民縣・本松)  
氏 一 登 茂 坂 宮



(代總民縣・本松)  
氏 七 平 澤 福



(代總民縣・田上)  
氏 衛 作 田 甲



(長局便郵田上)  
氏 雄 菊 間 風



(授教專置田上)  
氏 郎 太 照 瀧 大



(長市田上)  
氏 衛 兵 傳 藤 伊



(授教專置田上)  
氏 司 輝 形 阿



(授教校高本松)  
氏 木 千 數 地 宮



(授教校高本松)  
氏 治 寛 野 松



(代總民縣・田上)  
氏 九 十 九 林 小



(場分田上場驗試産水)  
氏 稔 尻 川



(授教專置田上)  
氏 郎 治 徳 岡



(長校學門專赫置田上)  
氏 裕 柳 上 井



(代總民縣・田上)  
氏 吾 敬 井 淺



(代總民縣・本松)  
氏 雄 正 澤 吉



(授教校高本松)  
氏 郎 八 新 根 松



(授教專置田上)  
氏 一 利 藤 佐



(代總民縣・田上)  
氏 郎 次 富 島 倉



(事檢所判裁區田上)  
氏 郎 次 龜 子 金



(長校女高田上)  
氏 六 紀 田 白



(士護得・田上)  
氏 助 之 光 田 天



(代總民縣・本松)  
氏 平 武 澤 米



(代總民縣・本松)  
氏 代 賢 本 松



(代總民縣・谷岡)  
氏美將林



(代總民縣・谷岡)  
氏謙德井今



(長校學小田上)  
氏生彌崎山



(代總民縣・田上)  
氏平岡松



(授教專置田上)  
氏雄親田原



(記書專置田上)  
氏吉貞榮都



(長所張出小上部濟經)  
氏郎之骨田須



(代總民縣・谷岡)  
氏治文佐田吉



(代總民縣・谷岡)  
氏謙百八口小



(代總民縣・田上)  
氏音淨内橋



(代總民縣・田上)  
氏謙壽野水



(長會育教濃信)  
氏郎太長塚針



(長所張出木土田上)  
氏實田永



(代總民縣・田上)  
氏衛兵萬口圓



(尋調校學小谷岡)  
氏郎一盤倉米



(代總民縣・谷岡)  
氏りどみ村中



(授教專置田上)  
氏郎太仙田和



(代總民縣・田上)  
氏郎三智下宮



(代總民縣・田上)  
氏子信塚針



(代總民縣・田上)  
氏郎一伍澤成



(代總民縣・田上)  
氏郎一澤瀧



(事刑署田飯)  
氏知喜永木青



(代總民縣・谷岡)  
氏六七林



(長市谷岡)  
氏樓梧井今



(代總民縣・田上)  
氏郎一忠川南



(授教專置田上)  
氏謙榮谷古



(代總民縣・田上)  
氏己治村西



(事判所判裁區田上)  
氏馬一榮都



(長村・那伊下)  
氏 郎一 恭澤 矢



(長村・郷上伊下)  
氏 雄 六 扇



(長村・原日敏更)  
氏 久 義 越 牛



(長村・田生伊下)  
氏 一 英 椋 小



(代總民縣・田飯)  
氏 郎 三 數 澤 矢



(代總民縣・田飯)  
氏 助 敬 田 中



(長市田飯)  
氏 一 泰 瀨 市



(長村・田山上敏更)  
氏 等 崎 山



(長課育教會社・野長)  
氏 忠 田 飯



(長村・和伍伊下)  
氏 敬 重 谷 藤



(人證公・田飯)  
氏 郎 二 口 山



(長院病田飯)  
氏 夫 農 原



(諭教女高田飯)  
氏 章 英 島



(事檢所判裁方地野長)  
氏 郎 三 茂 本 山



(代總民縣・本松)  
氏 郎 一 金 口 野



(長村・卓泰伊下)  
氏 樹 直 山 杉



(事判所判裁區田飯)  
氏 貞 邊 渡



(長校學小田飯)  
氏 一 順 堂 本



(代總民縣・田飯)  
氏 吉 政 木 鈴



(長村・壽筑東)  
氏 利 親 水 清



(事檢所判裁區田飯)  
氏 三 育 橋 高



(長村・向日筑東)  
氏 吾 甚 野 高



(代總民縣・代千伊下)  
氏 郎 雷 平 大



(年百六千二元紀)  
員 役 會 祝 奉  
氏 郎 一 備 下 松



(部 濟 經)  
長 所 張 出 那 伊 下  
氏 智 原 東

## 回顧する此一年！

神武天皇極原に御建都、日本帝國々基を御草創あつてより悠久正に二千六百年。連綿の皇統、そして其の御稜威のもと、榮え來し國土・民草、まこと昭和十五年の元旦は、民族的歡喜、歴史的感激のうちに明け渡つたのである。けれども然し、この朝、若しも翻つて思ふならば、只感激、只歡喜のうちのみ迎ふ可き黎明ではなかつた。支那事變下既に四歳、大陸陸軍の戦士を憶ひ、眼を轉じて、世界戦争の前夜の國際狀勢を見れば、牢固、それに備ふ可き國內の戦時新體制樹立が、焦眉の日程にのぼつて居るのである。

さればこそ年頭、阿部首相はAKのマイクを通じて、全國民の奮起を促し、また紀元の佳節には、畏くも天皇陛下詔書を下されて、皇國民の嚮ふ處、時艱克服の指標を垂れさせ給ふのであつた。

東京灣上に於ける英國巡洋艦の我商船淺間丸不法臨檢、日米通商條約破棄など、新春來相次ぐ事件に對し、吉田海相は遂に三月二十三日、帝國議會に於て發言「米國の飽く無き軍備には慎重注目するも、我に對應の準備あり」と聲明すれば、全國民の緊張は高まつてゆく。三月三十日、汪精衛首席以下二百餘名の中華要人が南京大禮堂に參集、國民政府遷都の典禮を擧げて、新生「中華民國々民政府」の誕生を決定、重慶政府の頑迷なる抗日政策を反擊、日滿華相携へて東亞新秩序建設への堂々たる發足を宣言すれば、此の日、米國ヘル國務長官は新國民政府否認、飽くまで授蔣の態度を聲明して、太平洋の浪を騒がしたのであるが、我國の方針は毅然、既に阿部信行大將を新政府への大使として渡支せしめ、遷都慶祝に兼ねて日支新條約交渉へと邁進したのである。

極東に於ける此の狀勢と相俟ち、四月に入るや、俄然ヨーロッパの戦端が開かれた。英佛の援助を粉砕、ノルウェーを手中に収めた獨逸は、五月十日、オランダ・ベルギー・ルクセンブルクの國境を突破、所謂電撃作戦を以つて、十四日には早くもオランダを降伏せしめ、二十八日にはベルギーも亦服従を誓ひ、既に巴里は戒嚴令下に脅ゆ。ヨーロッパの此の戦雲は、當然蘭領印度に響き、佛領印度に波及した。かくて米國が其等への重大關心を持ち、英・佛・蔣援助を強調すれば、我が吉田海相は五月二十七日「太平洋時代來る、國民よ奮起せよ」と叫び、歐洲戦亂の極東波及をおそれた新生中華民國政府も亦、交戰國軍艦の中國々境外退去を要請するであつた。

六月十日、伊太利も亦獨逸と協力、參戰宣言と同時に早くも南佛に侵入。こえて十四日、遂にドイツ軍は堂々巴里に入城し、二十一日には獨佛休戰會議開催となり、二十四日には伊佛休戰も成つたが、其の間、英國は飽く迄抗戰を聲明、米國亦これへの援助を宣言すれば、我國は、親獨・伊關係強化に依る英・米への攻勢態度を明かにしたのである。

しかも、我が斷乎たる此の外交方針決定は、同時に、國內の急速なる新體制樹立を必要としたため、六月二十四日、全國民の要望に應へて、近衛文麿公は敢然樞密院議長を辭し、政治體制再編成への邁進決意を表明した。これより先き六月中旬、聖駕關西にみゆきし、攝原神宮・伊勢大廟等に御親拜、輝く二千六百年の皇謨を御奉告遊ばし給へば、皇國民の民族意識は逞しく高鳴つたのである。そして又その月下旬、皇紀二千六百年御慶祝の御爲め御來朝の滿洲國皇帝陛下と、親しく東京驛頭に御迎へ遊ばされ給うた。

天皇陛下との固き御握手を拜しては、只管に日滿兩國民の強き覺悟が促されたのであつた。

七月に入るや、シンガポール海峽植民地廳は、シンガポール數區域に鐵條網を設置する旨發表、米國ノックス海軍長官は「米國が、日本の蘭印進出を防止せんとせば、日米戦争は必至なり」との見解を上院に於て演説し、次いで又米大統領は油類・屑鐵・屑金屬の輸出に許可制を布くなど、對日挑戰の舉として注目されたのであるが、八月一日、近衛内閣は「授蔣國家斷乎排擊、大東亞共榮圈確立への邁進」を聲明、毅然たる態度を示した。そして近衛首相の主唱する新體制運動は着々と進み、七月六日社會大衆黨が先づ、既成政黨解消に先鞭をつけて解體すれば、八月十五日、六十年の歴史を閉ぢて、議會第一黨たる民政黨も亦解黨宣言を發し、自由主義的色彩濃き既成政黨の清算が急がれた。

かくて八月二十七日の第一回新體制準備會を皮切りに慎重検討の結果、九月十七日に至り、高度國防國家建設のための新體制運動の名稱を「大政翼賛運動」、會名を「大政翼賛會」となすに決定、愈々本格的幕進を開始したのである。

九月二十二日、幾多曲折ののち日・佛印協定成立して、皇軍は平和裡に佛印へ進駐、大きな成功を収めたが、越えて二十七日、かねて條約交渉中の日・獨・伊三國同盟遂に成立、伯林のヒトラー總統邸に於て、我が來栖大使、リッペンントロップ獨逸外相、チアノ伊太利外相間に歴史的調印がなされ、茲に日・獨・伊を結ぶ歐亞樞軸は、英・米等の自由主義國家群に對し、世界史上劃期の一線を完成したのであるが、この秋に當り

天皇陛下は詔書發、國民の嚮ふ處を垂示し給うたのである。

十月に入ると一日早々、米國は三國樞軸への最初の反撃として、無制限なる對英援助案を可決し、次いで在極東米國人引上げ



の舉に出で、英國亦我が反對を押し切つて、授蔣ビルマルートの再開を決定するなど、反樞軸態度を極度に露骨化したけれども、ハンガリー・ルーマニア・スロヴァキアと相次ぐ樞軸参加や、十一月三十日の日支新條約調印等は、自由主義國家群の寂寞を印象させるのであつた。

日支新條約締結されるや、英・米は又反日態度を強化し、頻りに蔣介石援助借款許容、軍需資材たる鐵鋼・銃鐵輸出許可制採用などの舉に出るのであつたが、それらの經濟壓迫を撃砕して、堂々東亞共榮圈確立への指導國家たる可き我國の國內體制は、全國民の奮起に於て着々整備、十二月十六日、大政翼賛會中央協力會議は開催され、二十四日には政黨無しの翼賛議會が召集されたのである。

この間、十一月十・十一兩日、二重橋前の大會場には、凡そ五萬五千の民草代表參列、長くも天皇・皇后兩陛下の御親臨を仰いで、皇紀二千六百年を壽ぐ記念の式典と祝典とが、極めて厳肅に、極めて豪麗に舉行され、全國津々浦々の蒼生も打擧つて、聖壽の萬歳を奉唱、この民族の生々たる發展を祈誓したのである。

そして今こそ、全日本國民は起ち上つた。まことに紀元二千六百年は、その連綿無缺の歴史を顧る民族記念の歳であると共に、二千六百年以降への新しき出發の歳として、深い意義を持つて居た事を、我々は胸に牢記しなければならないであらう。

### 一年間の重要日誌

#### 一月

- 一 日 阿部首相ARKを通じ全國民に向つて「東亞の安定確保を目ざし、國民の勇往を切望する」旨強調す▽聖戰第三回日の元日を迎へてわが海軍益々意氣軒昂、南昌より長江南岸に蠢動する敵艦隊を猛追。
- 二 日 米國務省は本年度に於ける對日銀・屑鐵の輸出許可額を昨年より半減する事に決し對日壓迫を露骨化す▽英國戰時内閣成る。
- 三 日 「オランダの中立が侵襲される場合は斷乎武力對抗の決意」をオランダ政府聲明。
- 四 日 衆議院有志代議士の阿部内閣不信任決議署名者二百七十六名の過半数に達す。
- 五 日 英佛土三國間に通商財政協定成立▽米海軍作戦部長下院海軍委員會に於て「二割五分増徴率は對日作戦上絕對必要」と力説す。
- 六 日 獨逸軍テームス河口、英東南岸を猛追また西部戦線にても英獨空中戦展開。
- 七 日 阿部内閣總辭職、理由は「國務遂行の方法に就き意見の統一を期し得ざるため」の旨聲明。
- 八 日 靜岡市大火目録六千七百戸焼く。
- 九 日 米内々閣成立す總理米内光政、外相有田八郎、内相兒玉秀雄、藏相櫻内幸雄、陸相畑俊六、海相吉田善吾、法相木村尚達、文相松浦健次郎、農相島田俊雄、商相藤原銀次郎、逓相藤原正憲、鐵相松野鶴平、拓相小磯國昭、厚相吉田茂▽對日和平方策の基礎確立を見た汪精衛氏は重慶に對し和平救

#### 二月

- 一 日 南洋東北方皇軍反擊作戦奏功西衛賓陽城突入、又蒙古新作戦部隊は五原南方土城を占據▽ハルビンに開會中のノモンハン付近の國境確定委員會は意見對立交渉妥結の見込み無く交渉打ち切る▽ジョンソン駐支米國大使米艦にて瀟湘上流航行中砲撃うけしも無事。
- 二 日 皇軍目ざす五原に感激の入場▽英國東海岸で機雷に觸れて沈没した我照國丸の乗組員を救助して歐助丸歸國▽衆議院本會議に於てなせる齋藤隆夫氏の演説は聖戰目的に關し批判的意見を述べ今次事變の目的と理想とを傷害せるものであるとなし各方面の憤慨を買ひ懲罰委員會に付さる。
- 三 日 淺間丸事件に關し英國遺憾の意を表し拉致獨人廿一名中九人を我方に還へせしも尙他の者の引渡交渉▽オランダ政府蘭印の防備強化聲明。
- 四 日 對期的稅率、大増稅案衆議院上程
- 五 日 輝く二千六百年の紀元節。この日長くも天皇陛下には内外の重大時局に際し洽く國民の時艱克服の指標を垂れさせ給ふ大御心より大詔を頒發あらせらる▽牛島民衆に對し「氏」創設の遺囑。
- 六 日 有田外相は現在日本間の懸案二百數十件に達してると發表▽イタリヤ政府壯丁二十萬に對し突如召集令發す。
- 七 日 米下院本會議は明年度海軍豫算案からガム島防備施設費總額三百萬ドル中第一年度起工費百萬ドル削減、日米關係惡化を懸念の結果。
- 八 日 芬蘭争争愈々激しくソ聯はマンネルハイムの第一線突破、芬軍極度に疲勞の色あり、英佛の援芬積極化。
- 九 日 米下院議員チンカム氏の聲明に依り南太平洋ヤントン、テンダベリー兩島を共管する英米露協定締結事實暴露。
- 十 日 衆議院各派時局の緊急性に鑑み百三億の超大豫算案を無修で承認し決す▽全國の第二回「遺兒の日」は三月二十五日より二十八日迄と決定、全國小學生の誓の遺兒のうち三千百十一名靖國社頭の對面許さる。
- 十一 日 英海軍香港沖合で獨逸向けタンクステン艦を積載浦壇に向はんとしたソ聯艦を拿捕。

#### 三月

- 一 日 高率割増金付新種債券「報國債券」發行決定。
- 二 日 日本とルーマニア通商協定成立。
- 三 日 齋藤隆夫氏除名に決す▽英海軍はオランダ諸港より獨逸石炭を積出した伊國汽船九隻を拿捕。

- 九 日 衆議院本會議に於ける各派一致の聖戰貫徹に關する決議に對し米内首相特に出言を求め、帝國の事變處理方針の根幹と近く誕生せんとする支那新中央政府に對する態度方針を闡明す。
- 十 日 本年度露領漁區設置は正午浦羅ソ聯極東漁業廳に於て行はれたが我方三漁區をソ聯に奪はる。
- 十一 日 近く生れんとする新支那中央政府に對し米國否認意向を示す▽汪精衛氏を中心とする支那新中央政府の母胎となるべき中央政治會議招集に先だち汪氏は「日支和平・民族復興」への重大聲明發す。
- 十二 日 新支那中央政府への特派大使は前首相阿部信行大將に決す▽阪神地方の重要

- 一 日 本年より昭和二十年に至る六ヶ年計畫のもとに實施されるが本年度第一着手として兵器本部・製鐵所・航空工廠新設等七項目に互る軍編成上の一大改正行はる▽アメリカ海軍本年度大演習は東部太平洋上に於て午後二時開始、参加艦艇百三十八隻、空軍約五百機、兵員五千餘と未曾有の大規模。
- 二 日 國民政府行政院宣傳部長は「全國各地軍隊は即時停戦し、軍事委員會は本通令を遵守して本令處理の經過を詳報すべき」旨發表。
- 三 日 皇太子殿下御日出度く學習院初等科に御入學▽英佛兩國協力してルウエー領海に機雷を敷設する旨公表。
- 四 日 獨逸はルウエーの港灣五ヶ所に上陸ナルヴィイク、ベルゲン、トロンハイム及

- 一 日 獨逸國境警備隊の英國對ルウエー援助失敗議會の問題となる。
- 二 日 獨逸陸海共同の下に電撃作戦を以てオランダ、ベルギー、ルクセンブルグ三國境を突破一齊進軍開始、英佛軍白・蘭兩國援助のため出動▽英内閣總辭職しチャーチル海相首相となる。
- 三 日 獨逸の白・蘭進軍による歐洲戰綫緒東波及防止のため有田外相より駐日交戰各國大使へ「蘭印現場維持」の聲明を手交す。
- 四 日 獨逸軍のため要街ロッテルダムを攻撃されたオランダ軍最高指揮官は全オランダ軍に對し即時停戦降伏の指令發す。
- 五 日 獨逸軍オランダ首都ヘーグ入城、降伏調印成る。

八日 英佛土三國間に通商財政協定成立  
米海軍作戦部長下院海軍委員に於て  
「二割五分増徴率は對日作戦上絕對必要」と  
力説す。  
十一日 獨逸空軍テームス河口、英東南岸を  
猛撃す。西岸戦線にても英獨空中戦展開。  
十四日 阿部内閣辭職、理由は「國務遂  
行の方法に就き意見の第一を期し得ざるた  
め」の旨聲明。  
十五日 靜岡市大火日没六千七百戸焼く。  
十六日 米内閣成立。總理米内光政、外  
相有田八郎、内相兒玉秀雄、藏相櫻内幸雄  
陸相畑俊六、海相吉田善雄、法相木村尚雄  
文相松浦清、農相島田俊雄、商相藤原  
銀次郎、逓相野田、鐵相松野鶴平、拓相  
小磯國昭、厚相吉田茂、對日和平方策の基  
礎確立を見た汪精衛氏は重慶に對し和平救

二日 南寧東北方軍反擊作戦奏功。西衝  
賓陽城突入、又蒙古新軍部隊は五原南方  
土城を占據。ハルビンに開會中のノモンハ  
ン附近の國境確定委員会は意見對立交渉妥  
結の見込み無く交渉打切る。ワシントン駐  
支米國大使米艦にて澎湖上流航行中砲撃う  
けしも無事。  
三日 皇軍日笠五原に感涙の入場。英  
國東海岸で機雷に觸れて沈没した我國國丸  
の乗組員を救助して改訪九島國。衆議院本  
會議に於てなせる齋藤隆夫氏の演説は聖戰  
目的に關し批判的意見を述べ、今次事變の目  
的と理想を悔慮せるものであるとなし各  
方面の憤慨を買ひ懲罰委員會に付さる。  
六日 淺間丸事件に關し英國遺憾の意を  
表し拉致獨人廿一名中九人を我方に還へせ

二十日 英海軍作戦部長下院海軍委員に於て  
「二割五分増徴率は對日作戦上絕對必要」と  
力説す。  
二十一日 獨逸空軍テームス河口、英東南岸を  
猛撃す。西岸戦線にても英獨空中戦展開。  
二十二日 阿部内閣辭職、理由は「國務遂  
行の方法に就き意見の第一を期し得ざるた  
め」の旨聲明。  
二十三日 靜岡市大火日没六千七百戸焼く。  
二十四日 米内閣成立。總理米内光政、外  
相有田八郎、内相兒玉秀雄、藏相櫻内幸雄  
陸相畑俊六、海相吉田善雄、法相木村尚雄  
文相松浦清、農相島田俊雄、商相藤原  
銀次郎、逓相野田、鐵相松野鶴平、拓相  
小磯國昭、厚相吉田茂、對日和平方策の基  
礎確立を見た汪精衛氏は重慶に對し和平救

三月

九日 衆議院本會議に於ける各派一致の  
聖戰貫徹に關する決議に對し米内首相特に  
發言を求め、帝國の事變處理方針の根幹と  
近く誕生せんとする支那新中央政府に對す  
る態度方針を闡明す。  
十日 本年度露領漁區購買は正午浦鹽ソ  
聯極東漁業廳に於て行はれたが我方三漁區  
をソ聯に奪はる。  
十二日 近く生れんとする新支那中央政府  
に對し米國否認意向を示す。汪精衛氏を中  
心とする支那新中央政府の母胎となるべき  
中央政治會議召集に先立ち汪氏は「日支和  
平・民族復興」への重大聲明發す。  
十三日 ソソ和協定成立す。  
十五日 新支那中央政府への特派大使は前  
首相阿部信行大將に決す。阪神地方の重要  
性に鑑み大阪に阪神海軍部設置。  
十六日 日本郵船伏見丸歐洲に向け航行中  
の鹿シガポールに於て英官憲の臨検を受  
け獨逸郵便物若干押収さる。  
十八日 我支那派遣軍總司令官は我占領地  
域内にある軍管理工場全部を擧げて支那側  
に返還する旨聲明發表。  
二十日 佛ドラジェ内閣投票失敗を引責總  
辭職。  
二十一日 汪氏を中心とする中央政治會議  
に於て新中央政府の名稱を「中華民國國民  
政府」とし、三月三十日新政府樹立式を擧  
げ、國旗は「青天白日旗滿地紅旗」とする  
事に決定、華北に政務委員會を設置をも決  
す。佛國左右兩派を包含ポール・レイノー  
氏を首班に舉國內閣成立。  
二十二日 中央政治會議第三日は五院長  
各部長を決定國民政府の陣容を完備すると  
共に支那全軍に停止命令を發し重慶政府の  
對外各種條約の無効を決議し終幕。  
二十三日 衆議院豫算總會に於て吉田海相  
は議員の質問に答へ「米國の海軍擴張には  
一大關心を拂つてゐるが我方に對應の用意  
がある」旨聲明す。  
三十日 國民政府遷都（南京）典禮は午前十  
時より國民政府大禮堂において政府主席代  
理汪精衛氏以下二百餘名參列舉行。ハル米  
國務長官は新聞記者團との會見に於て「米  
政府は南京の新政府承認を拒否し蔣介石政  
權を依然支那政府として承認する」旨聲  
明。

は本年より昭和二十年に至る六ヶ年計畫の  
もとに實施されるが本年度第一着手として  
兵器本部・製鐵所・航空工廠新設等七項目に  
互る軍編成上の一改正行はる。アメリカ  
海軍本年度大演習は東部太平洋上に於て午  
後二時開始、參加艦艇百三十八隻、空軍約  
五百機、兵員五千餘と未曾有の大規模。  
七日 國民政府行政院宣傳部長は「全國  
各地軍隊は即時停戦し、軍事委員會は本通  
令を遵守して本令處理の經過を詳報すべ  
き」旨發表。  
八日 皇太子殿下御出度く學習院初等  
科に御入學。英佛兩國協力してノルウェー  
領海に機雷を敷設する旨公表。  
九日 獨逸海軍はノルウェーの港灣五ヶ所に上  
陸ナルグイタ、ベルゲン、トロンハイム及  
び首都オスロを占領、更に夕刻にはデンマー  
ク國境突破。コペンハーゲン占領。ノル  
ウェー對獨逸戰布告。英佛はノルウェーを  
武力援助する旨聲明。  
十日 ナルグイタ沖の英獨海戦で英驅逐  
艦二隻失ふ、獨逸も被害あり。  
十四日 オランダ政府戒嚴令施行區域擴大  
發表。英海軍はスエーデン領海を除くバル  
チック海入口に機雷敷設。  
十五日 我政府閣内閣問題に就て「閣印への  
戰禍波及を好まず、我政治的野心なき」  
旨聲明。英軍隊ノルウェー海岸數ヶ所に上  
陸す。  
二十日 我方の度量に依り待望の廣東港開  
放實現す。  
二十二日 陸軍愈々劃期的な軍需工場の經營  
刷新、利潤統制の強化期し「適正利潤算定  
要領」を發表。  
二十三日 靖國神社臨時大祭第一日、新祭  
神一萬二千七百九十九柱の招魂式行はる。  
二十五日 天皇陛下靖國神社御親拜。獨逸  
イタ大公紀元二千六百年慶祝使節として來  
朝。  
二十六日 南京還都慶典舉行、阿部・汪兩  
氏固き提推贊ふ。  
二十七日 獨逸總統獨語兩國間に戰爭狀態  
發生せる旨布告す。

獨逸國境戰雲漲る。英國對ノルウェー援  
助失敗議會の問題となる。  
十日 獨逸陸海共同の下に電撃作戦を以  
てオランダ、ベルギー、ルクセンブルグ三  
國境を突破。一齊進軍開始。英佛軍白・蘭兩國  
援助のため出動。英内閣辭職。シヤーチ  
ル海相首相となる。  
十一日 獨逸の白・蘭進軍による歐洲戰禍極  
東波及防止のため有田外相より駐日交戰各  
國大使へ「蘭印現場維持」の聲明を手交  
す。  
十四日 獨逸軍のため要衝ロツテルダムを攻  
略されたオランダ軍最高指揮官は全オラン  
ダ軍に對し即時停戦降伏の指令發す。  
十五日 獨逸軍オランダ首都ヘーグ入城、降  
伏調印成る。  
十六日 佛國は獨逸の急進撃に備へ（巴里を戒  
嚴令下に置く）。  
十七日 獨逸軍ベルギー首都ブラッセル占領  
獨逸軍マデノ線を擊破。佛兵一萬二千を捕  
虜す。  
十九日 伊國參戰決意明かにす。獨逸軍北佛  
を破竹の進撃アラス、アミアン、アブヴィ  
ルを占領。  
二十三日 △「蘭領東印度の現状維持」に關  
する我申入に獨逸同意を表明し來る。  
二十五日 米國では第一次歐洲戰爭終了以  
來解消されて居た國防會議を復活す。  
二十七日 海軍記念日に當り「太平洋時代  
は正に展開された、國民一段の奮起を窺む」  
旨吉田海相談話發表。  
二十八日 軍事外交最高國策を協議するた  
め米内海相・有田外相・畑相・吉田海相を  
以つて四相會議設く。ベルギー皇帝レオポ  
ルド三世は獨逸軍の破壊的威力と英佛軍の無  
氣力を痛感して遂に斷念、ベルギー全軍に  
武裝解除と戰闘停止を命ず。  
二十九日 英政府は中絶された英ソ通商交  
渉を復活するため通商特使をモスコに派  
遣すべくソ聯政府の承認を求めたが、ソ聯  
は正式大使を要求、特使派遣を拒絶す。

四月

一日 意々今日から全國民の生活が戰爭  
態勢へと激變した。五箇圓増税に依る月給  
天引、酒・ビール・ガソリン値上、歡樂街一齊  
に十一時閉店となる。新國民政府へ特派の  
阿部全權大使親任式。陸軍新軍備充實計畫

二日 將介石への財政援助、英に代る米  
の態度を我方嚴戒。比島議會、移民入國許  
可數を各國五百名一律と決定、一千名案を  
葬りしに對し我方其の非友誼的態度に憤  
慨。  
六日 大洪山系の皇軍湯陽占領、沱源、  
襄陽、棗陽に迫る。  
七日 主要物資の國內退讓を動員し供給  
増加に充てるため國內在庫の一齊調査企圖

三日 米内首相歐洲戰爭不介入方針を明  
確にす。獨逸軍ベルギー全土とソナム河口に  
至る英佛海峽の佛海岸地方占領。  
四日 米國政府國防上の必要に基くとて  
諸外國に對する機械工作の禁輸實施。「敢て  
日本への壓迫に非ず」と聲明。  
五日 紀元二千六百年奉祝東亞競技東京  
大會明治神宮外苑に於て總裁秩父宮殿下の  
台座仰ぎ開會式舉行。米政府の工作機械禁  
輸に對し我政府抗議す。  
八日 長江北岸猛襲の皇軍荊州城突入。

五月

二日 南寧東北方軍反擊作戦奏功。西衝  
賓陽城突入、又蒙古新軍部隊は五原南方  
土城を占據。ハルビンに開會中のノモンハ  
ン附近の國境確定委員会は意見對立交渉妥  
結の見込み無く交渉打切る。ワシントン駐  
支米國大使米艦にて澎湖上流航行中砲撃う  
けしも無事。  
三日 皇軍日笠五原に感涙の入場。英  
國東海岸で機雷に觸れて沈没した我國國丸  
の乗組員を救助して改訪九島國。衆議院本  
會議に於てなせる齋藤隆夫氏の演説は聖戰  
目的に關し批判的意見を述べ、今次事變の目  
的と理想を悔慮せるものであるとなし各  
方面の憤慨を買ひ懲罰委員會に付さる。  
六日 淺間丸事件に關し英國遺憾の意を  
表し拉致獨人廿一名中九人を我方に還へせ

二日 將介石への財政援助、英に代る米  
の態度を我方嚴戒。比島議會、移民入國許  
可數を各國五百名一律と決定、一千名案を  
葬りしに對し我方其の非友誼的態度に憤  
慨。  
六日 大洪山系の皇軍湯陽占領、沱源、  
襄陽、棗陽に迫る。  
七日 主要物資の國內退讓を動員し供給  
増加に充てるため國內在庫の一齊調査企圖

三日 米内首相歐洲戰爭不介入方針を明  
確にす。獨逸軍ベルギー全土とソナム河口に  
至る英佛海峽の佛海岸地方占領。  
四日 米國政府國防上の必要に基くとて  
諸外國に對する機械工作の禁輸實施。「敢て  
日本への壓迫に非ず」と聲明。  
五日 紀元二千六百年奉祝東亞競技東京  
大會明治神宮外苑に於て總裁秩父宮殿下の  
台座仰ぎ開會式舉行。米政府の工作機械禁  
輸に對し我政府抗議す。  
八日 長江北岸猛襲の皇軍荊州城突入。

九日 天皇陛下には伊勢神宮はじめ各山陵等御親拜、雖二千六百年の皇誕を御奉告遊ばされ、長くも未曾有の時艱克服を祈念させ給ふため宮城御發聲、神都巡幸の御途につかせらる。

九日 一時決裂状態にあつたノモンハン國境確定交渉がモスコに於てモロトフ外務人民委員と東郷大使の意見一致遂に確定す。

十日 聖上陛下伊勢大廟御親拜▽伊國ム首相ラジヲを通じて參戰宣言、忽ち南佛リイヴエラに進軍▽ノルウエー國王ハコーン七世全軍に對し對獨抗戰中止を命じ英佛軍全面的に敗退。

十一日 皇軍宜昌城突入。

十二日 聖上陛下仁孝天皇、孝明天皇、英照皇太后、明治天皇、照憲皇太后山陵御參拜。

十三日 聖上陛下東京還幸▽歐洲戰の緒東渡及を警戒し國民政府は、交戰國軍艦隊の中國國境外撤退を要請す。

十四日 我陸海航空部隊の重慶大爆撃を前に、我政府は在重慶諸外國官民の揚子江南一定地域避難方勸告す▽獨軍遂に巴里入城。

十六日 佛レイノール内閣總辭職、ベタン元帥後任に就く▽佛軍マチノ線退却▽ソ聯俄然リトアニア、エストニア、ラトヴィア三國へ進駐。

十七日 獨逸に獨逸に降伏ベタン首相全軍に戰闘中止命令發す。

十八日 我政府獨逸兩國に對し「佛印の現状に非友好的なる變革を加ふる事なき様」切望▽米國は世界最大海軍國二ヶ國の合同勢力に拮抗し得る大海軍を建造せんとする七年計畫案可決。

二十日 宮内省主催紀元二千六百年奉祝式大會第三日、長くも天皇陛下會場たる濟寧館に臨御▽佛國スペインを介し伊國に休戰申入る。

二十一日 獨逸休戰會議は、前大戰に獨逸が涙を吞んで休戰條約に調印した條りの地北佛コンビエーニエヌの森、しかも記念の客車内でと總統臨場の下に主客顛倒して行はれ獨逸は三項の休戰條件を提出す。

二十二日 佛政府獨逸の要求を承認休戰協定に調印▽英國前迄抗戰の聲明發表。

二十三日 我國は對獨伊關係を強化し英佛米に對しては攻勢に出づる外交一大轉換を決定。

二十四日 近衛文相公は政治體制強化を理由に樞府議長を辭任し政治體制再構成のため邁進する決意聲明▽伊佛休戰協定調印す。

二十五日 我海軍及び外務省は佛印に於ける授務物表檢査情況監視のため現地に派遣すべき監視員を決定、艦艇の一部を佛印海防に派し監視の萬全を期する事となる。

二十六日 紀元二千六百年御慶祝のため滿洲國皇帝陛下東京御着、天皇陛下親しく聖駕を東京驛に進め給ひ驛頭に於て固き御握手をかはし給ふ▽政府は奢侈品の製造販賣禁止方針決す。

二十八日 早曉ソ聯軍は國境を越えてルーマニア領内に進軍正午迄にベツサラビア、ブコヴィナ兩地方の三都市占領。

二十九日 閣院參謀長官陛下には、事變以來報道戰線に活躍する全國主要新聞社の勞を多とせられ各社代表を大本營陸軍部に召され有難き御言葉を賜ふ、本縣より信濃毎日新聞社當務取締役小坂武雄氏先榮に浴す▽佛印方面に作戦中の皇軍は遂に授務ルートの最大據點南蘭を占領、感激の日章旗を佛印國境の熱風に飄す。

三十日 魯ルマニアに進駐中のソ聯軍は世界戰術上空前の飛行機からの豆戰車落下を行つてダニュープ河とアルト河との合流點要地レニを占領す。

七月

一日 授務ルートの據點龍州を占領。

二日 滿洲國皇帝御退京▽西原少佐とカトルー佛印總督會見の結果佛印側は我方の監視委員の活動方針を全面的に受諾す▽シソガポール海峽植民地政廳はシソガポールの數區域に亘り鐵條網設置の旨發表▽ノックス米海軍長官は「英國が獨逸に敗れた場合米國が日本の獨逸進出を阻止しやうとすれば日米戰爭は不可避である」と上院で演説。

四日 商工省は従来の中小商工對策を組合制度方針から企業合同へ發展させる事とし中小商工の集團轉業を行はしむる事となつた。

五日 地中海の英佛海軍に關し佛政府は閣議の結果今後英國との外交關係を斷絶決定。

六日 日泰定期空路は佛印側の正式承認に依り今月十五日より佛印通過實現▽新黨運動の前奏曲として社大黨解散。

七日 近衛文相公輕井澤別荘に於て樞相辭任後初めて新聞記者團に對し新政治體制に關する所信披瀝。

八日 日本勞働總同盟解體。

九日 英國地中海艦隊は伊國艦隊とマルタ東方で初會戰。

十五日 重慶政權への活潑な抗戰物資供給路たる寧波、温州、福州の三港を中心とする

る遊騎ルートに對し我海軍は斷乎封鎖に決し船田支那方面艦隊司令官官宣▽滿洲國皇帝陛下には今次の御訪日に當り、日本華國の精神と滿洲國の精神とは全く一致すると共に、滿洲國の興隆は一向に皇祖天照大神の神助、天皇陛下の御後成によるものと深厚なる御信念に基かせられ、早皇御自ら帝宮中宮の聖地に恭しく天照大神を奉祀し建國神廟を御創建あそばされたと。

十六日 米内々閣は如陸相の辭表提出により且つ後任陸相を得る事不可能なる事應に當面したため遂に總辭職決行す。

十九日 獨逸總統は國會で「獨逸の對英攻撃準備が完成した、これ以上戰局を擴大する事は大英帝國の根本的崩潰以外に無い」と説きチャーチル英首相に、平和交渉への最後の機會を與へた。

二十二日 十六日米内々閣總辭職に依り十七日大命を拜した近衛公は五日目たる二十一日深更組閣を完了本日親任式行はせらる。首相近衛文相、外相松岡洋右、内相兼厚相安井英二、藏相河田烈、陸相東條英機、海相吉田善吾、法相風見章、文相橋田邦彦、農相石黒忠篤、商相小林一三、逓相兼鐵相村田省藏、無任相兼企業院總裁星野直樹。

二十五日 米大統領は大統領令を以つて石油其他油類層層輸出に許可制を布いたが對日挑戰の舉として注目。

二十七日 久しく中断されて居た大本營連絡會議中に開催さる▽クレギー駐日英大使は松岡外相を訪ひ「最近日本の親獨伊外交が説かれるけれども對英方針は如何」と打診したが松岡外相即答を避く。

三十日 伊國軍用機、飛行艇、落下傘部隊等獨逸の對英總攻撃参加のため英佛海軍方面の主要據點に配置。

三十一日 閣議據に依る在日英人の一齊檢査に關し須磨情報部長は「我々は堂々たる法治國であり國內法の規定に基き檢査したもので英國政府より何等抗議を受くる筋合のものではない、間諜行為者の檢査は英人のみに限らない」と表明した。

八月

一日 近衛内閣の基本國策として「授務國家斷乎排撃、大東亞共榮團確立」を聲明。

二日 三黨商會支店支店長權原慶氏、三井物産倫敦支店支店長代理田沼俊介氏突如英官憲に捕はる。

三日 香港居住山口月郎氏國防條例に依り香港政廳に逮捕さる。

四日 北阿の伊軍俄然活動起し英領ソマリランド侵入、一方埃及進撃のため五十萬

の兵力集結▽蘭貢、シソガポールでも邦人四名英官憲に逮捕さる。

五日 米國上院陸軍委員會強制徵兵案可決。

九日 英政府我國に對し、上海、北支及び天津駐在英軍隊の撤退決定を通告し來る。

十日 今朝海門上陸の我南支隊陸隊陸隊は忽ち海門城占領▽我猛爆に重慶凄慘。

十一日 獨對英總攻撃の火蓋切り相次ぐ英本土空襲。

十三日 英佛海峽に於て最初的大海戰行はる▽去る五月ベルー、リマ暴動に於ける邦人避難民二百十四名歸國。

十五日 六十年の歴史を擲つて民政黨は新體制確立のため解黨宣言決議す。

十六日 英軍子製造販賣禁止▽獨空軍つひに英首都倫敦空襲。

十八日 西半球防衛のため米加共同防衛考究委員會を設置。

の氏名陸海軍より發表さる。

二十二日 幾多の曲折を経て日・佛印協定遂に成立す▽シソガポール政府邦人五名を檢査。

二十三日 皇軍は日・佛印協定に基き佛印北部に平和的進駐開始せし一部不法射撃を受けた處あり我方より抗議提出。

二十四日 現内閣基本國策の一たる「國土計畫設定要綱」決定。

二十五日 南支軍は日・佛印協定に基き對支作戰上一時的に軍の一部を佛印海防へ海路進駐。

二十六日 米大統領は西半球諸國及び英國以外への所屬並に鐵鋼の輸出を禁止▽我が海路進駐部隊平和裡に海防附近へ上陸完了。

二十七日 日獨伊三國政府は兼て三國同盟に關する條約交渉に就き東京、ベルリン、ローマに於て各々折衝を進めて居たが遂に

性につき米國政府と協議中なる旨發表。

十一日 紀元二千六百年特別觀禮式は大元帥陛下の行幸を仰ぎ濱濱沖に舉行され、帝國海軍の偉容を御觀覽、長くも優渥なる勳語を賜ひ全將兵を御激勵遊ばさる。

十二日 新日本の歴史を對すべき大政翼贊會の發會式首相官邸に開かる。

十三日 ソソ聯はアルト河とダニュープ河合流點に長距離砲を設置兩河に多數の快速艇を集結しルーマニア國境に備ふ▽大政翼贊運動展開・三國同盟締結祝賀國民大會開かる。

十五日 殉忠の英靈一萬四千柱を永へに祀る招魂式の儀は靖國神社臨時大祭に先立ちこの夜九段の神域に行はる▽日支國交調整の原則に基き廣東に於ける軍管理省市警九工場を支那側に返還▽印度ガンジー翁不服從運動展開。

十八日 天皇、皇后兩陛下靖國神社に行幸、

の兵力集結▽蘭貢、シソガポールでも邦人四名英官憲に逮捕さる。

五日 米國上院陸軍委員會強制徵兵案可決。

九日 英政府我國に對し、上海、北支及び天津駐在英軍隊の撤退決定を通告し來る。

十日 今朝海門上陸の我南支隊陸隊陸隊は忽ち海門城占領▽我猛爆に重慶凄慘。

十一日 獨對英總攻撃の火蓋切り相次ぐ英本土空襲。

十三日 英佛海峽に於て最初的大海戰行はる▽去る五月ベルー、リマ暴動に於ける邦人避難民二百十四名歸國。

十五日 六十年の歴史を擲つて民政黨は新體制確立のため解黨宣言決議す。

十六日 英軍子製造販賣禁止▽獨空軍つひに英首都倫敦空襲。

十八日 西半球防衛のため米加共同防衛考究委員會を設置。

の氏名陸海軍より發表さる。

二十二日 幾多の曲折を経て日・佛印協定遂に成立す▽シソガポール政府邦人五名を檢査。

二十三日 皇軍は日・佛印協定に基き佛印北部に平和的進駐開始せし一部不法射撃を受けた處あり我方より抗議提出。

二十四日 現内閣基本國策の一たる「國土計畫設定要綱」決定。

二十五日 南支軍は日・佛印協定に基き對支作戰上一時的に軍の一部を佛印海防へ海路進駐。

二十六日 米大統領は西半球諸國及び英國以外への所屬並に鐵鋼の輸出を禁止▽我が海路進駐部隊平和裡に海防附近へ上陸完了。

二十七日 日獨伊三國政府は兼て三國同盟に關する條約交渉に就き東京、ベルリン、ローマに於て各々折衝を進めて居たが遂に

性につき米國政府と協議中なる旨發表。

十一日 紀元二千六百年特別觀禮式は大元帥陛下の行幸を仰ぎ濱濱沖に舉行され、帝國海軍の偉容を御觀覽、長くも優渥なる勳語を賜ひ全將兵を御激勵遊ばさる。

十二日 新日本の歴史を對すべき大政翼贊會の發會式首相官邸に開かる。

十三日 ソソ聯はアルト河とダニュープ河合流點に長距離砲を設置兩河に多數の快速艇を集結しルーマニア國境に備ふ▽大政翼贊運動展開・三國同盟締結祝賀國民大會開かる。

十五日 殉忠の英靈一萬四千柱を永へに祀る招魂式の儀は靖國神社臨時大祭に先立ちこの夜九段の神域に行はる▽日支國交調整の原則に基き廣東に於ける軍管理省市警九工場を支那側に返還▽印度ガンジー翁不服從運動展開。

十八日 天皇、皇后兩陛下靖國神社に行幸、

